

佐賀市文化財調査報告書第28集

なんしゆく ほんむら あだか
南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡
むたより むらとくなが ふるむら
牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡

平成2年3月

佐賀市教育委員会

佐賀市文化財調査報告書第28集

なんしゆく ほんむら あだか
南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡
むたより むらとくなが ふるむら
牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡

平成2年3月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

佐賀市域の農業基盤整備事業は昭和56年度から開始され、本年度で9年目をむかえます。昭和63年度までに6遺跡の発掘調査を実施しました。本年度は、南宿遺跡・本村遺跡（久保泉東部地区）、村徳永遺跡・古村遺跡（久保泉西部地区）、阿高遺跡（北川副地区）、牟田寄遺跡（兵庫南部地区）の発掘調査を行い、弥生時代から中世の所産である遺物・遺構を多数検出しました。

主な出土遺物には、弥生土器（甕・壺・高杯）、土師器（甕・杯・皿）、瓦器（碗・皿）、磁器（碗・皿）、青銅製品（鏡）などがあります。主な検出遺構には、堀立柱建物・竪穴住居・周溝状遺構・井戸・土壇墓などがあります。なかでも、本村遺跡6区の土壇墓に副葬されていた青銅製柄鏡は、佐賀市域では初めて出土したもので、当時の葬送儀礼を知るうえで貴重な資料となります。

今回の調査で得られた貴重な資料を市民のみなさんの歴史学習や考古学の研究資料として有効に活用していく所存です。

最後になりましたが、調査に御指導いただきました佐賀県教育委員会文化課や、御協力いただいた地元のみなさんに深く感謝する次第です。

平成2年3月

佐賀市教育委員会
教育長 山田 清人

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成元年度に実施した南宿遺跡・本村遺跡（3・4・5・6区）・阿高遺跡（B地区）・牟田寄遺跡（A地区）・村徳永遺跡（D地区）・古村遺跡（1・2区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は国庫補助を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在および規模などは以下のとおり。

遺 跡 名	遺跡登録番号	遺跡略号	調 査 地	開 発 面 積	調査対象面積	調査実施面積	遺跡調査番号	調 査 期 間
南 宿 遺 跡	3059・5029	NSK	久保泉町大字下 和泉字永屋	550,000㎡	550㎡	434㎡	0102	自4月10日 至4月19日
本 村 遺 跡	2039・3055 5024	HMR-3 4・5・6	久保泉町大字下 和泉字本村	600,000㎡	18,400㎡	1,041㎡	0105	自6月6日 至10月31日
阿 高 遺 跡	2018・3111 4033・5113	ADK-B	北川副町大字光 法字阿高	352,000㎡	2,600㎡	650㎡	0104	自6月3日 至8月24日
牟 田 寄 遺 跡	2094・3110 4030・5076	MTY-A	兵庫町大字瓦町 字牟田寄	155,000㎡	3,000㎡	750㎡	0107	自6月9日 至11月15日
村 徳 永 遺 跡	2037・3054 5023	MTN-D	久保泉町大字上 和泉字村徳永	220,000㎡	64,500㎡	833㎡	0106	自6月6日 至12月18日
古 村 遺 跡	2045・3063 5033	FMR-12	久保泉町大字上 和泉字古村	220,000㎡	10,900㎡	2,306㎡	0108	自6月21日 至12月18日

4. 発掘調査及び整理業務の分担は以下の通り。

表土除去	有限会社江下建設	遺構写真	福田義彦・木島慎治・前田達男
空中写真	有限会社空中写真企画		加藤元信・西田巖
全体遺構実測	新栄地研工業有限会社	個別遺構実測	福田・木島・前田・加藤・西田
	新九州測量設計株式会社	遺物復元	野中すやこ・古賀栄子・古賀尚子
	朝日測量設計有限会社	遺物実測	前田・西田・野中・古賀尚子
	(有)若楠測量設計	製図	前田・西田・野中・古賀尚子

5. 調査・整理記録類及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（本庄町大字本庄1121番地）で一括保管している。巻末の収蔵品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆は、各調査担当者が行い、分担は文末にこれを明記した。編集については西田巖の支援を受け、前田達男がこれにあたった。

本文目次

I. 序 説	1	4. 遺物各説	29
1. 調査にいたる経過	1	VI. 牟田寄遺跡の記録	33
2. 調査の組織	1	1. 遺跡の位置と環境	34
II. 南宿遺跡の記録	3	2. 調査の概要	35
1. 遺跡の位置と環境	4	3. 遺構各説	35
2. 調査の概要	5	4. 遺物各説	38
3. 遺構各説	5	VII. 村徳永遺跡の記録	41
4. 遺物各説	9	1. 遺跡の位置と環境	42
III. 本村遺跡の記録	13	2. 調査の概要	43
1. 遺跡の位置と環境	14	3. 遺構各説	44
2. 調査の概要	16	4. 遺物各説	46
3. 遺構各説	16	VII. 古村遺跡の記録	49
4. 遺物各説	20	1. 遺跡の位置と環境	50
V. 阿高遺跡の記録	23	2. 調査の概要	51
1. 遺跡の位置と環境	24	3. 遺構各説	51
2. 調査の概要	25	4. 遺物各説	54
3. 遺構各説	25		

挿図目次

Fig. 1 佐賀市域主要遺跡分布図	2	Fig. 12 SB103実測図	16
Fig. 2 南宿遺跡調査区設定図	4	Fig. 13 SK604・605・606・608・609実測図	17
Fig. 3 南宿遺跡遺構配置図	5	Fig. 14 SP601実測図	18
Fig. 4 SE001実測図	6	Fig. 15 SE301実測図	19
Fig. 5 SK003・004・013・014実測図	7	Fig. 16 本村遺跡出土遺物実測図 1	20
Fig. 6 SR002・008実測図	8	Fig. 17 本村遺跡出土遺物実測図 2	21
Fig. 7 南宿遺跡出土遺物実測図 1	10	Fig. 18 本村遺跡出土遺物実測図 3	22
Fig. 8 南宿遺跡出土遺物実測図 2	11	Fig. 19 阿高遺跡 B 地区調査設定図	24
Fig. 9 南宿遺跡出土遺物実測図 3	12	Fig. 20 阿高遺跡 B 地区遺構配置図	25
Fig. 10 本村遺跡 3・4・5・6 区調査区設定図	14	Fig. 21 SK005実測図	26
Fig. 11 本村遺跡 3・4・5・6 区遺構配置図	15	Fig. 22 SK011実測図	26

Fig. 23	SK015実測図	27	Fig. 43	SK007・031・SE151実測図	43
Fig. 24	SK025実測図	27	Fig. 44	SB162・163・165実測図	45
Fig. 25	SK032実測図	27	Fig. 45	村徳永遺跡D地区出土遺物実測図1	46
Fig. 26	SE006・007実測図	28	Fig. 46	村徳永遺跡D地区出土遺物実測図2	47
Fig. 27	SE017実測図	28	Fig. 47	村徳永遺跡D地区遺構配置図	48
Fig. 28	SE022実測図	28	Fig. 48	古村遺跡1・2区調査区設定図	50
Fig. 29	SE023実測図	29	Fig. 49	SK218実測図	51
Fig. 30	阿高遺跡B地区出土遺物実測図1	30	Fig. 50	SK223・224・225・226実測図	52
Fig. 31	阿高遺跡B地区出土遺物実測図2	31	Fig. 51	SE221実測図	53
Fig. 32	牟田寄遺跡A地区設定図	34	Fig. 52	SH220実測図	54
Fig. 33	牟田寄遺跡A地区遺構配置図	35	Fig. 53	古村遺跡1区包含層出土遺物実測図	55
Fig. 34	SK006実測図	36	Fig. 54	SK218出土遺物実測図	56
Fig. 35	SK016実測図	36	Fig. 55	SH220出土遺物実測図	56
Fig. 36	SE004実測図	37	Fig. 56	SE221出土遺物実測図	57
Fig. 37	SE005実測図	37	Fig. 57	SK223出土遺物実測図	58
Fig. 38	SE014実測図	38	Fig. 58	SK224出土遺物実測図	59
Fig. 39	SD001・002実測図	38	Fig. 59	SK225出土遺物実測図	59
Fig. 40	牟田寄遺跡A地区出土遺物実測図1	39	Fig. 60	SK226出土遺物実測図	60
Fig. 41	牟田寄遺跡A地区出土遺物実測図2	40	Fig. 61	古村遺跡1・2区遺構配置図	62
Fig. 42	村徳永遺跡D地区調査区設定図	42			

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査区ごとに連番号をつけ、番号の前に遺構分類記号をつけた。分類は以下のとおり。

SA：棚列	SB：掘立柱建物	SC：箱式石棺墓・石蓋土墳墓	SD：溝	SE：井戸	SH：竪穴住居	SJ：妻棺墓
SK：土墳	SP：土墳墓・木棺墓	SR：方形周遺構	SS：支石墓	ST：古墳	SX：不明遺構	P：小穴・柱穴

2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 特に注記のないかぎり、表示した方位はすべて座標北（G，N）である。遺構の方位角を表示する場合は30'単位でこれを行う。
4. 遺物実測図のうち、断面を黒ヌキにしている容器類は、須恵器・須恵質土器を表現している。

I. 序 説

1. 調査にいたる経過

佐賀市の農業基盤整備事業は平成元年度事業分として297.2ha（従前面積）が計画された。これに伴い、昭和62年11月に14.9ha、昭和63年11・12月に272.3ha、平成元年5月に10haの埋蔵文化財確認調査を実施した。その結果、4工区に6遺跡が確認された。この調査結果をもとに、佐賀県農林部・佐賀県教育委員会文化課・佐賀市土地改良課・佐賀市教育委員会の四者で協議を行い、水路・地下げなどでどうしても遺跡が削平される24,056㎡について、埋蔵文化財の発掘調査を実施することになった。このうち遺跡面積の4分の1にあたる6,014㎡について国庫補助事業で対応し、残りの遺跡面積18,042㎡は佐賀県農林部からの委託事業で実施した。国庫補助事業対応の各遺跡面積の内訳は例言のとおりである。

発掘調査は平成元年4月10日から同年12月20日まで実施し、出土遺物の整理作業及び報告書作成は平成元年8月から同2年3月にかけて佐賀市文化財資料館で行なった。

（福田）

2. 調査組織

調査主体 佐賀市教育委員会

事務局	佐賀市教育委員会	社会教育課
	社会教育課長	古川靖邦
	課長補佐兼文化係長	中野和彦
	事務吏員	甲木亮一（庶務担当）
		福田義彦（調査担当）
		木島慎治（調査担当）
		前田達男（調査担当）
	嘱託員	加藤元信（調査担当）
		西田巖（調査担当）

調査協力 地元各位、佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、佐賀市土地改良課、久保泉土地改良区、北川副土地改良区、兵庫町牟田寄地区



Fig. 1 佐賀市域主要遺跡分布図

1. 南宿遺跡
2. 本村遺跡
3. 村徳永遺跡
4. 古村遺跡
5. 阿高遺跡
6. 牟田寄遺跡
7. 銚子塚古墳
8. 西隈古墳
9. 帯隈山神籠石
10. 鈴隈遺跡
11. 西原古墳
12. 丸山遺跡
13. 藤付遺跡
14. 金立開拓遺跡
15. 六本黒木遺跡
16. 大日遺跡
17. 大門西遺跡
18. 三郎山遺跡
19. 黒土原遺跡
20. 関行丸古墳
21. 泉遺跡
22. 泉三本栗遺跡
23. 上和泉遺跡
24. 立野遺跡
25. 東千布遺跡
26. 琵琶原遺跡
27. 佐賀工場団地内遺跡
28. 佐賀城跡
29. 柴尾橋下流遺跡
30. 蓮池上天神遺跡
31. 鍋島本村南遺跡
32. 来迎寺遺跡

南 宿 遺 跡

II. 南宿遺跡の記録

1. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

南宿遺跡は、佐賀市の北東部にあたり、久保泉町大字下和泉字南宿・永屋に所在し、佐賀市中心部の佐賀市役所より北東約6kmに位置する。周辺は南にむかって広がる水田地帯で、今回の調査地点は、その中の高畑にあたり、標高6m前後で遺構が検出された。

(2) 歴史的環境

南宿遺跡の周辺は、周知された遺跡が密集するが、発掘調査例は未だ多くはない。南宿遺跡周辺で調査が行われた遺跡について、時代順にふれることにしたい。

縄文時代遺跡の調査例はほとんどなく、村徳永遺跡の今年度調査で晩期の遺構・遺物が検出されたのみである。弥生時代遺跡の調査例としては、琵琶原遺跡・泉三本栗遺跡・立野遺跡・村徳永遺跡があり、特に村徳永遺跡の今年度調査では規模の大きな後期の集落が確認された。古墳時代遺跡の調査例としては、琵琶原遺跡・泉三本栗遺跡・古村遺跡があり、特に琵琶原遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居が多数検出された。古代遺跡の調査例としては、上和泉遺跡・大日遺跡・古村遺跡があり、特に大日遺跡では掘立柱建物群が検出され注目される。中世遺跡の調査例としては、泉三本栗遺跡・立野遺跡・村徳永遺跡・本村遺跡があり、特に本村遺跡1区では、方形区画の溝とともにその内部に掘立柱建物群・井戸・土壇等が検出

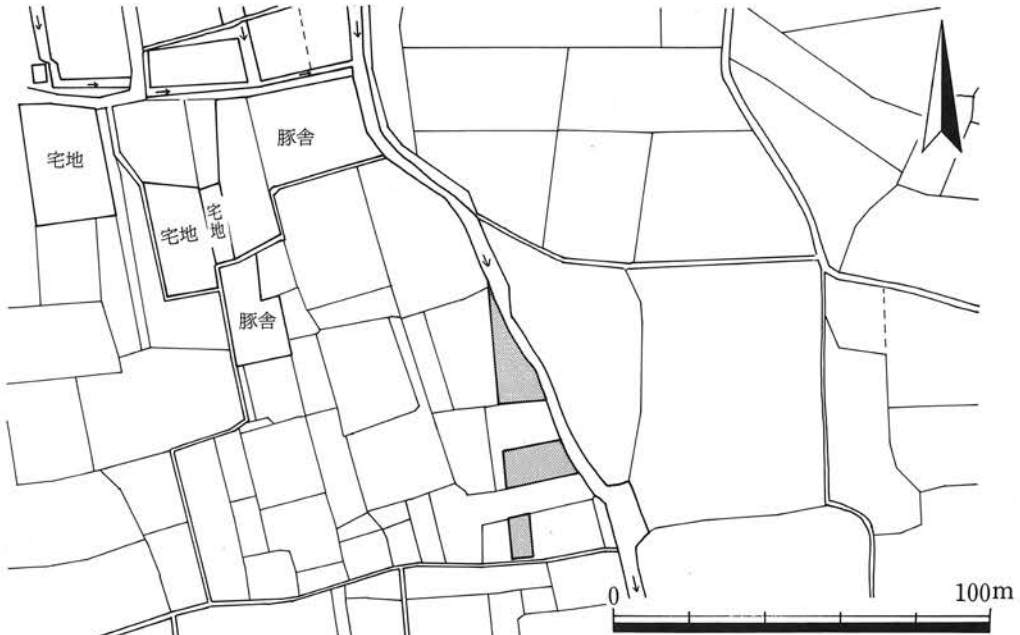


Fig. 2 南宿遺跡調査区設定図(S = 1/2,000)

され注目される。

2. 調査の概要

調査はまず機械力による表土の除去作業から開始した。表土の除去作業を進めていくうち、東西方向に2本の旧水路が調査区を横断し、調査区が3分割されることがわかった。北からI区・II区・III区と呼称する。

表土の除去作業が終了すると、遺構検出作業を行い、遺構の掘削を開始した。検出面は主に褐色砂質土で形成されていて、遺構はこれに黒褐色あるいは暗褐色の有機質土が落込んだ状態で、その判別は比較的容易であった。

遺構の掘削作業と並行して任意の測量基点を設定し、平板測量による遺構配置図を作成した。主要な遺構については、1/20の個別遺構図を作成した。

検出された主な遺構は井戸2基・土壇9基・溝3条・周溝状遺構3基である。出土遺物は、少数の近世遺物の他は大部分は弥生時代中期のもので一部に後期の遺物が出土した。

3. 遺構各説

SE001井戸 (Fig. 4)

II区東端に検出した。長軸2.2m・短軸1.7mを計る不整楕円形の平面形をなす。深さは1.1m、壁はきつく立ち上がり、底面は浅いレンズ状で、断面形は二段掘りの形状を示す。埋土は5層に大別されるが、すべて自然堆積によるものと判断できる。第3層には多量の弥生土器が集中し、一時に土器の投棄が行われたものと考えられる。底部付近で多量の木片が出土し、竪杵の欠損品が含まれていた。

SK003土壇 (Fig. 5)

II区西端でSR002に近接して検出された。長径2.6m・短径1.0m深さ0.1~0.5mで、長楕円形に近い平面形をなす。壁はきつく立ち上がり、断面

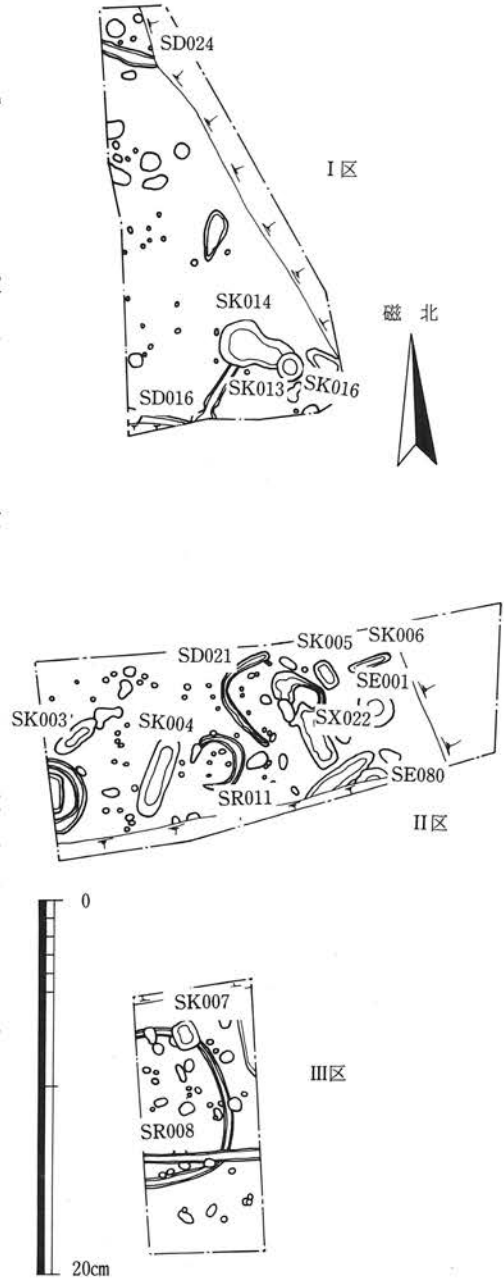


Fig. 3 南宿遺跡遺構配置図 (S=1/400)

南宿遺跡

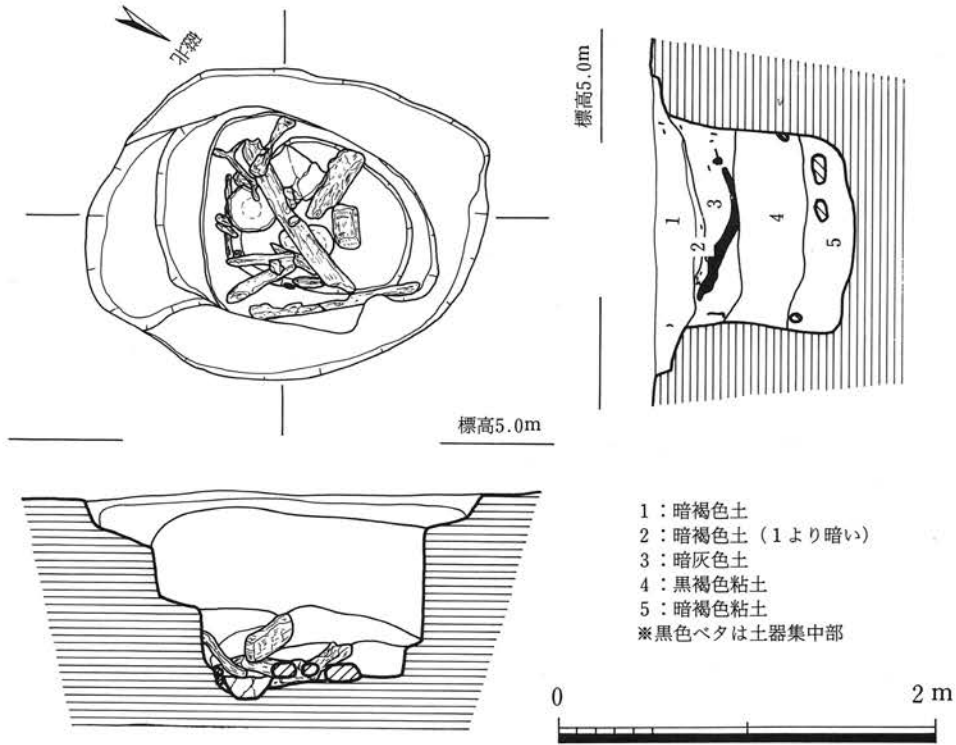


Fig. 4 SE001 実測図 (S = 1/40)

形は逆台形状を示す。西側は浅く平坦面をなし、東側の深い部分から多量に弥生土器が出土したが、底面より浮いた状態であり、埋没する過程で一括投棄されたものと判断される。

SK004土壌 (Fig. 5)

II区の西側で検出された。長軸4.3m・短軸1.1m・深さ0.2~0.4mで、隅丸長方形に近い平面形をなす。壁はきつく立ち上がり、断面形は逆台形状を示す。底面は、ほぼ平坦で、中央と北に小土壌が検出された。埋土は黒褐色系の有機質土であった。埋土中から多量に弥生土器が出土したが、底面より浮いた状態であり、埋没する過程で一括投棄されたものと判断される。

SK013土壌 (Fig. 5)

I区の南側で検出された。SK014を切る。埋土は黒褐色系の有機質土で、切り合い関係は明瞭。長径1.6m・短径1.3m・深さ0.3~0.5mで、不整短楕円の平面形をなす。壁はきつく立ち上がり、断面は二段掘りの形状を示す。埋土中から浮いた状態で弥生土器が出土した。

SK014土壌 (Fig. 5)

I区の南側で検出された。SK013に切られる。長軸3.1m以上・短軸1.8~2.4m・深さ0.3mで、隅丸台形状の不整な平面形をなす。壁はゆるく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。北側隅に平坦面を持つ。埋土は暗褐色系の有機質土で、埋土中から弥生土器が出土した。

南宿遺跡

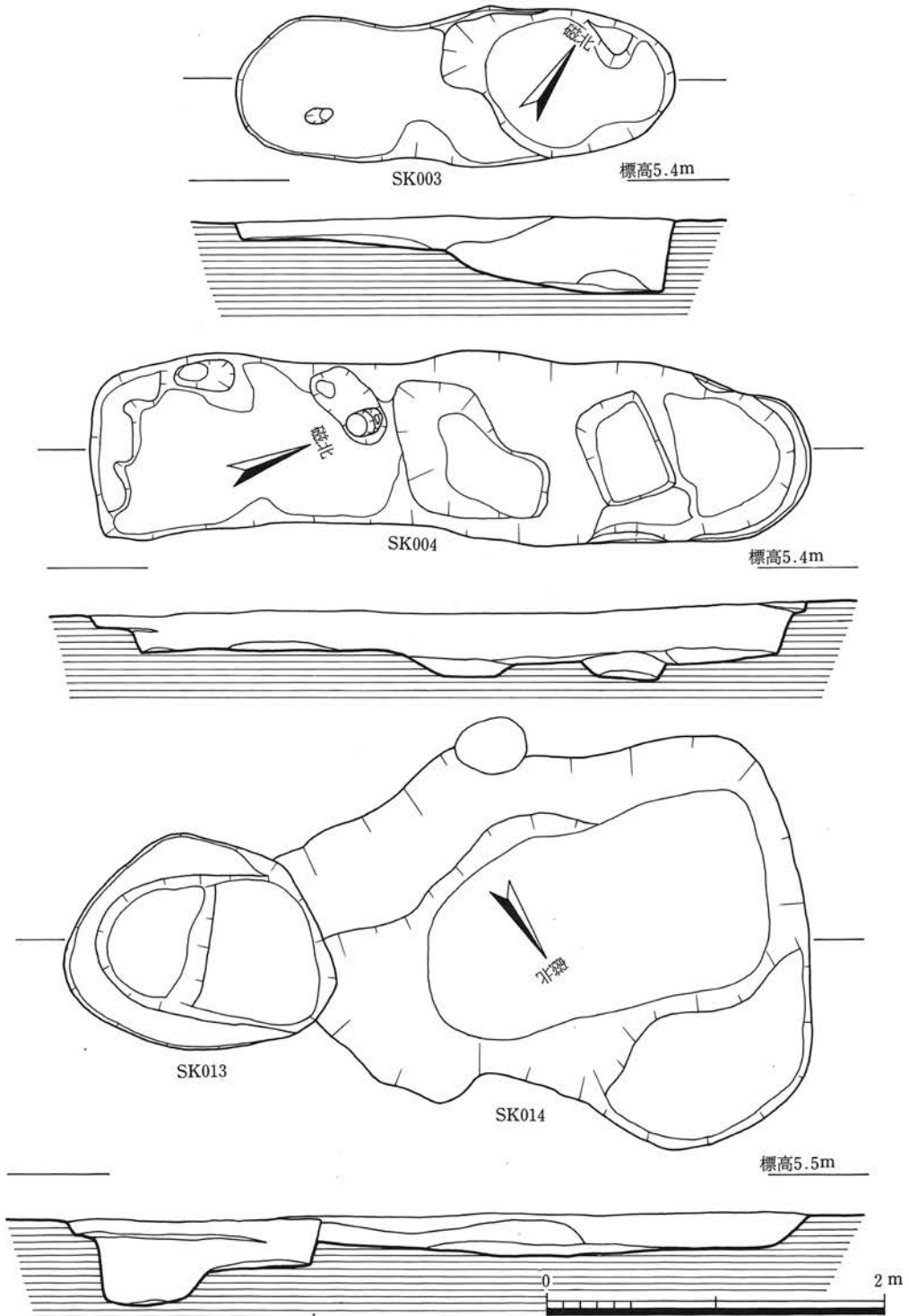


Fig. 5 SK003・SK004・SK013・SK014 実測図(S = 1/40)

南宿遺跡

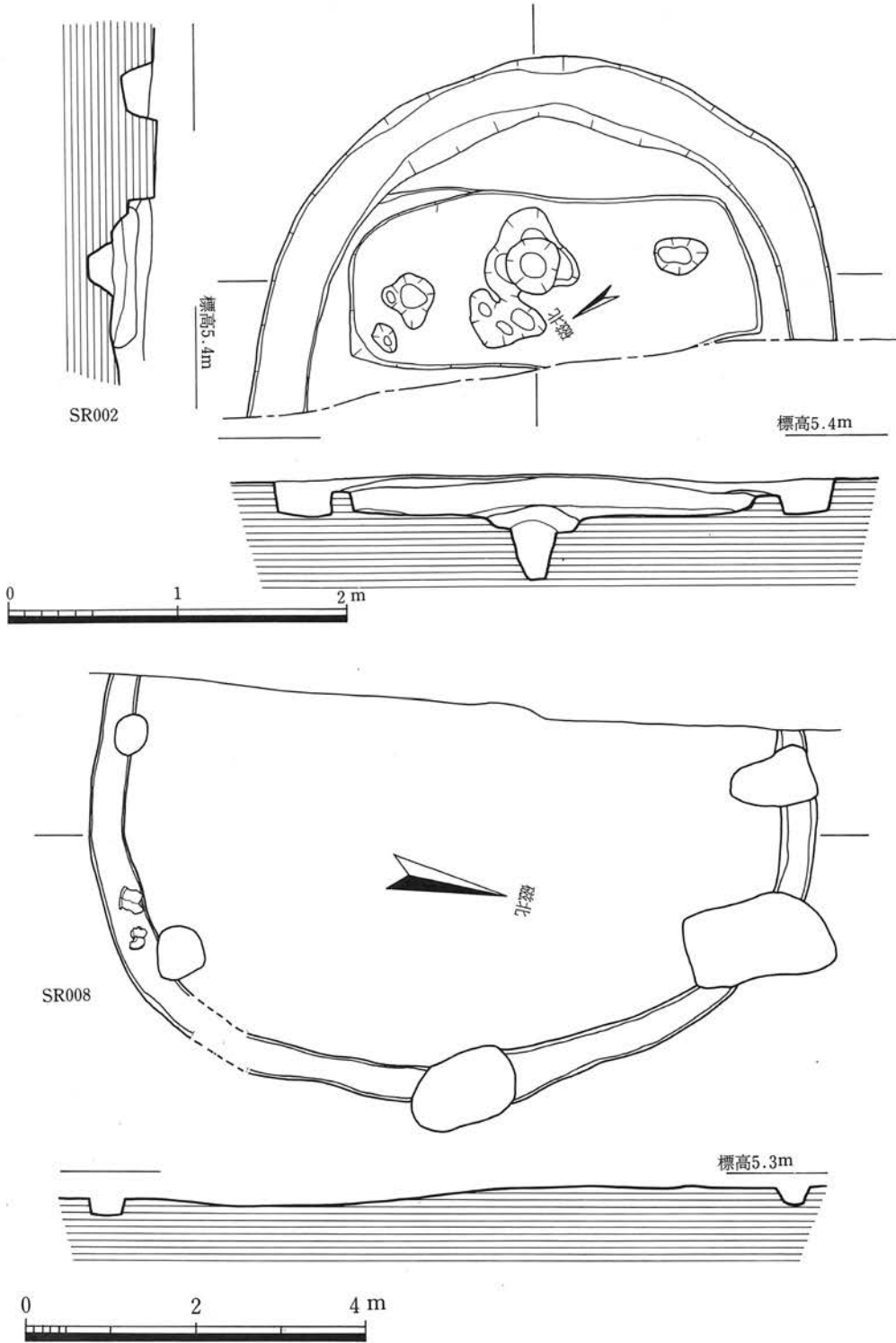


Fig. 6 SR002・008 実測図(002 S = 1/40・008 S = 1/50)

SR002周溝状遺構 (Fig. 6)

II区西端に検出された。半分以上が調査区外に出ているものと思われる。上部から掘り下げたところ、遺構は周溝部分と土壌部分で形成されていることが判明した。平面でも断面においても切り合い関係を把握することができず、同一の遺構であると判断した。埋土は灰黒色系の有機質土で、周溝・土壌部分ともに同じように埋没したものであろう。周溝部分は径3.5m前後になるものと思われ、溝幅0.3~0.4m・深さ0.18~0.23mを計る。断面形は逆台形状をなす。土壌部分は、長軸2.3m・短軸1.0m・深さ0.08~0.17mで、壁はきつく立ち上がり、底面は、舟底状をなし、4個の小穴が検出された。

SR008周溝状遺構 (Fig. 6)

III区に検出された。半分以上が調査区外に出ているものと思われる。径8.6m前後になるものと思われ、溝幅0.3~0.4m・深さ0.02~0.15mで、断面は逆台形状をなす。埋土は黒褐色~暗褐色の有機質土。出土遺物は少数で、南側で弥生土器の甕・壺・鉢が出土した。周溝の内部は削平が激しく、なんらかの遺構が伴っていたかどうかは不明である。

4. 遺物各説

遺物の大半は弥生時代中期の土器である。ここでは、甕・壺・高坏・鉢・蓋・器台・木製品の各器種ごとに、一括して記述を行う。出土遺構(出土位置)は挿図中に明記している。また、遺物番号は、収蔵品目録中のI種資料目録番号と合致させている。

甕 (Fig. 7・8—062・079)

071は復元内口径25.0cm。胴部外面はやや粗い縦方向のハケ目、内面はナデ。077は復元内口径18.2cm・器高24.1cm。胴部外面はハケ目をナデ消し、内面はナデ。内底部に指頭による押圧が観察できる。061は復元口径33.0cm。胴部外面は縦方向のハケ目、内面はナデ。頸部と胴部の一部にかけて黒班がある。004は復元内口径22.0cm。胴部の調整はナデを基調とする。006・007は、口縁内端を内上方につまみ出し、口縁端部に凹みをめぐらす。006は復元口径31.0cm。胴部外面はやや粗い斜方向のハケ目、内面はナデ。007は復元口径36.2cm。030は底径8.5cm。外面は縦~斜方向のハケ目、内面に指頭痕が観察できる。078は底径11.1cm。外面はハケ目をナデ消し、内面は指押さえの後ナデ。026は復元内口径13.8cm。胴部内外面ともにナデ。027は復元内口径14.4cm。胴部内面上位に斜方向のハケ目が観察できる。082は復元口径14.2cm。胴部内外面ナデ、内面には指頭痕が観察できる。079は復元口径11.8cm。胴部外面は斜~横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキを施す。062は胴部外面は斜~縦方向のヘラミガキ、内面はナデで、内外面に丹塗りを施す。

壺 (Fig. 8—065・066・107)

107は復元口径24.2cm。外面に丹塗りを施している。口縁内方に粘土帯を貼りつけ突出させ、頸部に断面「M」状の突帯を貼りつける。内外面とも横ナデ。065・066は、頸部と胴部の境界

南宿遺跡

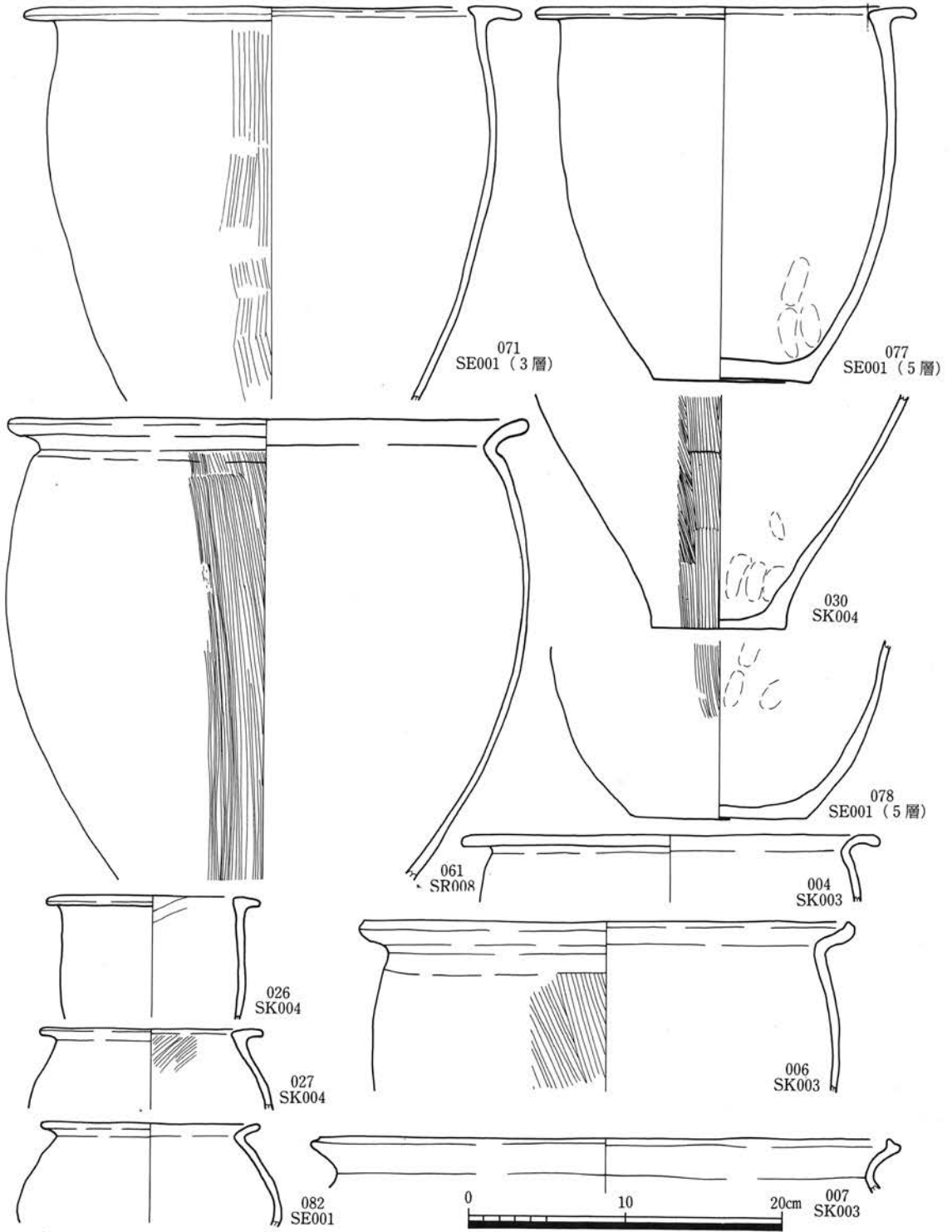


Fig. 7 南宿遺跡出土遺物実測図1 (S = 1/4)

南宿遺跡

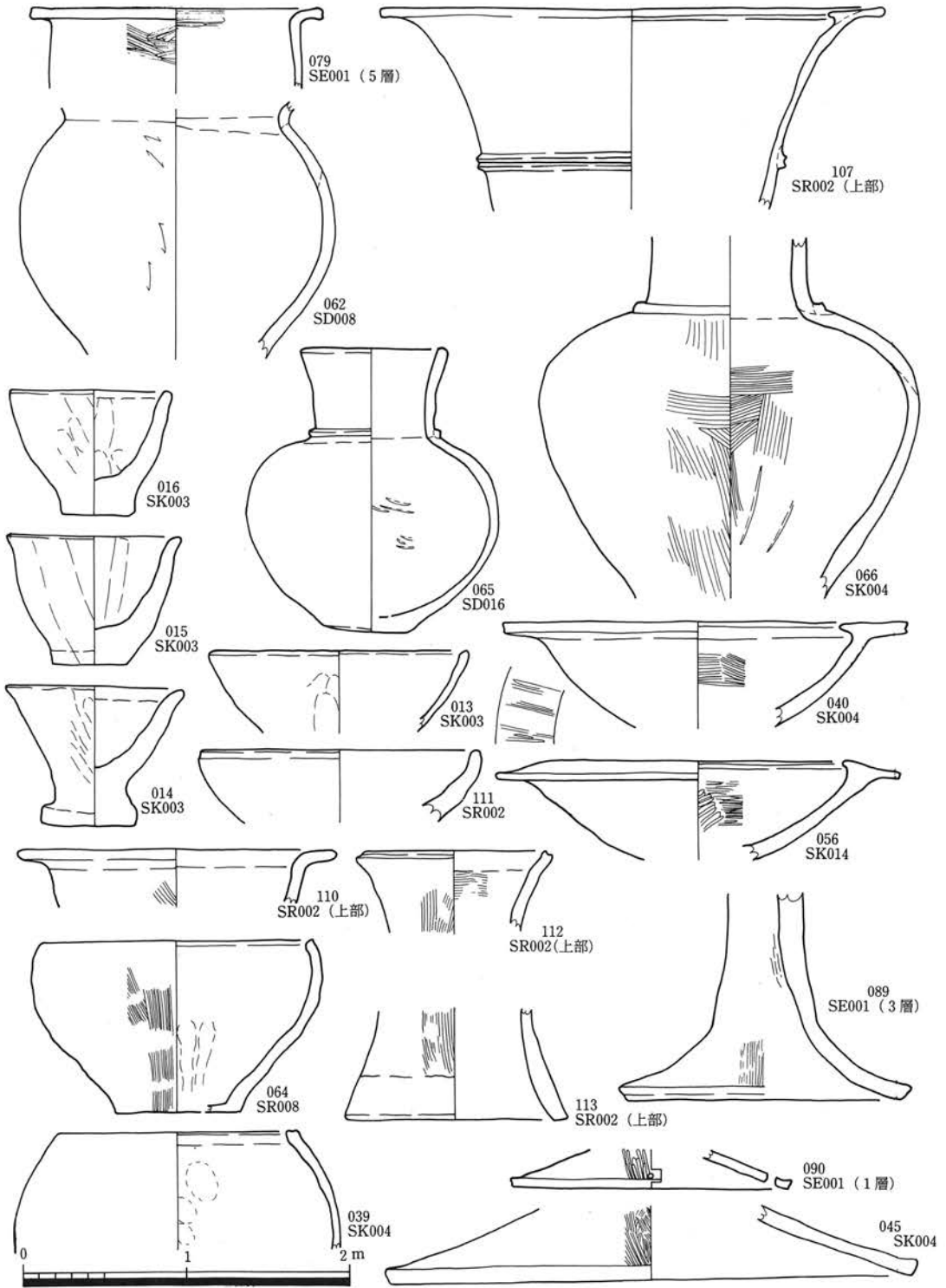


Fig. 8 南宿遺物出土遺物実測図2 (S = 1/4)

に粘土帯を貼りつけ、段を形成する。065は口径8.2cm・器高17.6cm。頸部内外面横ナデ。胴部外面は縦方向の板ナデ、内面は細い工具で削りを施している。066は胴部外面はハケ目をナデ消し、内面は縦横にハケ目を施し下位に削りの痕跡が観察できる。

高 坏 (Fig. 8—040・056・089)

040は復元口径25.8cm。外面は横ナデ、内面にヘラミガキを施す。056は復元口径25.0cm。口唇部にミガキによる暗文を施し、外面は横ナデ。内面は、ヘラミガキを施し、丹塗りの痕跡がある。089は、外面に縦方向のミガキを施し、脚台部内面は横ナデ、脚柱部内面にはしほり痕を有する。

鉢 (Fig. 8—013・014・015・016・039・064・110・111)

015～016は完存かそれに近い。口径9.5～11.0cm・器高7.8～8.7cm。014・016は内外面を指頭による押圧とナデで調整、015は板ナデで調整している。013は復元口径16.0cm。内外面ナデで、外面に指押さえが認められる。111は、器壁が厚く、復元口径16.4cm。内外面横ナデ。110は復元口径18.8cm。甕の系譜をひくものだろう。外面はハケ目をナデ消し、内面は横ナデ。064は復元口径16.6cm・器高10.6cm。口縁部は横ナデ、外面はハケ目、内面はナデで下位から底部に指押さえが認められる。039は復元口径14.8cm。内外面ナデで、内面に指押さえが認められる。

蓋 (Fig. 8—045・090)

045は復元口径32.2cm。外面は斜方向のハケ目で内面はナデ。090は復元口径17.0cm。外面は縦方向のヘラミガキで端部付近は横ナデ、内面は横ナデ調整。

器台 (Fig. 8—112・113)

112は上部破片で、復元口径11.2cm。内外面ともハケ目。113は下部破片で、復元底径13.8cm。外面はハケ目で端部は横ナデ。内面はナデで端部は横ナデ。

木製品 (Fig. 9)

竪杵で、約1/2程度の欠損品と思われる。残存態は不良で、使用痕は不明、削り痕は不明瞭である。残存長48.0cm・最大径7.7cm。

(前田)

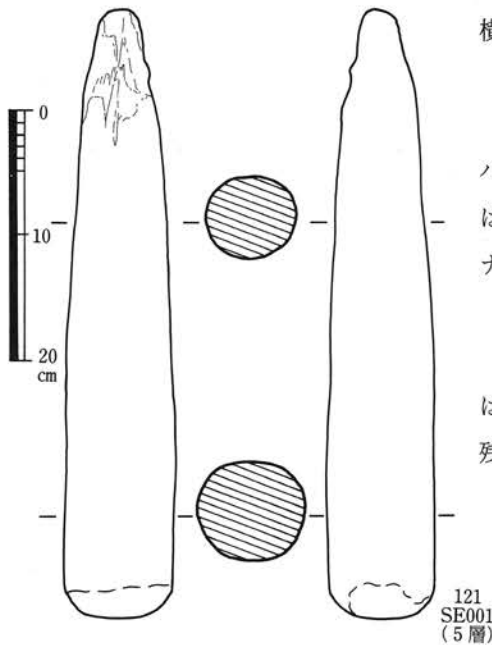


Fig. 9 南宿遺跡出土遺物実測図3 (S = 1/6)

本 村 遺 跡

III. 本村遺跡の記録

1. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

本村遺跡は、佐賀市の北東部にあたり神埼町との市町境に接する。久保泉町大字下和泉字本村・一本松・二本松・永屋に所在し、佐賀市中心部の佐賀市役所より北西約7kmに位置する。

今回の調査地点は、脊振山系から派生した帯隈山の南方に位置し、周辺は広い水田地帯である。遺跡は、この水田地帯に点在する高畑を中心に遺存し、標高6～7mで遺構が検出された。

(2) 歴史的環境

本村遺跡の周辺には周知の遺跡が密集するが、発掘調査例はあまり多くない。ここでは、この地区の発掘調査例を時代順にふれることにしたい。

縄文時代遺跡の調査例はほとんどなく、わずかに村徳永遺跡の今年度調査で晩期の遺構遺物が検出された。弥生時代遺跡の調査例としては、琵琶原遺跡・泉三本栗遺跡・立野遺跡・南宿遺跡・村徳永遺跡があり、村徳永遺跡の今年度調査では後期の規模の大きな集落が確認された。古墳時代遺跡の調査例としては、琵琶原遺跡・泉三本栗遺跡・古村遺跡があり、琵琶原遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居が多数検出された。古代遺跡としては、上和泉遺跡・大日遺跡・古村遺跡があり、掘立柱建物群が検出された大日遺跡が注目される。中世遺跡としては、泉三本栗遺跡・立野遺跡・村徳永遺跡があり、くわえて神埼町尾崎利田遺跡では今



Fig.10 本村遺跡3・4・5・6区調査区設定図(S = 1/2,000)

本村遺跡

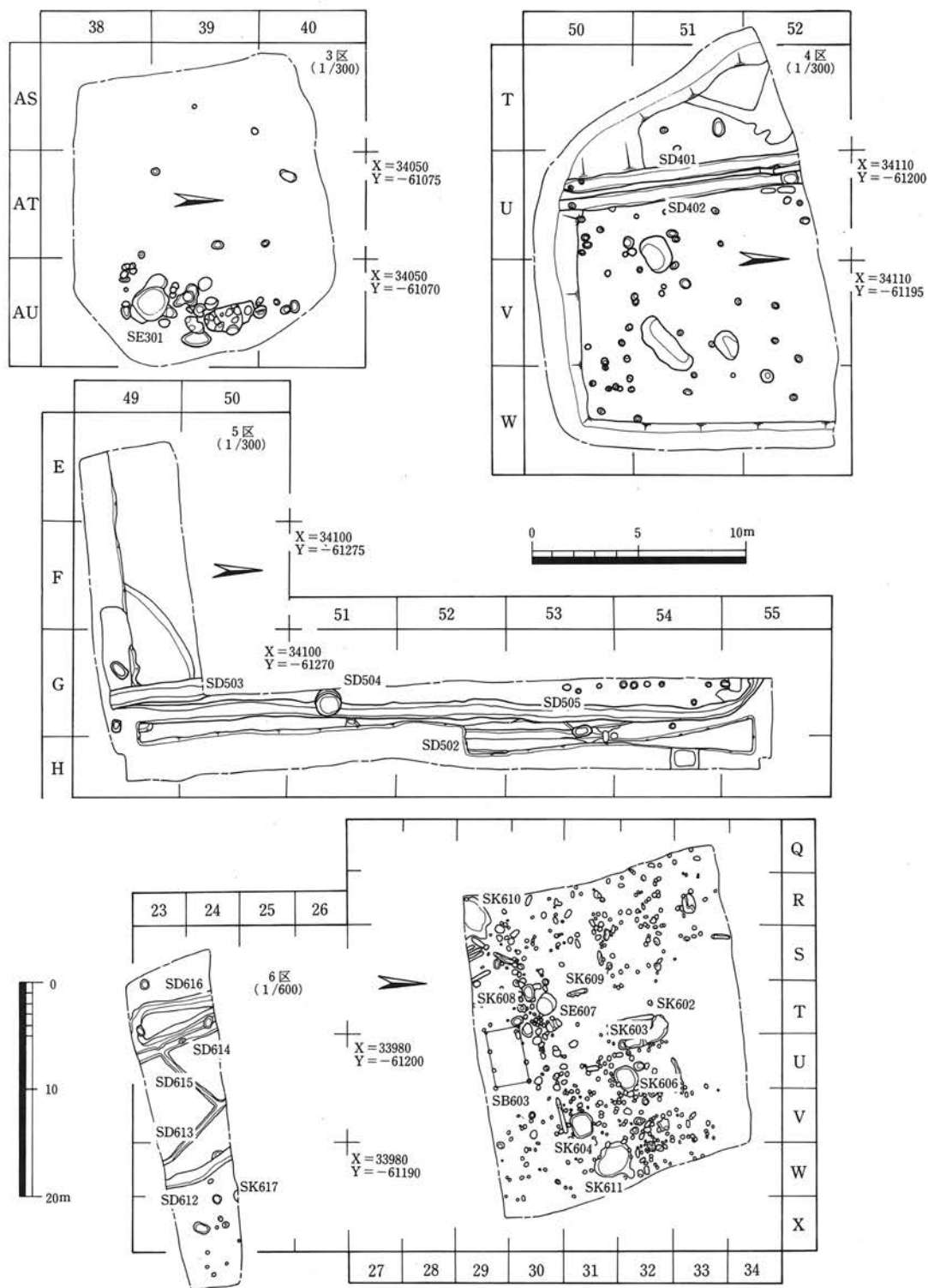


Fig. 11 本村遺跡 3・4・5・6区遺構配置図

回の本村遺跡調査区の東方500mの地点で調査が行われ、その遺構・遺物の内容は本村遺跡の今回の調査成果と合わせて、両遺跡が本来同一のものであったことを窺わせる。

2. 調査の概要

本村遺跡の発掘調査は3・4・5・6区を国庫補助事業として行っている。6区以外は、調査面積が狭いこともあり、まとまった遺構・遺物が検出されていない。1・2区については佐賀市文化財調査報告書第29集を参照されたい。

発掘調査は、機械力による表土の除去作業から開始した。表土を除去すると遺物包含層は存在しなかったため、そのまま遺構検出作業を行い、遺構の掘削を開始した。それに並行して、調査区全面に5m方眼の測量杭を国土座標第II系を基準に設定し、記録作業に入った。

遺構検出面は、黄褐色～褐色砂質土で形成され、その下層は黄色あるいは青灰色の粘土層である。遺構はこのような検出面に黒褐色ないし暗褐色の有機質土が落込んだ状態で、その判別は比較的容易であった。

3区では、井戸1基と小穴が検出されたが、図示に耐える遺物は出土していない。遺構の時期は、井戸と大部分の小穴が中世、他の小穴は近世の所産と思われる。4区では、近接したかたちで南北方向に伸びる2条の溝と小穴が検出された。溝からは糸切り底の土師器坏・瓦器碗片・青磁碗片が出土した。5区では、近世の所産と考えられる南北方向の溝2条が検出された。6区では、中世に属する溝5条・井戸2基・土壇9基・土壇墓1基・小穴多数が検出され掘立柱建物1棟が確認された。6区の遺構が、1・2区で確認されたような方形区画に伴うものか

は判断できない。

3. 遺構各説

SB603掘立柱建物 (Fig. 12)

6区のU・W-28区画に検出した。東西棟建物で主軸N-0°30'-Wにとる。身舎は1間3間で柱間は図示したとおり。各柱穴の掘り方はほぼ円形で、径0.25～0.4cmを計る。

SK604土壇 (Fig. 13)

6区のY-30区画に検出した。長軸2.3m・短軸1.9m・深さ0.3mで、隅丸形状の平面形をなす。壁はややきつく立ち上がり、断面形は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色系の有機質土で、自然堆積によるものと判断する。ごく少数の中世土器の細片が出土しているが図示できるものはない。

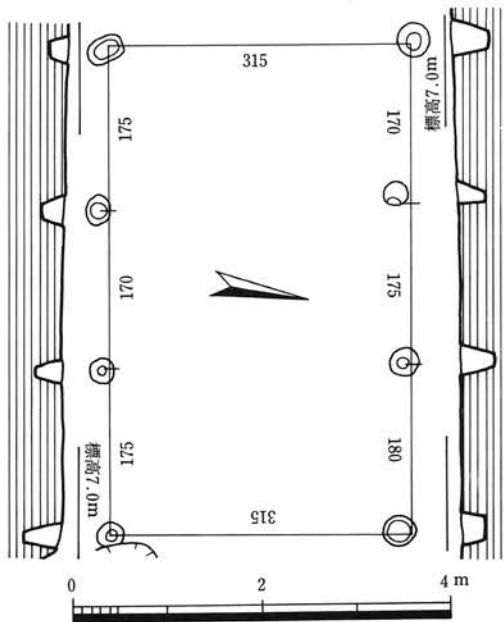


Fig. 12 SB603 実測図 (S = 1/80)

本村遺跡

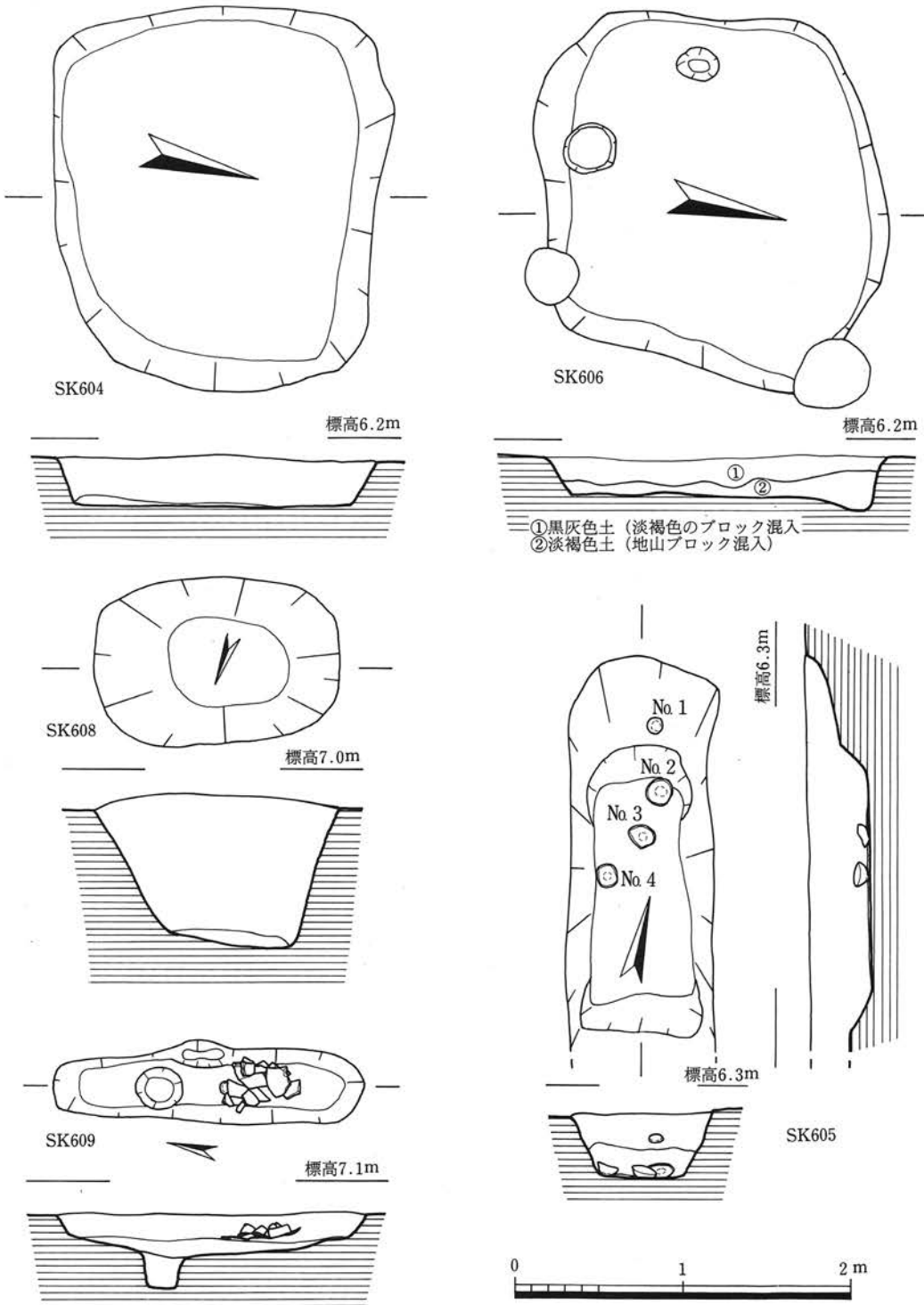


Fig. 13 SK604・605・606・608・609 実測図 (S = 1/40)

SK606と同様な形状と方位角を示すので、集落の中にあつて、同じ機能を果たしていたものではないだろうか。

SK606土壙 (Fig. 13)

6区のU-31・32区画に検出した。長軸2.1m・短軸2.0m・深さ0.2~0.3mで、隅丸形状の平面形をなす。壁はややきつく立ち上がり、断面形は逆台形状である。4個の小穴に上面から切り込まれている。第1層は自然堆積と判断するが第2層は人工的な堆積の可能性がある。第1層から少数の容器類が出土したが図示できるものはない。

SK604土壙 (Fig. 13)

6区のT-29区画に検出した。SE607に近接する。長軸1.5m・短軸1.0m・深さ0.8~0.9mで、隅丸長方形の平面形をなす。壁はきつく立ち上がり、断面形は逆台形状を示す。底面は浅いレンズ状で、西にやや傾く。埋土は黒灰色系の有機質土で、ごく少数の中世土器細片が出土したが図示できるものはない。

SK605土壙 (Fig. 13)

6区のU-31区画に検出した。SK602とともに近世の攪乱土壙に切られる。長軸2.5m以上・短軸0.9m・深さ0.35mで、隅丸長方形の平面形をなしたものとする。東西では壁はきつく立ち上がり、断面形は逆台形状をなし、北側では二段掘の形状を示し一段目の壁はゆるく二段目はきつく立ち上がる。底面は平坦である。暗褐色系の埋土で、自然堆積かどうかは判断できない。一段目の斜面で瓦器小皿1個、底面で瓦器碗3個が埋置されてあつた。土壙墓である可能性が考えられる。

SK609土壙 (Fig. 13)

6区のT-30区画で検出した。長軸1.85m・短軸0.45m・深さ0.15~0.25mで、隅丸長方形の平面形をなす。壁はきつく立ち上がり底面は舟底状。埋土は暗褐色系の自然堆積による有機質土で、中央北側の底面において径0.25m・深さ0.25mの小穴が検出された。底面より浮いた状態で、破損した土師質土器土鍋が大小2個体出土した。埋没の過程で投棄されたものと判断する。

SP601土壙墓 (Fig. 14)

6区のU-30区画に検出した。長軸1.0m・短軸0.6m・深さ0.04mで、平面形は不整長方形をなす。底面は中央南側でやや盛り上がるが概ね平坦である。褐色系の埋土で、北西隅に底面よりやや浮いた状態

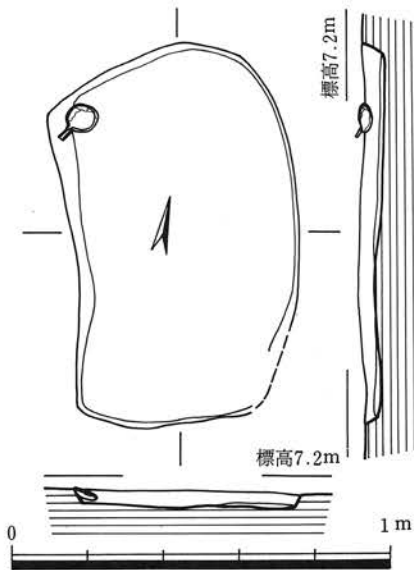


Fig. 14 SP601 実測図 (S = 1/20)

本村遺跡

で銅製柄鏡が出土した。表土剥ぎの際に破損したものである。沈み込んだような出土状況を示すことから木蓋等の上に置かれていたものではないだろうか。壁に木棺の痕跡は確認できなかった。

SD615溝

6区のT-22・23区画に検出した。南北方向の溝で、南端と北端は調査区外に伸びる。U-22区画で東に曲がるコーナー部分があり、SD614を切る。長さ8.0m以上・溝幅1.0~1.5m・深さ0.5~0.7mで、壁の立ち上がりはゆるく、断面は舟底状をなす。埋土は暗褐色系の有機質土で、自然堆積と思われる。ごく少数の中世土器細片が出土したが、図示できるものはない。方形区画の一部を形成する溝である可能性もあるが、6区北側ではこのような溝の続きは検出されておらず、どのような性格の溝であるかは不明である。

SD401・402溝

4区のV-49・50・51区画に検出された、南北方向に20cm程の間隔をおいて並走している溝で、北側は調査区外に伸び南側は削平されて失われている。どちらも、長さ11.5m以上・溝幅0.5~0.8m・深さ0.4~0.6m、断面は底がやや丸い台形状、埋土は黒灰色系の有機質土で、自然堆積と思われる。当初はごく浅い淡褐色土に覆われていて1本の溝と思われたが、5cm程度掘り下げたところで2本の溝であることが判明した。SD402から若干の容器類が出土している。

SE301井戸 (Fig. 13)

3区のAU-37・38区画に検出した。径1.6m・深さ1.1m以上でほぼ円形の平面形をなす。湧水が激しく完掘できなかった。断面形は二段掘の形状を示し、壁はきつく立ち上がる。下部には木製曲物がまわしてある。埋土は淡褐色系の有機質土で、上部より少数の中世容器類が出土したが図示できるものはない。3区ではこのSE301以外には小穴・柱穴しか検出されていなくて、状況は不明であるが、集落の外れに位置した井戸であろうか。

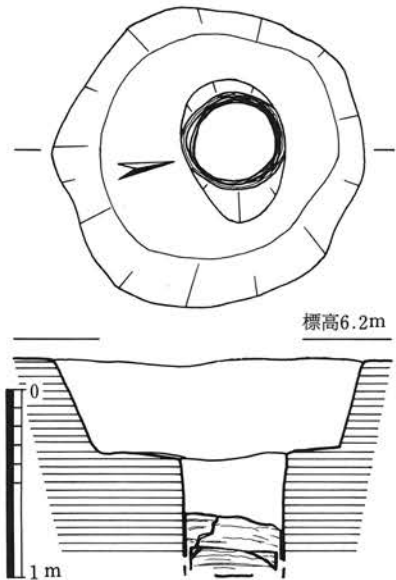


Fig. 15 SE301 実測図 (S = 1/40)

4. 遺物各説

ほとんどが中世に属する容器類で他に土壌墓出土の銅製柄鏡がある。ここでは、土師器・瓦器・青磁器・土師質土器・須恵質土器・青銅製柄鏡の各種別ごとに一括して記述を行う。出土遺構（出土位置）は挿図中に明記してある。また、遺物番号は収蔵品目録中のI種資料目録番号と合致させている。

土師器 (Fig. 16-001・Fig. 17-006・007・008・017・018・019・020・023・027)

001は坏、023は碗と思われ、他は小皿である。

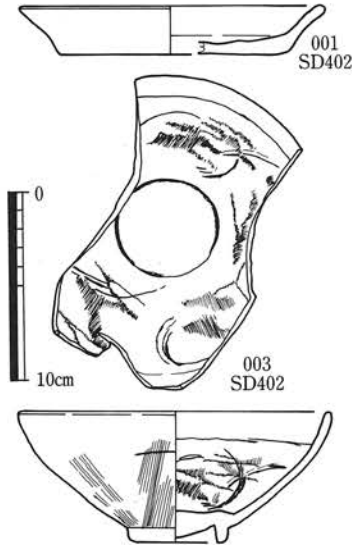
001は糸切り底で、復元口径15.7cm・器高1.9cm。体部内外面回転ナデ調整、底部内面は多方向からのナデ調整である。底部外面に板状圧痕を有する。023は復元口径14.8cm。内外面にヘラミガキを施し、内面上位には「コテあて痕」を有する。

小皿は、007が底部外面回転ヘラ切り、他は回転糸切りである。どれも体部内外面回転ナデ調整、底部内面多方向からのナデ調整を施す。017は口径7.9cm・器高1.6cm。底部に焼成後の穿孔を有する。006は復元口径8.6cm・器高1.4cm。008は復元口径9.0cm・器高1.3cm。018は復元口径9.1cm・器高1.5cm。019は口径9.1cm・器高1.8cm。007は口径9.6cm・器高1.1cm。027はほぼ完形で、口径9.5cm・器高1.2cm。020は復元口径10.3cm・器高1.9cm。

瓦器 (Fig. 17-001・004・005・009・020・011・029・032・036)

001は小皿、他は碗である。どれも、内外面にヘラミガキを施す。001は黒灰色、他は暗灰色～黄灰色の色調を呈する。

001は完存で、口径7.5cm・器高2.1cm。底部外面に回転ヘラ切りの痕跡を有する。009は復元口径15.8cm・器高6.0cm。外面下位に指頭痕がある。010は復元口径16.6cm。外面下位に指頭痕がある。011は復元口径16.9cm・器高6.0cm。外面下位に指頭痕がある。004は完存。歪みが激しく口径14.9～17.1cm・器高4.0～6.35cm。外面下位に指頭痕がある。005は完存。意識的にこのように歪ませたものではないかと思われる。口径15.5～16.5cm・器高4.8～5.8cm。029は完形に近い。口径15.7cm・器高5.6cm。032は復元口径17.9cm・器高5.7cm。036は完存。口径15.5cm・器高5.4cm。外面下位に指頭痕がある。



青磁 (Fig. 16-003・Fig. 17-024)

どちらも緑灰色を呈する。

003は口径14.2cm・器高6.8cm。内外面に櫛状工具による文様を有する。外面下位から高台は露胎し、ヘラ削りを加えた後に文様を施してある。024は高台端部から内側

Fig. 16 本村遺跡出土遺物実測図1 (S = 1/4)

本村遺跡

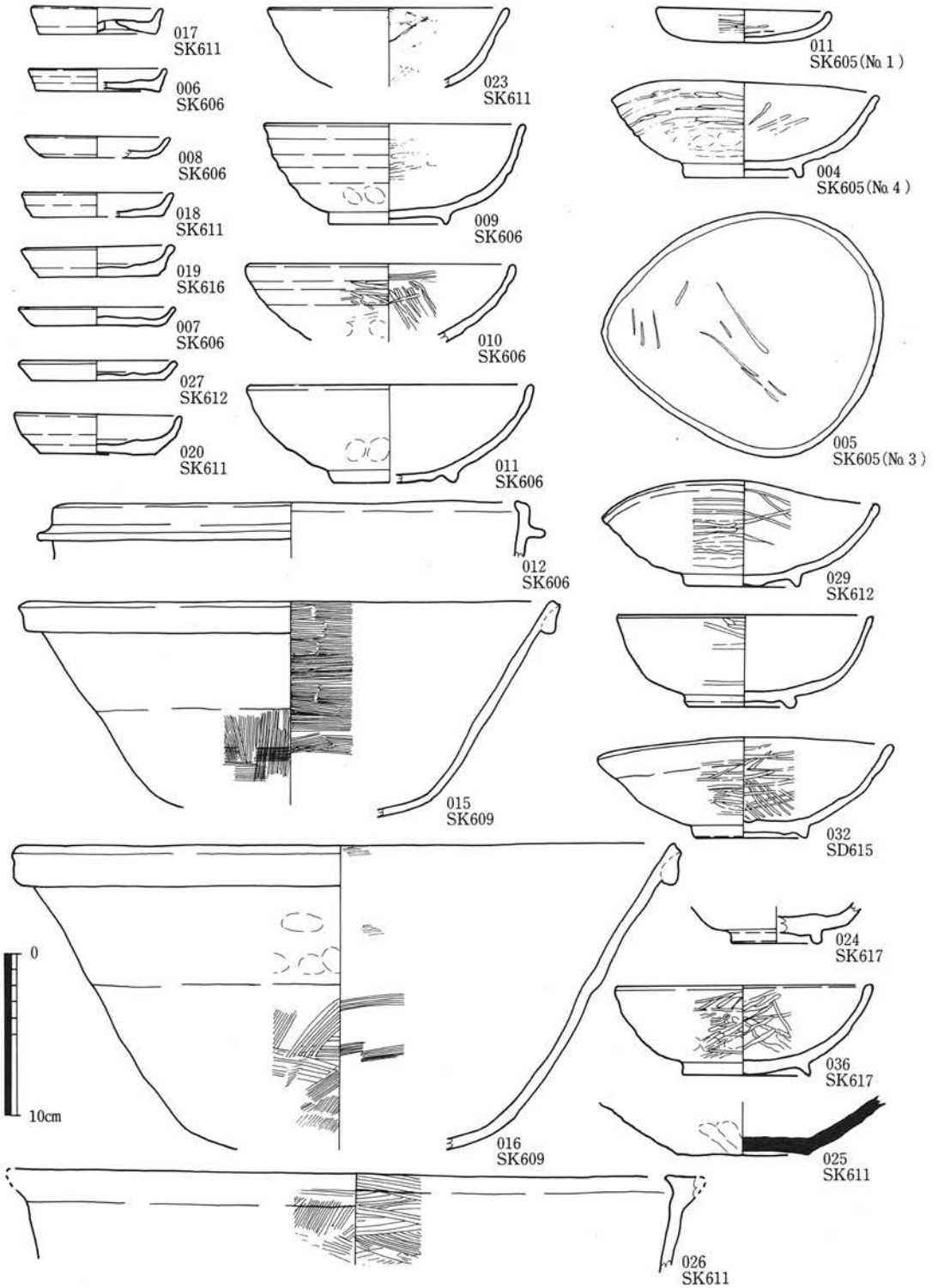


Fig. 17 本村遺跡出土遺物実測図1 (S = 1/4)

本村遺跡

は露胎し、釉のカキトリが認められる。

土師質土器 (Fig. 17-012・015・016・026)

どれも土鍋と思われる。012は貼りつけによる鏝を持つ。復元口径27.0cm。内面は横ナデ調整、外面は一面に煤が付着し調整不明。015は底部が欠損する。口径32.5cm。口縁外面に粘土帯を貼りつけ肥厚させている。外面は一面に煤が付着し、上位はハケ目をナデ消し、下位は縦横にハケ目調整。内面は横方向のハケ目調整。ハケ目の目は細かい。016は復元口径39.1cm。口縁外面に粘土帯を貼りつけ肥厚させている。外面は一面に煤が付着し、上位はハケ目をナデ消し指頭押圧を加え、下位は斜方向のハケ目調整。内面はハケ目をナデ消す。

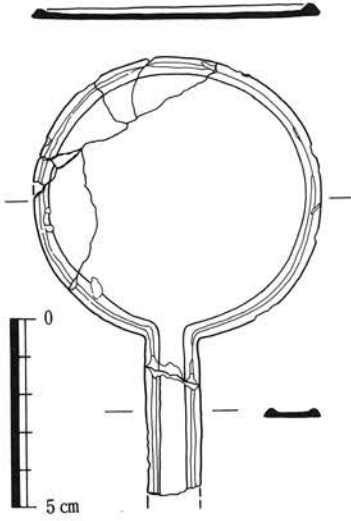


Fig. 18 本村遺跡出土遺物実測図3
(S = 1/2)

026は復元口径36.8cm。口縁上端には押圧による縄目を有する。外面は斜方向のハケ目調整、内面は横方向のハケ目調整。

須恵質土器 (Fig. 17-025)

底部は回転糸切り離して、底径は7.8cmを計る。5~8mm程度の砂粒を含む。外面は回転ナデ調整、内面は調整不明。外面は二次焼成を受けていて、内面には炭化物が付着する。

青銅製柄鏡 (Fig. 18)

無文の青銅製柄鏡で柄の先を欠損する。遺存状況は良好である。残存長10.7cm・径7.6cm・柄幅1.4cmを計る。残存部の背面端部をゆるい三角縁に形成し、その頂部と鏡面端部をわずかに削って面取りを施す。

(前田)

阿 高 遺 跡

IV. 阿高遺跡の記録

1. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

阿高遺跡は佐賀江川中流域の南方1.5kmにあつて標高2.5mを測る水田に所在する。周辺には佐賀平野特有のクレークが縦横に走っている。このような平野のなかに小規模な集落が点在している。阿高集落もその一つで、遺跡は現集落を中心とした広がりをもつものである。今回の調査区はその縁辺部にあたる。

(2) 歴史的環境

阿高遺跡が所在する北川副地区は、佐賀県遺跡分布図では遺跡の存在が想定されていない空白地帯である。今回の調査は同地区で最初の埋蔵文化財発掘調査となった。

周辺遺跡としては、佐賀市域では柴尾橋下流遺跡（昭和56年度調査 弥生時代後期から鎌倉時代の集落跡）、蓮池上天神遺跡（昭和58年度調査 鎌倉時代の集落跡）などがある。また、隣接する遺跡には佐賀郡諸富町の徳富権現堂遺跡・村中角遺跡・唐人廟遺跡・上天津遺跡などがある。



Fig. 19 阿高遺跡B地区調査区設定図(S = 1/2,000)

阿高遺跡

これらの遺跡の発見により、考えられていたよりも早い時期に同地区は陸化し人々の生活空間になっていたことがわかった。今後の調査により遺跡数は増加していくものとする。

2. 調査の概要

調査区は西の宮社（旧郷社）の東側に計画されている支線水路・道路（コンクリート舗装計画）部分である。この地区を便宜上、B区と呼称する。標高は2.5mを測る。

調査の結果、井戸17基・土壌14基・溝2条・小穴等を、地表下0.15～0.25mで検出した。遺構は淡黄灰色の粘土に掘り込まれ、遺構埋土は黒色又は淡黒灰色。

出土遺物は土師器（杯・甕・小皿）・須恵器（杯・横瓶）・瓦器（碗）・磁器（碗）を検出した。

また、同地区は南北方向に計画されている国営幹線排水路（徳永線）と接しており、元来、同一地区ととらえるべきであるが、事業毎の調査となるので徳永線部分はC地区として、平成2年度の発掘調査にあたりたい。

3. 遺構各説

SK005土壌 (Fig. 21)

調査区の北西隅にあって、SE006が南に近接する。上面の平面形は東西に細長い楕円形状を呈する。東側には一段高いフロアーがあり、出土遺物から見ても別遺構の可能性は高いが、その識別はできなかった。検出時の測定値は東西軸2.79m・南北軸1.1m、深さは最深部で0.4mを測る。この遺構は古墳時代の土壌を中世の土壌が切っているものとする。

埋土は上層黒色土、下層褐色土に大別できる。主な出土遺物には、須恵器（甕）・土師器（高杯・手捏土器・杯）などがある。遺構の性格は不明。

SK011土壌 (Fig. 22)

調査区の中央寄りに位置し、周辺にはSE013・022などがある。上面の平面形は西側に上底をもつ隅丸台形状を呈する。東西軸2.78m・南北軸1.65m・深さ0.34mを測る。底面はわずかな起伏があるが、概ね平坦。壁は東部と北部が急角度に、西部と南部が

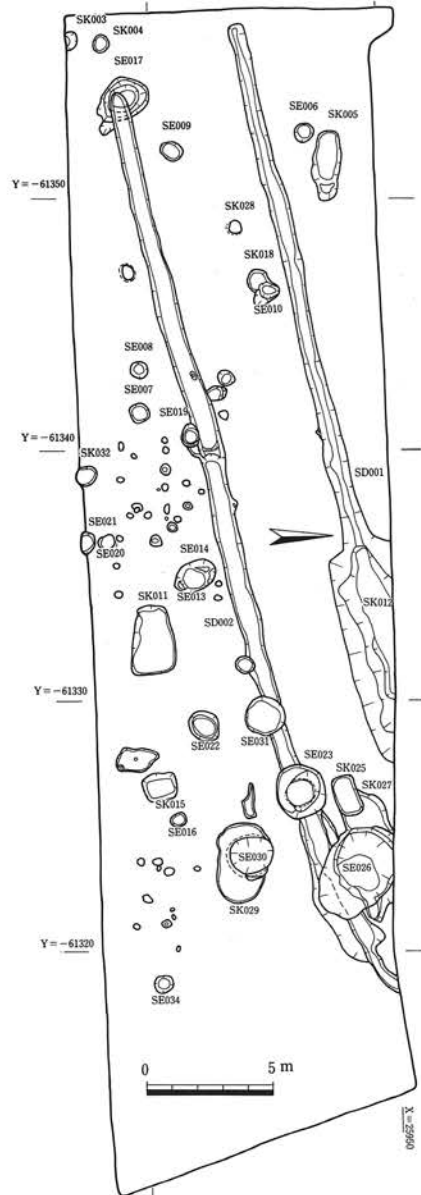


Fig. 20 阿高遺跡B地区遺構配置図 (S = 1/300)

阿高遺跡

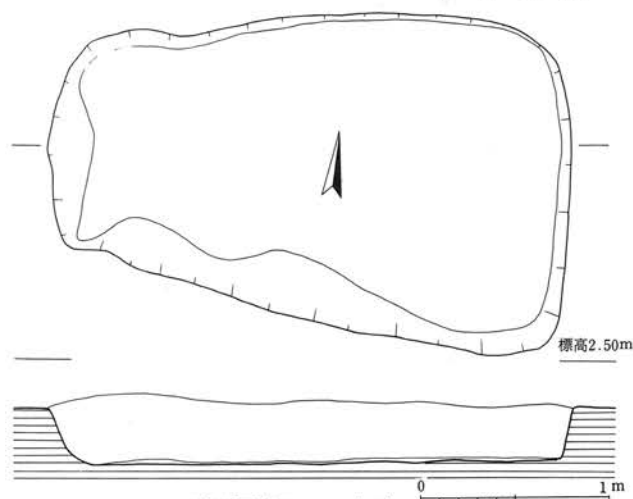


Fig. 21 SK005 実測図 (S = 1/40)

SK015土壌 (Fig. 23)

調査区の東半南寄りにあって、北東1mにSK016がある。上面の平面形は隅丸長方形を呈する。東西軸1.1m・南北軸1.33m・深さ1.17mを測る。底面はわずかな起伏があるが概ね平坦。壁は四方とも角度をもって立ち上がる。

埋土は9層に細分でき、黒色系・黄褐色系に大別できる。堆積状況は図のとおりで、下層になるにつれて黄色味を増す。遺物は埋土全域から検出したが細片が多い。

本遺構はその形態から墳墓に類するものと考えていたが埋土に井戸で検出されるものと同じ薬灰状物質を多量に確認したので、その可能性は低いものと考えざるを得ない。また、墳墓に見られる副葬品と考えられるものは出土していない。この遺構は鎌倉時代から室町時代にかけての所産と思われる。

SK025土壌 (Fig. 24)

調査区の北東部にあって、SK027と切り合い関係をもつ。新旧関係は不明。上面の平面形は隅丸長方形を呈する。東西16.1m・南北0.9m・深さ0.47mを測る。底面は緩やかな起伏があり、壁は角度をもって立ち上がる。埋土は淡黒色を呈する。主な出土遺物には土師器(杯・小皿)などがあるが、いずれも細片。遺構の性格としては土壌墓と考えられるが、供献・

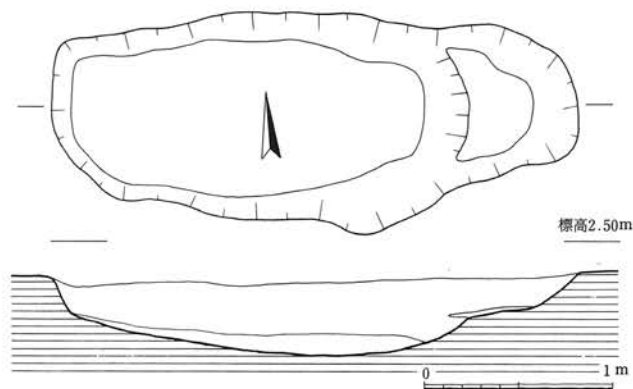


Fig. 22 SK011 実測図 (S = 1/40)

阿高遺跡

副葬品と思われる出土遺物はない。鎌倉時代から室町時代にかけての所産と思われる。

SK032土壇 (Fig. 25)

調査区中央南端に位置する。上面の平面形は不定形を呈する。東西0.7m・南北0.8m・深さ0.6mを測る。西側掘り込みを一部削平されている。底面は舟底状を呈し、壁は四方とも直立する。埋土は上層淡褐色土、下層黄褐色土。出土遺物は図のとおりで土師器(甕)1点を検出した。甕は黄褐色土からの検出である。遺物の特徴から見て、古墳時代の所産と考える。

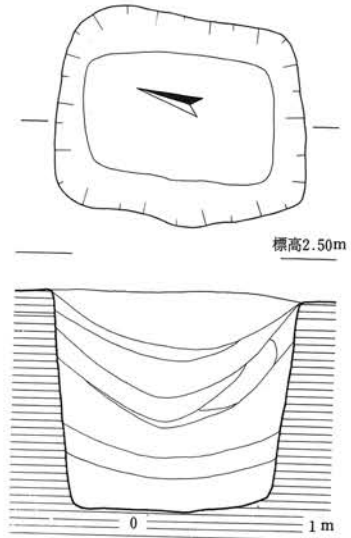


Fig. 23 SK015 実測図 (S = 1/40)

SE006井戸 (Fig. 26)

調査区の北西隅にあって、SK005と近接する。上面の平面形は円形を基調とするが、検出時の測定値は東西0.82m・南北0.78m・深さ1.02mを測る。素掘りの一段掘り井戸。この規模の井戸としては浅い。底面はほぼ平坦で、壁は四方とも内湾気味に角度をもって立ち上がる。

埋土は、上層黒色土、下層褐色土に大別される。遺物は埋土全域から検出したが、いずれも細片であった。主な出土遺物に、瓦器(碗)・磁器・磁器(碗)などがある。鎌倉時代の所産と考える。

SE007井戸 (Fig. 26)

調査区の中央付近にあって、周辺には

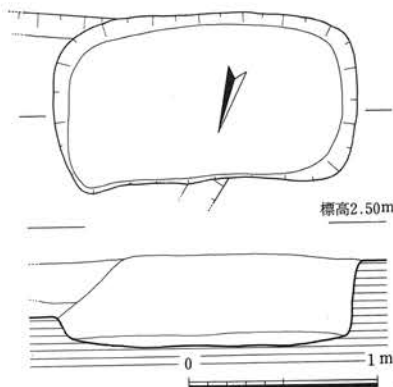


Fig. 24 SK025 実測図 (S = 1/40)

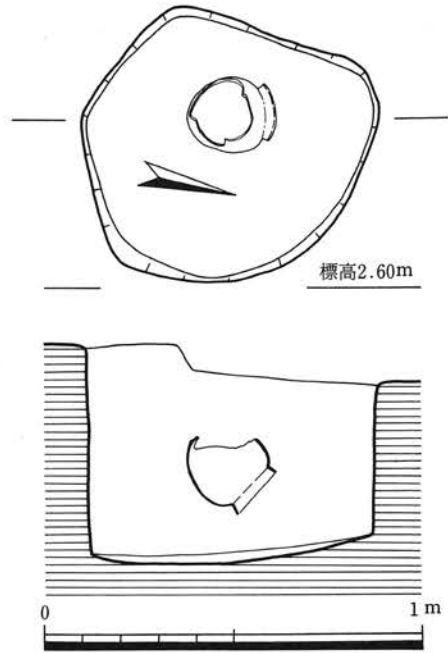


Fig. 25 SK032 実測図 (S = 1/20)

阿高遺跡

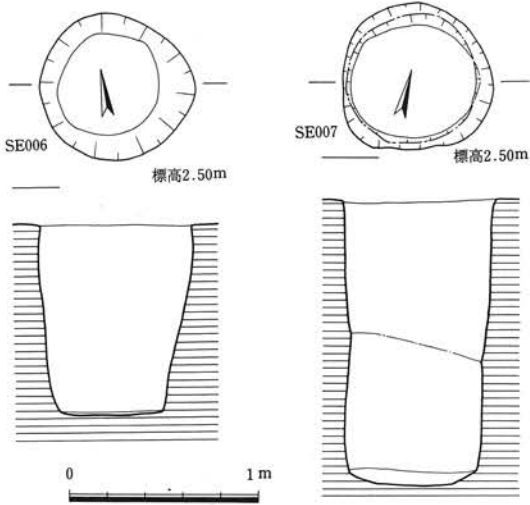


Fig. 26 SE006・007 実測図 (S=1/40)

SE008・019・SD002などがある。上面の平面形は円形を基調とするが、検出時には東西0.8m・南北0.78m・深さ1.52mを測る。素掘りの一段掘り井戸。底面は舟底状を呈し、垂直に近い角度で立ち上がる。壁面には掘り込み下0.7~0.85m付近に稜を有する。

埋土は上層黒色土・下層黒色土の2層に大別できる。遺物は土器類については埋土全域から、木片は埋土下層から検出した。主な出土遺物には土師器（杯）細片を微量に検出した。

た。鎌倉時代から室町時代にかけての所産と考える。

SE017井戸 (Fig. 27)

調査区の西南端にあり、SD002に切られている。周辺にはSK003・004がある。素掘りの一段

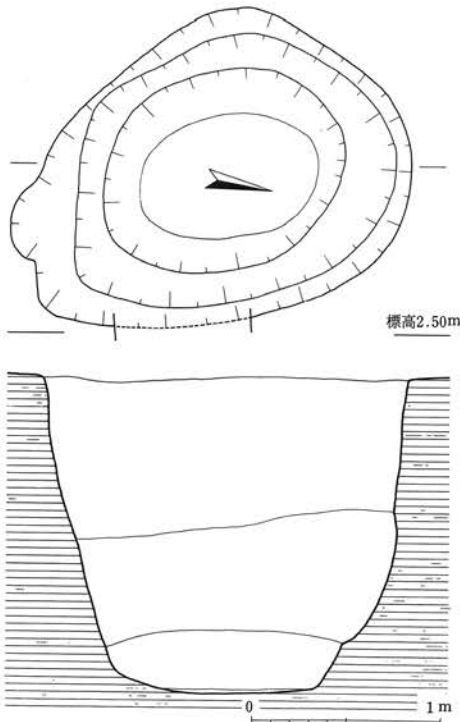


Fig. 27 SE017 実測図 (S = 1 / 40)

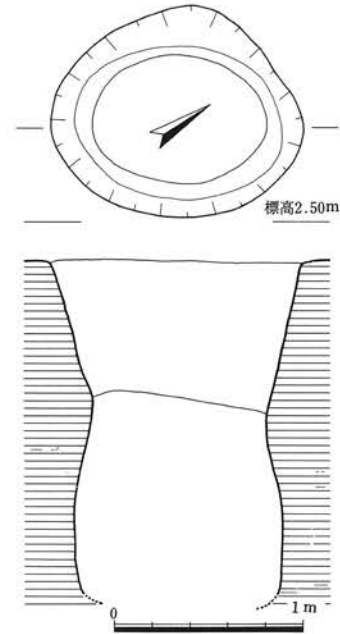


Fig. 28 SE022 実測図 (S = 1 / 40)

阿高遺跡

掘り井戸と考える。上面の平面形は不定形を呈するが、元来楕円形を基調としたものとする。南堀込みの突出部は小穴との切合いである。東西1.68m・南北2.0m・深さ1.7mを測る。底面は舟底状を呈し、壁は角度をもって立ち上がる。壁面には2本の稜がある。

埋土は、上層黒色土・中層褐色土・下層灰褐色土の3層に大別できる。遺物は埋土全域から検出した。主な出土遺物には、土師器（甕・高杯）、須恵器（壺・高杯・杯）などがある。古墳時代後期の所産と考える。

SE022井戸 (Fig. 28)

調査区の中央にあつて、周辺にはSK011・015がある。上面の平面形は東西に長い楕円形を呈し、東西1.34m・南北1.13m・深さ2.0m前後を測る。壁は堀込み下0.7m付近まで内傾して立ち上がり、稜から外反して堀込み面に至る。

埋土は上層黒色土・下層褐色土に大別できる。遺物は埋土上層から検出した。主な出土遺物に土師器（碗）・瓦器（碗）・土師器（杯・小皿）等がある。いずれも細片であった。鎌倉時代から室町時代にかけての所産と考える。

SE023井戸 (Fig. 29)

調査区の東半にあり、SD001を切っている。周辺にはSE033・031・029などがある。素掘りの二段掘り井戸である。上面の平面形は円形を基調とするものとする。検出時の測定値は南北1.98m・東西2.13m。深さは中心部で約2m程度。壁は底面からフロア一段まで直立気味に立ち上がる。フロアは幅0.28~0.5mを測る。堀込み壁面は南西部が角度をもって立ち上がり、北東部はやや緩やかである。

埋土は上層黒色土・下層褐色土に大別できる。遺物は埋土上半部に集中していた。主な出土遺物には、須恵器（杯）・土師器（杯）・磁器（碗）等を検出したが、細片も多い。中世の所産と考える。

4. 遺物各説 (Fig. 30・31)

阿高遺跡（B地区）では、古墳時代から中世に及ぶ遺物を多数検出した。出土遺物の中で、それが検出された遺構の時期を示すものや特徴的なものをえらび後述する。

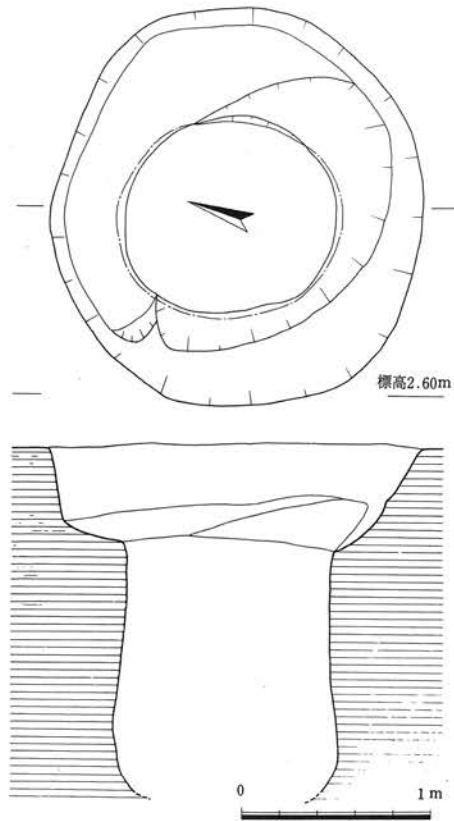


Fig. 29 SE023 実測図 (S = 1/40)

阿高遺跡

1は土師器甕。口径15.6cm・器高30.7cm。胴部が球状を呈し、口縁部は直線的に外傾する。胴部外面はハケ目調整のあとナデ。ローリングが進んでいる。胴部内面はヘラケズリ。口縁部は主として内外面ともヨコナデ。口縁外面にわずかにハケ目の痕跡が見うけられる。2は甕。口径16.9cm。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半タタキ、下半ハケ目。内面は口縁部ハケ目、頸部付近ハケ目、胴部ヘラケズリ。3は甕。口径15.6cm・器高22.7cm。丸底を呈し、体部は緩やかに湾曲する。口縁部は内湾し、端部は丸味を帯びる。外面は口縁部ヨコナデ、胴部上半は横方向のハケ目、下半部縦方向のハケ目。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、それより下

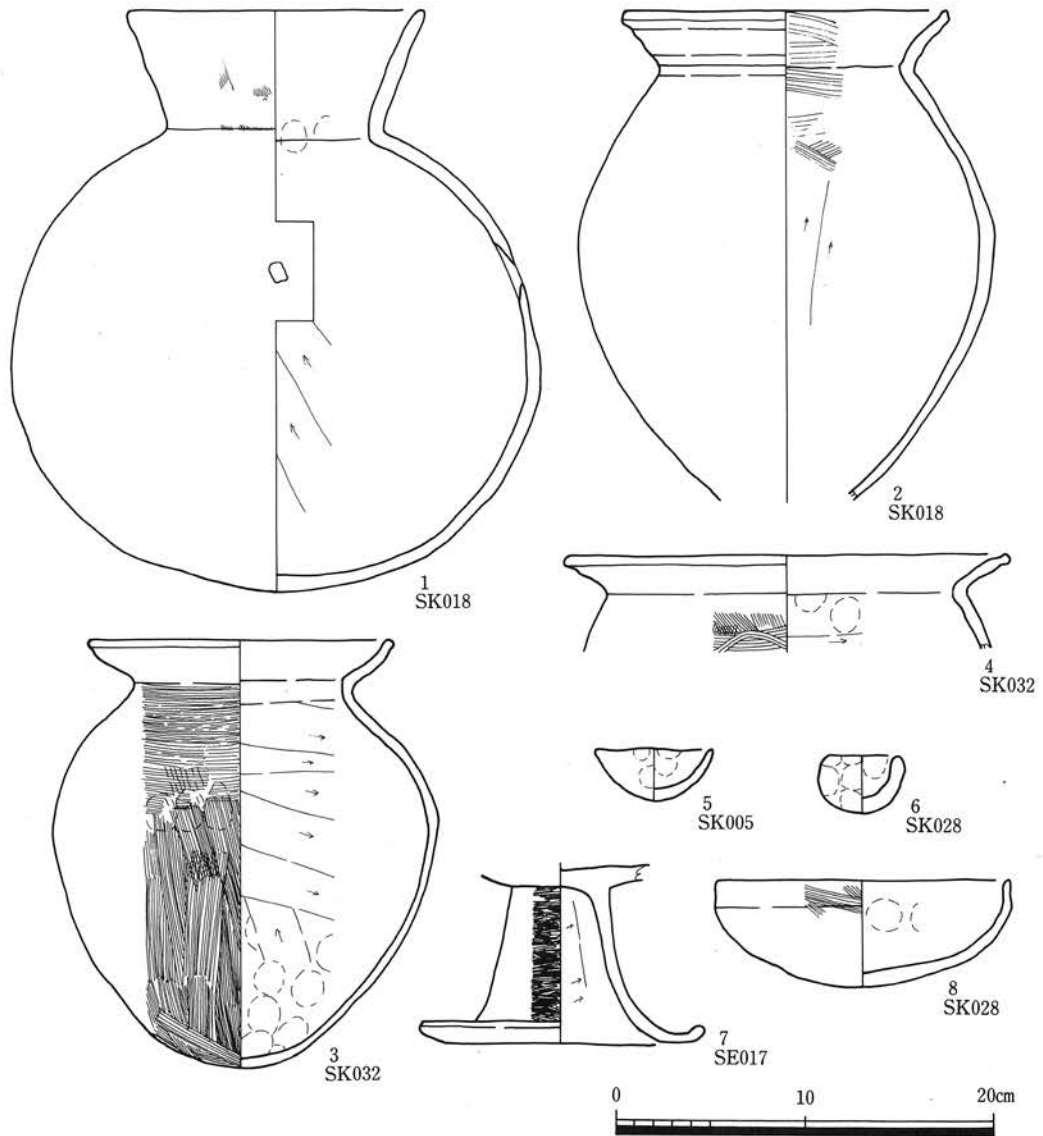


Fig. 30 阿高遺跡B地区出土遺物実測図1 (S = 1/4)

阿高遺跡

部はヘラケズリ。4も甕。復元口径12.2cm。口縁部は「く」の字を呈する。外面は縦方向と横方向のハケ目。横方向のハケ目上端にヘラ状工具で波状文を施している。5は手捏土器。口径

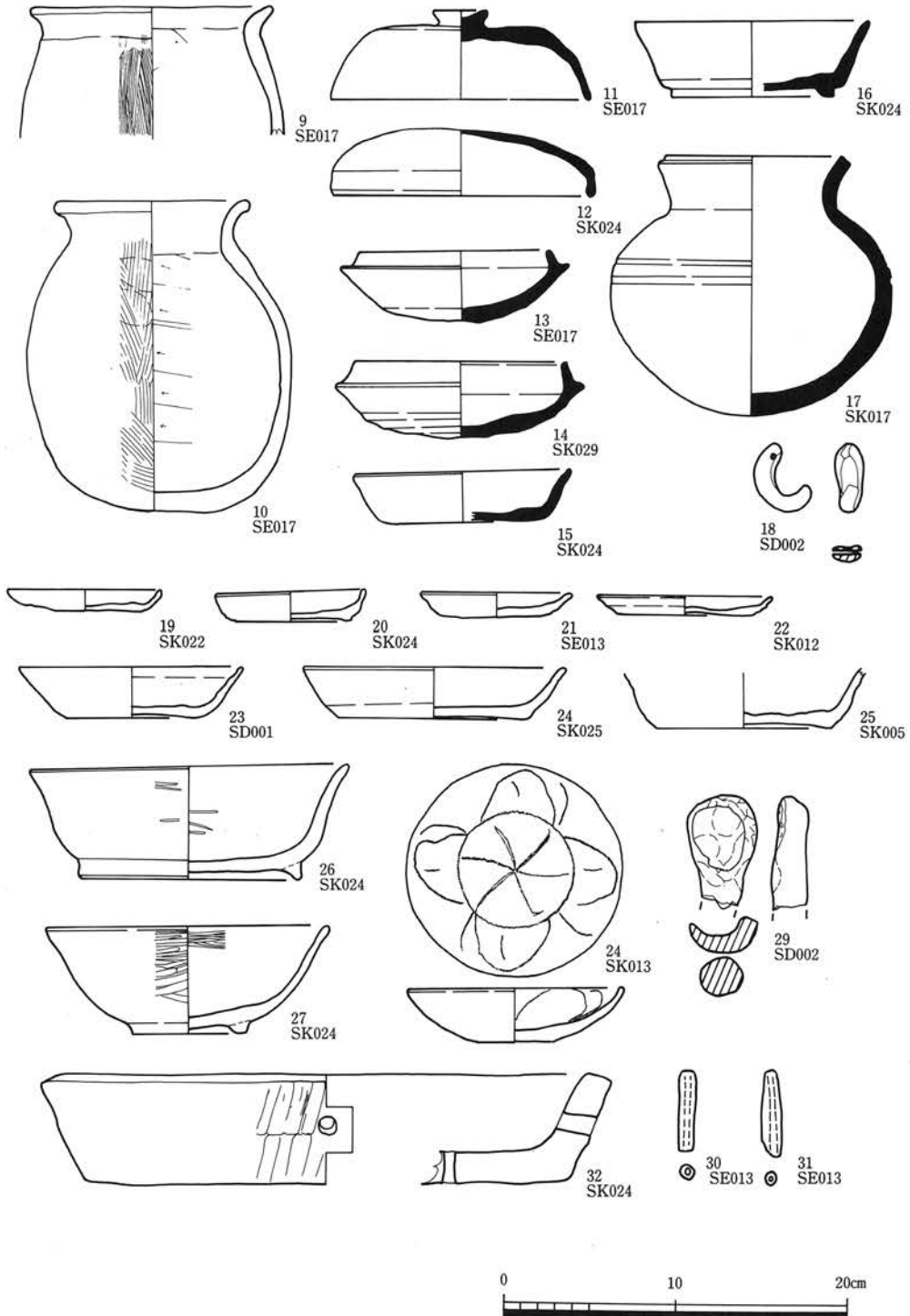


Fig. 31 阿高遺跡B地区出土遺物実測図2 (S = 1/4)

阿高遺跡

6.1cm・器高2.8cm。丸底で指腹の押圧で形成。6も手捏土器。口径3.7cm・器高3.1cm。7は高杯の脚部。底径15cm。脚柱部は縦方向のヘラケズリにより面取りがなされているような観を呈する。その後、横方向の細かいヘラミガキを施している。8は土師器杯。口径15.3cm・器高5.65cm。丸底である。口縁部は直立気味に立ち上がるが、口唇部の強い回転ヨコナデにより一度小さく内傾する。調整は内外面とも、ナデ・ヨコナデによっているが、外面の一部にハケ目が観察できる。9は土師器壺。復元口径13.6cm、残存器高7.6cm。調整は外面口縁部ヨコナデ、胴部縦方向のハケ目。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部はヘラケズリ。10も土師器壺。復元口径10.9cm・器高18.1cm。胴部は下半部に最大径を有する。口縁部は短く外反する。調整は外面口縁部ヨコナデ、胴部は力強いハケ目、底部はハケ目とナデ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横方向のヘラケズリ。11は須恵器杯（蓋）。復元口径14.9cm・器高5.2cm。つまみ部径3.2cmを測り、中央は低くなる。外面天井部端まで回転ヘラケズリを有する。12も須恵器杯（蓋）。土師器の観を呈する。口径14.9cm・器高3.9cm。内外面に各一箇所ヘラ記号を有する。調整は主としてナデ。ローリングが進んでいる。13・14は須恵器杯（身）。口径11～12.2cm・器高4.15～4.5cm。外面胴部下半から底部にかけて回転ヘラケズリ。15・16は高台付の須恵器杯。口径12.4～13.5cm。16で高台径9.4cm・器高4.5cm。15は体部の色調は淡赤褐色。体部は直線的に立ち上がる。16は淡灰褐色を呈し、体部は角度をもって立ち上がる。15・16共、底部と体部の境界付近には回転ヘラケズリがある。17は須恵器壺。口径11.05cm・器高15cm。最大径を胴部に有し、底部は丸底。口唇部は先鋭化する。調整は外面胴下半部タタキ、上半部カキ目、口縁部ヨコナデ、内面胴下半部同心円文のタタキ板痕を有する。18は土師器勾玉。長さ4.15cm・幅1.65cm。SD002からの出土であるが流れ込みの公算が強い。19～22は土師器小皿。口径8.6～10.1cm・器高1.15～1.9cm・底径6.4～8cm。4個体とも底部外面に糸切り痕を有する。23～25は土師器杯。口径12.8～15cm・器高3～4.15cm・底径7.9～10.9cm。24と25は底面外部に糸切り痕と板状圧痕を観察できる。26は土師器高台付杯。口径18.2cm・高台径12.5cm・器高6.9cm。体部の内外面の一部にヘラミガキが観察できる。27は瓦器碗。SK024出土の他の遺物とはかなり時期差があり、遺構の切り合いがあったものと考えられる。復元口径16cm・復元底径6.6cm・器高6.3cm。口縁部内外面にヘラミガキが認められる。28は磁器皿。口径12.3cm・底径4.2cm・器高3.3cm。底面外部は露胎。色調は淡黄灰色。全面に細かい貫入がある。29は土製品。スプーン状を呈する。柄部分を欠く。30・31は土師器土錘。30は長さ4.7cm・外径0.9cm。32は滑石製石鍋。復元口径30.3cm・復元底径28cm・器高6.4cm。破片であり、旧状の全容は想定しがたいが、検出片では体部と底部に各一箇所ずつ穿口を有する。

(福田)

牟田寄遺跡

V. 牟田寄遺跡の記録

1. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

牟田寄遺跡（A地区）は焼原川下流域西岸、現在の牟田寄集落の北端にあつて、標高3mを測る水田に所在する。調査区は焼原川から派生するクリークに隣接し、そのクリークに北・東・西を囲まれ、環濠集落状の景観を有する。

(2) 歴史的環境

周辺遺跡には千住遺跡（伝阿弥陀寺跡）、（伝）光明寺跡、牟田寄貝塚、平尾遺跡などがある。また、同地区の東側には貴別当神社遺跡（神埼郡千代田町）がある。この中で、牟田寄貝塚は正式な調査は行われていないが、渇水期にはクリーク壁面・底面付近に貝層や多量の弥生土器が見受けられる。

本遺跡周辺の市域での発掘調査例は東に隣接する蓮池町に2例ある。柴尾橋下流遺跡（昭和56年度調査 弥生時代後期から鎌倉時代の集落跡）、蓮池上天神遺跡（昭和58年度調査 鎌倉時代の集落跡）の2遺跡である。両遺跡とも標高3m程度の平野部に所在する。市域南部の調査

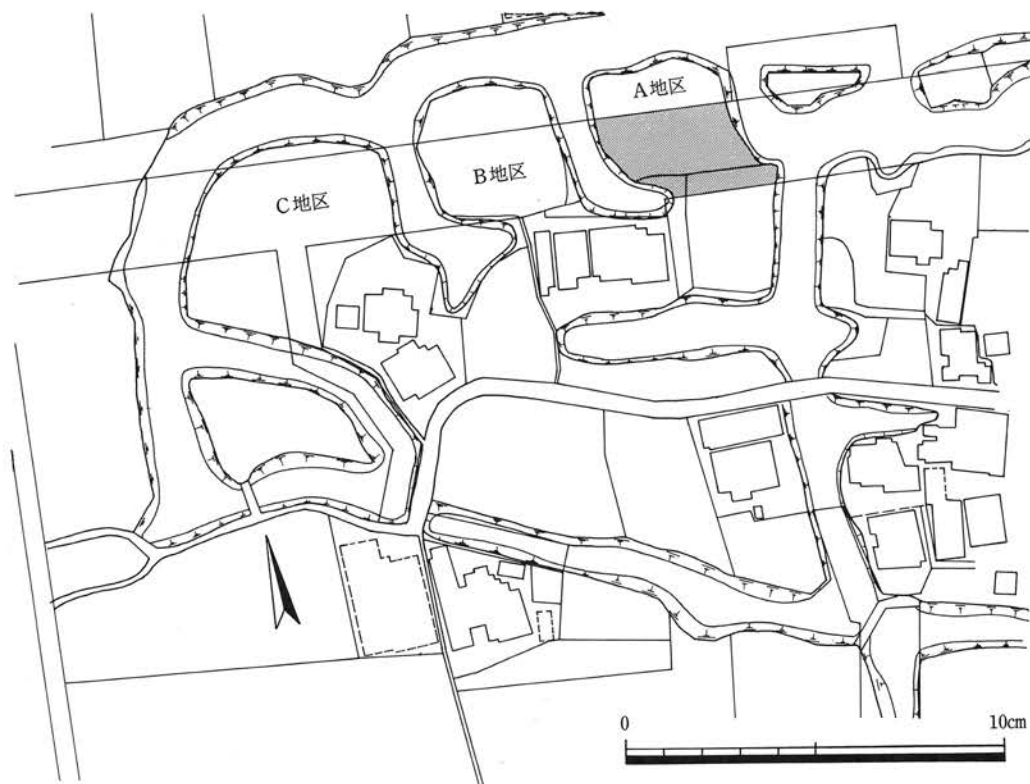


Fig. 32 牟田寄遺跡A地区調査区設定図(S = 1/2,000)

例はまだ少ないが、隣接する神埼郡千代田町でも多数発見されており、今後このような平野部にも多数遺跡が発見されるものと考えられる。

2. 調査の概要

調査区は牟田寄集落の北部に予定されている幹線水路部分である。この調査区（A地区）の西側には他事業で発掘調査を実施したので、東からA・B・C地区とした。（B・C地区は佐賀市文化財調査報告書第31集を参照）

調査の結果、周溝状遺構2基・溝6条・土壇6基・井戸3基・小穴等を、地表下0.3～0.6mで検出した。

遺構は灰褐色粘土に掘り込まれ、埋土が淡褐色を呈しているものが多く、掘込み面の確認は容易でなかった。また、溝が切り合っている場合は、それらの溝の時期差がほとんどないことから、わずかな色調差と亀裂の状況とで判断した。また、同地区西半は中世のある時期に整地がなされているので、弥生時代の遺物は出土したが確実に同時期と考えられるのは土壇1基のみである。これらの遺構の中で特質すべきものとして2基の周溝状遺構がある。この遺構については居館をめぐる溝や墳墓域を区画する溝を想定して調査にあたった。前者は、柱穴の存在が認められないこと、規模が小さすぎることで、後者は、周溝で囲まれた区域に土壇墓状の遺構がないなどの両者の可能性を否定する調査結果が得られた。出土遺物には弥生土器（甕・支脚）、土師器（小皿）、磁器（碗）等を検出したが、残存状況は良好ではない。

3. 遺構各説

SK006土壇 (Fig. 34)

A地区中央西寄りであって、SD001に東側の掘り込み南半を削平されている。上部の平面形は、溝を思わせる。

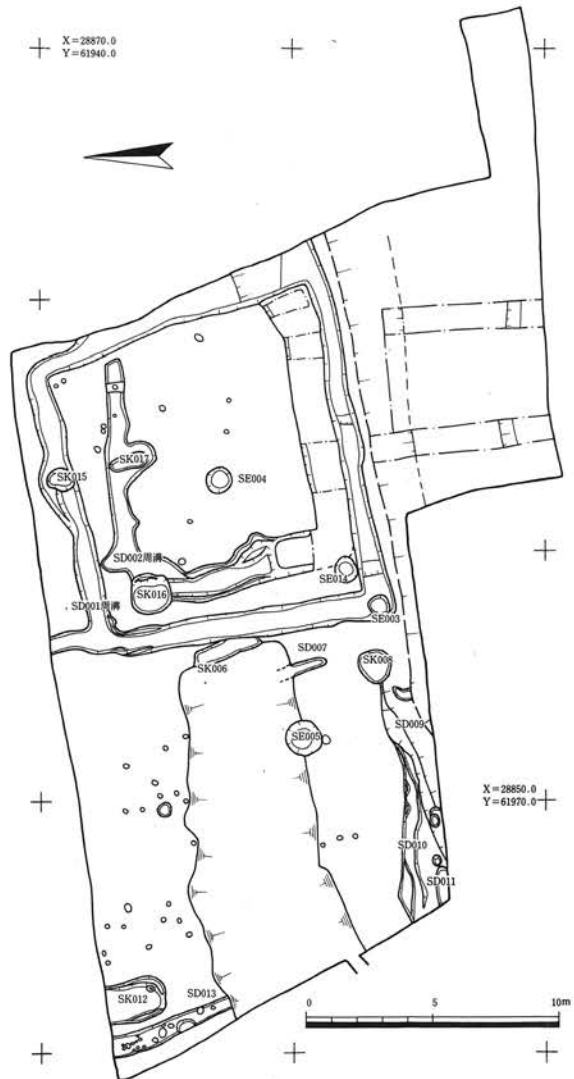


Fig. 33 牟田遺跡A地区遺構配置図 (S = 1/300)

牟田寄遺跡

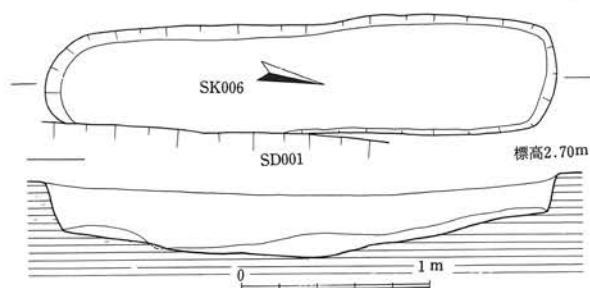


Fig. 34 SK006 実測図 (S = 1/40)

長楕円形を基調とするものと考え。検出時の測定値は長軸2.71m・短軸0.58m、深さは最深部で0.34mを測る。底面は概観すると舟底状との表現ができるが、大きな起伏がある。最深部は中央部にある。壁は四方とも比較的角度をもって立ち上がる。

埋土はほぼ全域黒色又は黒褐色を呈する。遺物は埋土上層に集中し、下層からはほとんど検出していない。出土遺物には弥生土器（甕・壺・高杯・土製品等）がある。土製品のみ完形でその他は破片である。

SK016土坑 (Fig. 35)

調査区中央北寄りにあって、SD002の北西コーナーにほぼ重複する。新旧関係は本遺構がSD002よりも新。上面の平面形は南北にやや長い隅丸長方形。東西1.48m・南北1.51m・深さ0.63mを測る。東・西壁に幅0.1~0.2m・長さ0.9~1.0mのテラスがある。底面はほぼ平坦。壁は西・南・北部は垂直に近い角度で立ち上がる。東壁は底面からテラスまで緩やかに立ち上がり、テラスからは直立気味に掘り込み面に至る。

埋土は淡褐色土を基調とする。出土遺物は埋土全域から出土したが、そのほとんどが細片であり、図化できたのは土師器（杯）1点のみである。室町時代の所産と考える。

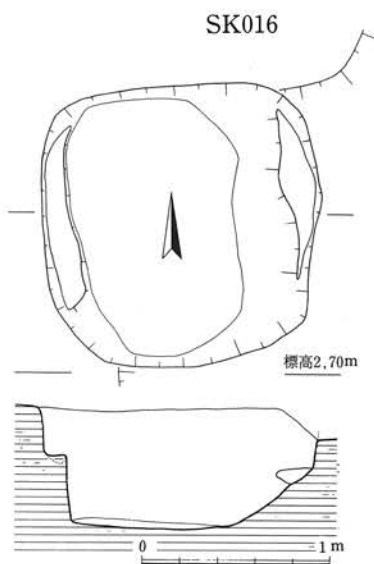


Fig. 35 SK016 実測図 (S = 1/4)

SE004井戸 (Fig. 36)

調査区中央東寄りにあって、SD001の内側ほぼ中央に位置する。素掘り一段掘りの井戸である。上面の平面形は円形を基調とするものと考え、検出時の測定値は、長軸1.03m・短軸0.97mの楕円形を呈する。深さは最深部で1.8m。底面で起伏が大きい。壁が垂直に近い角度で立ち上がる。埋土は上層黒色土・下層黒色土の2層に大別できる。埋土上層から遺物を検出したが細片が多い。主な出土遺物には土師器（杯・小皿）などがある。鎌倉時代の所産と考える。

SE005井戸 (Fig. 37)

A区の中央南寄りにあって、周辺にはSK006・SD007などがある。同地区で検出した井戸の中では上面の掘方面積が最も大きいものである。上面の平面形

は南北にやや長い楕円形を基調とするものとする。検出時の測定値は東西軸1.34m・南北軸1.39m・深さ1.01m。底面は西半部がやや深くなっている。壁は井戸にしては緩い角度であるが直線的に立ち上がる。

埋土は上層黒色土・下層淡褐色土の2層に大別できる。出土遺物は瓦器・土師器細片を微量確認した。形状のわかるものはなかったが、瓦器細片が出土したので鎌倉時代の所産と推定する。

SE014井戸 (Fig. 38)

調査区の中央南端にあつてSD002の南西コーナーを切っている。上面の平面形は円形を基調とするが、検出時の測定値は長軸0.93m・短軸0.85m・深さ1.18mを測る。底面は概ね平坦。壁は四方とも角度をもって立ち上がる。

埋土は上層淡黒褐色土・下層暗褐色土の2層に大別できる。遺物はほとんどが細片であつたが、器形がわかるものとして土師器(小皿)が1点出土した。鎌倉時代の所産と考える。

SD001・002周溝状遺構 (Fig. 39)

調査区の南半を占める。SD001がSD002を切っている。SD001は台形状を呈し、東辺約12m・西辺約11m・南辺14mを測る。溝に囲まれた区画の面積は約112m²。溝断面は逆台形状を呈する。北側が最も浅く0.4m、南側が中央部で0.6m、東南隅で約1mを測る。北西隅は同遺構が北上するものか、他の遺構か不明。溝中に井戸と土壌が各1基づつ切り合っている。西南の井戸については当遺構が新しい。埋土は淡灰褐色で地山とほとんど同じ色調であつた。これはSD002についても同様。遺物は埋土中から微量検出した。主な出土遺物には土師質土器(鉢)、土師器(杯・小皿)などがある。この他、弥生土器片を検出したが流れ込みによるものとする。

SD002は基本的には東西に長い長方形になる周溝と考える。東辺はSD001に切られているので計測不能。西辺は約8m・南辺11m程度・北辺は10m程度。溝に囲まれた部分の面積は現況で約55m²。溝の断面は、逆台形を呈する。深さは北側が0.3m、南側が0.6mで、SD001同様、南が深い。溝中に4～5の遺構と切り合い

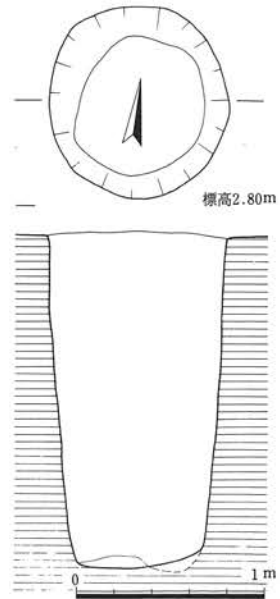


Fig. 36 SE004 実測図 (S = 1/40)

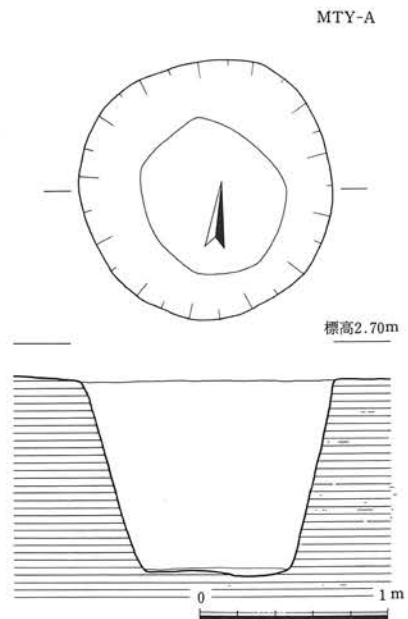


Fig. 37 SE005 実測図 (S = 1/40)

牟田寄遺跡

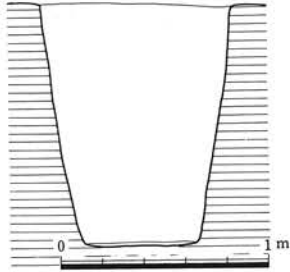


Fig. 38 SE014実測図(S = 1/40)

関係をもつ。北西部のSK016については、当遺構が古。遺物はガラス玉(1個)・滑石製石鍋片・土師質土器片・土師器片を微量検出した。

SD001・002の造営時期については、出土遺物や他遺構との切り合い関係から見て鎌倉時代の所産と考える。埋土の状況は同時期の井戸上層が黒色を呈するので埋没の状況差や、若干の時期差を想定せざるを得ない。遺構の性格については住居をめぐる溝を考えたが、内側に掘立柱建物が検出されず、その可能性については否定せざるを得ない。現在のところ性格については確定する資料が得られず、今後の資料の増加を待って再検討したい。

4. 遺物各説 (Fig. 40・41)

牟田寄遺跡(A地区)では弥生時代から中世にいたる遺物を検出した。その時代の特徴を良く表しているものをえらび後述する。

1は弥生土器の高坏。復元口径31.8cm。口唇部になるにつれて器壁は厚くなる。内外面共に

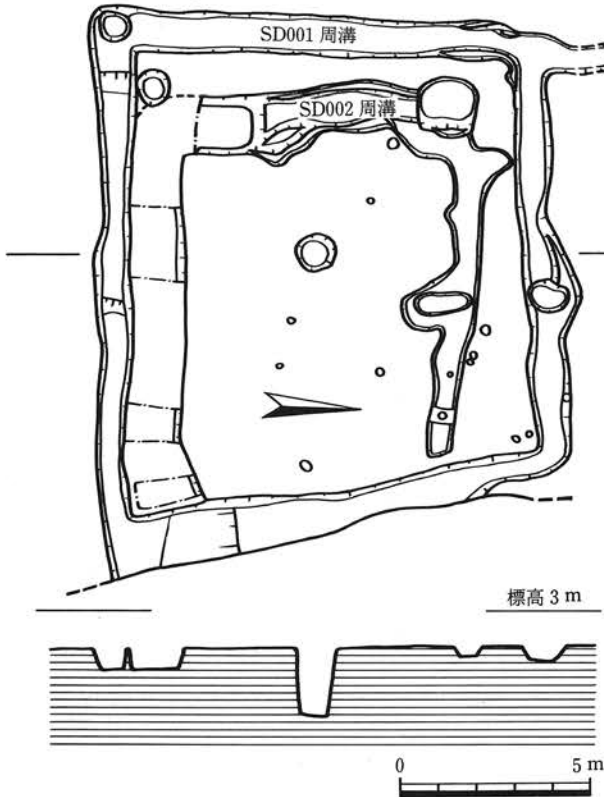


Fig. 39 SD001・002 実測図(S = 1/200)

ローリングが著しいが、調整はナデを主体としていたことが観察できる。2は弥生土器の甕。復元口径17.6cm。口縁部は大きく外反し、端部は尖鋭化する。調整はハケ目と横ナデがわずかに観察できる。3も弥生土器の甕。復元口径13.6cm。最大径を胴部に有する。調整は外面、口縁部・頸部に横ナデ、体部に縦方向のハケ目。内面、口縁部に横ナデ、胴部にハケ目。4は弥生土器の壺。頸部から胴部にいたる一部分が残存する。頸部には簾状文を有し、その下方には波状文が配されている。外来系の土器か。5は弥生土器の甕。復元口径21.2cm。調整は主として横ナデとナデ。ローリングが進んでいる。6も弥生土器の甕。復元口径26cm。

牟田寄遺跡

口縁は「く」の字状を呈し直線的に伸びる。調整は外面、口縁部から頸部にかけて横ナデ、胴部は縦方向のハケ目。内面、口縁部横ナデ、胴部はナデ。7は弥生土器甕。底径7cm。底部はわずかな丸味をもつ。調整は外面ハケ目、内面ナデ。8は弥生土器の壺。口径8.9cm。残存器高9.3cm。下半部を欠失し、最大径を胴部中位に有する。調整は外面、口縁部横ナデとヘラミガキ、胴

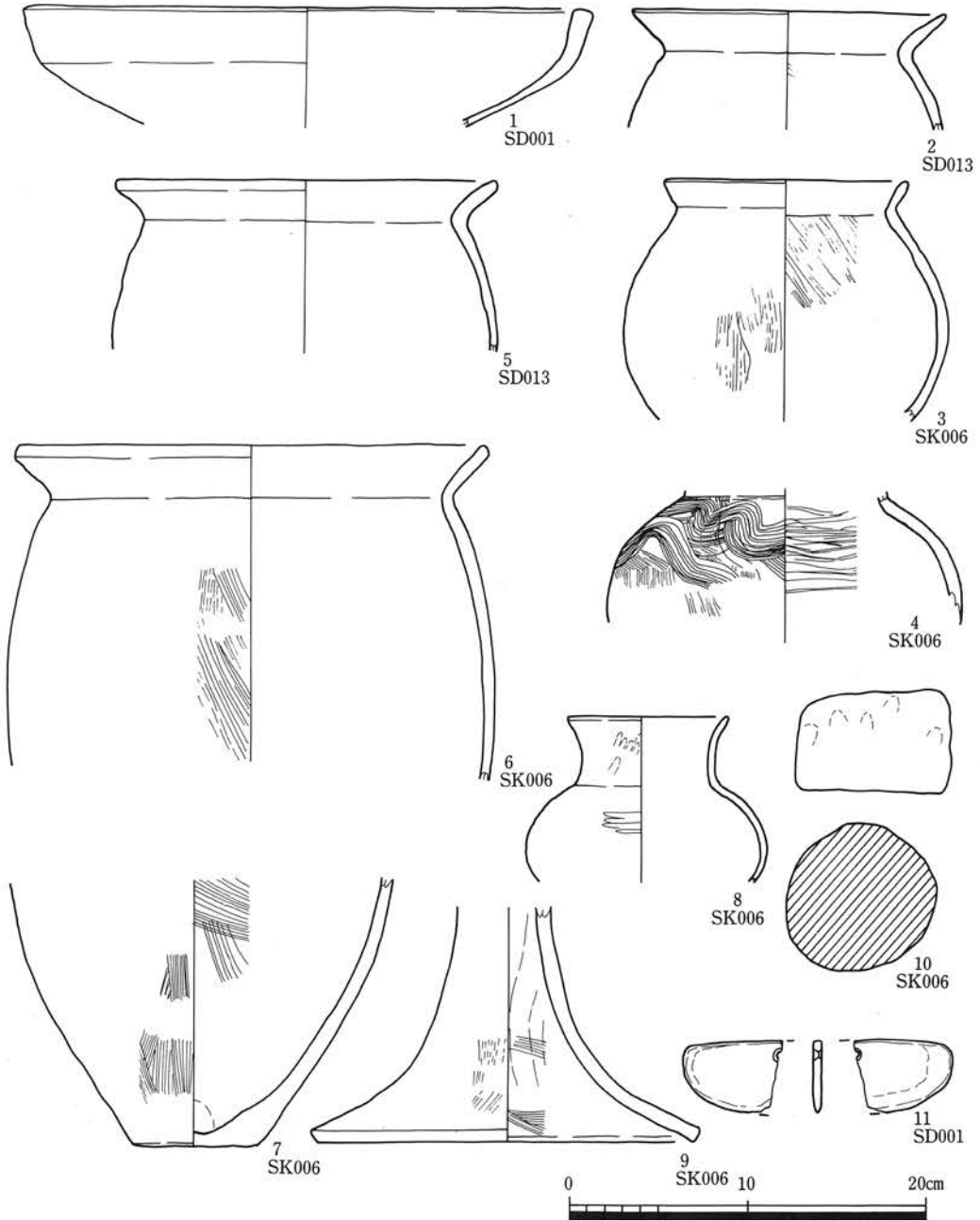


Fig. 40 牟田寄遺跡A地区出土遺物実測図1 (S = 1/4)

牟田寄遺跡

部はヘラミガキとナデ。内面は横ナデ。ローリングが進んでいる。10は土製品。支脚か。側面形はわずかに台形状を呈する。上底7.2cm・下底7.9cm・器高5.9cm。色調は淡橙色。11は石庖丁。残存長5.1cm・厚さ0.45cm。材質は粘板岩系か。12から16は小皿。2種に大別でき、12から15は土師器小皿。口径7.7から9.0cm・器高1.4から2.6cm。底面に糸切り痕を有する。16から21は土師器杯。口径9から13.3cm・2.3から3.2cm。底部に糸切り痕を有する。22は白磁碗。復元高台径5.8cm。外面胴部下端から底部にかけて露胎。23は青磁碗。高台径5.6cm。内面見込みに草花文を配する。底面内部は露胎。色調は緑黄色。24は滑石製石鍋。復元口径27.6cm・残存器高7.2cm。外面は火をうけていると思われ、黒色を呈する。25は土師質土器の鉢か。復元口径34cm。残存部分が非常に少ない。口縁上面に縄目の圧痕を有する。外面は口縁部付近横ナデ、胴部ハケ目、内面横方向のハケ目。26は陶器の甕。復元口径38cm。外面は緑灰色の釉をかぶる。

(福田)

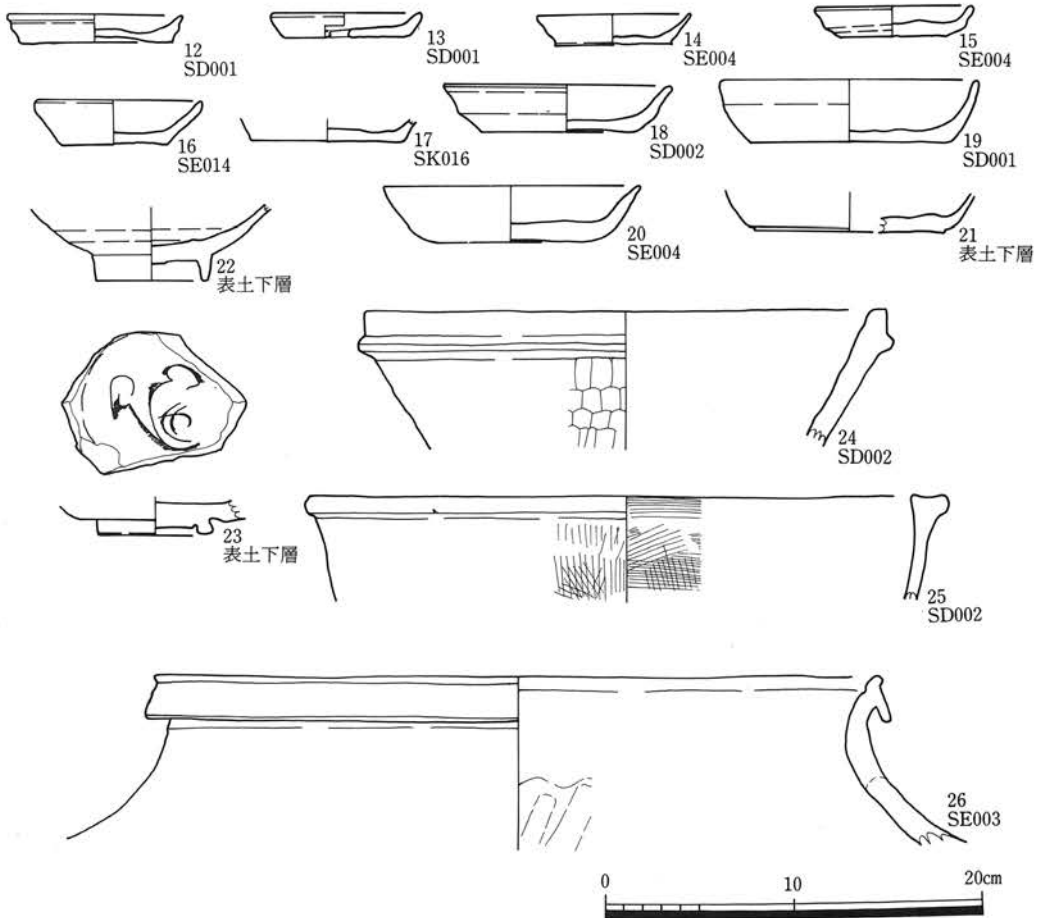


Fig. 41 牟田寄遺跡A地区出土遺物実測図2 (S = 1 / 4)

村 德 永 遺 跡

VI. 村徳永遺跡の記録

1. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

佐賀市は佐賀県の東南部に位置し、東は神埼・千代田・諸富町、西は大和・三日月町、北は大和町と接している。市の北部には脊振山系が連なり、その南麓には舌状丘陵が形成され、その南には沖積平野がひろがっている。村徳永遺跡はこの平野部に存在する。

今回調査を行ったD地区は村徳永遺跡のなかでは東部にあり、昭和63年度に調査を行った村徳永遺跡A・B・C地区の西方約50mの地点に位置していた。標高は約7mを測る。畑として利用されており、周囲の水田との比高差は1m前後であった。

(2) 歴史的環境

脊振山系の南麓部一帯は遺跡の宝庫であり、数多くの遺跡が存在する。実際に調査が実施された部分は少なく、この村徳永遺跡においてもその概要は殆ど掴めていなかった。しかし、近年の大型開発によって、この地域の遺跡の在り方が次第に明らかになっている。D地区の周辺には中世の遺跡が、その西側には弥生時代の比較的大きな集落が存在し、その西方には弥生時代の甕棺墓地である東千布遺跡がある。東方には同じく弥生時代の立野遺跡があり、弥生時代の遺跡に挟まれて中世の遺跡が存在している。周辺において中世遺跡の調査は少ないが、神埼町との境界付近にある本村遺跡などが調査されている。

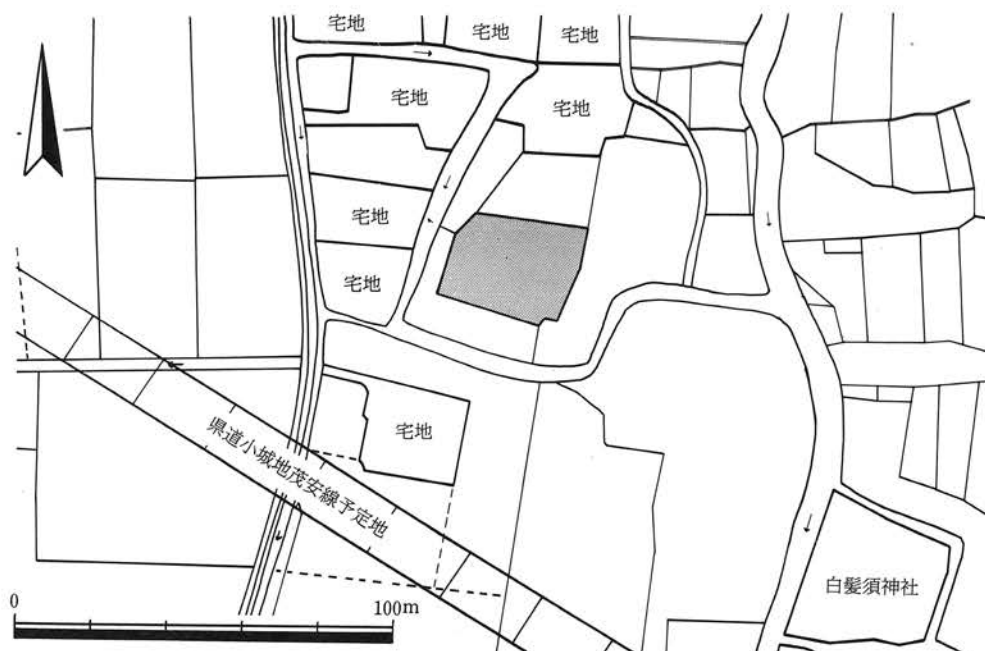


Fig. 42 村徳永遺跡D地区調査区設定図(S = 1/2,000)

2. 調査の概要

調査は機械力による表土除去作業から開始した。表土は20~30cm程度の厚さで、その下はすぐに遺構面であった。遺構埋土は、黒褐色・暗褐色・暗茶褐色・茶褐色が確認されており、黒色が強いほど時期が古いようである。

検出遺構は、土壇144基、井戸8基、溝8条、掘立柱建物4棟である。出土遺物は、一部に弥生時代中期のものや平安時代のものがあるが、大部分は中世のものである。

今回の調査で注目されるのは、調査区中央部で検出した溝である。以前に調査を行なった村徳永遺跡A・B地区でも類似する溝が検出されており、位置・時代を考えると同一の溝であった可能性がある。今年度、本村遺跡1区において方形区画の溝が調査されており、その全体像が確認されている。村徳永遺跡における溝も、断片的な調査ではあるが、その全体像を考えた場合、本村遺跡の方形区画の溝と同質の遺構である可能性を指摘できると思われる。

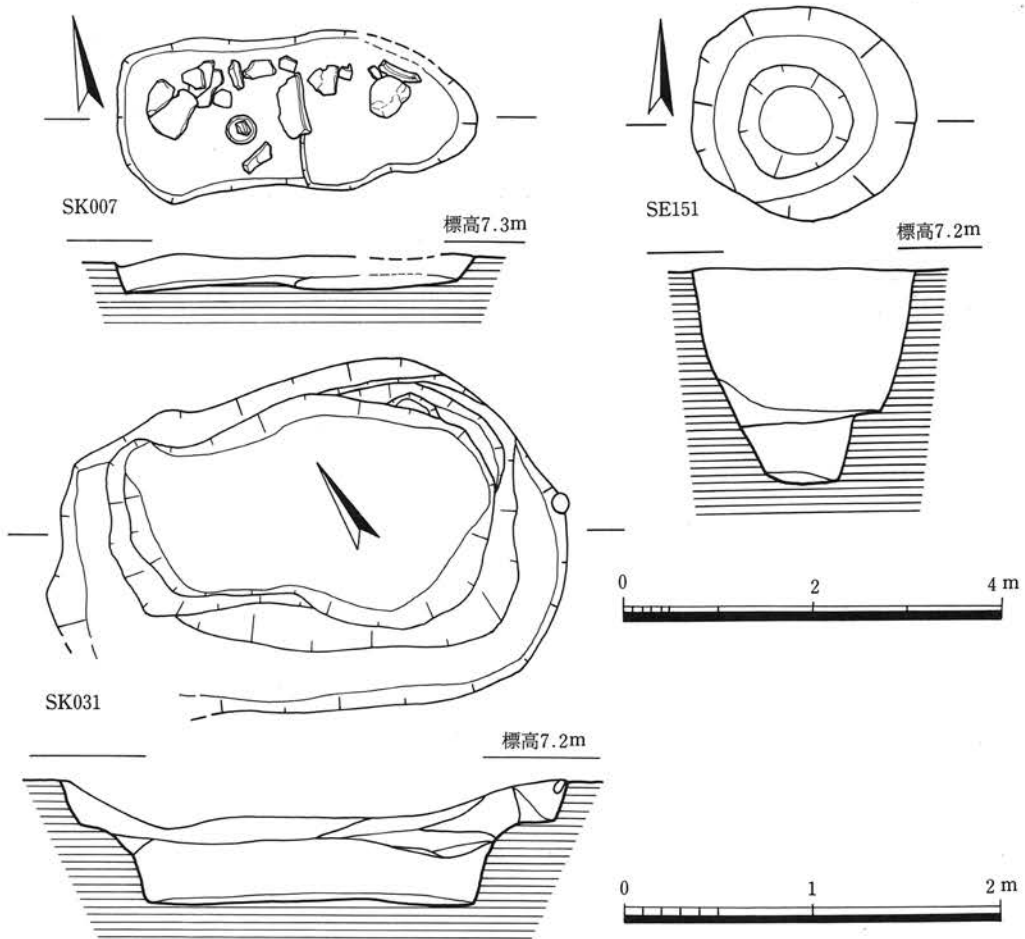


Fig. 43 SK007・031(S = 1/40)・SE151(S = 1/80)実測図

3. 遺構各説

SK007土壌 (Fig. 43)

CB-110、CA-110、CB-109・110、CA-109・110グリッドで検出した。平面形は長軸1.9m、短軸0.8m、深さ0.2mを測る不整楕円形を呈する。遺構床面は東半部で段が付き、3cm程低くなっている。遺構北東部をSK137に切られる。遺構埋土は、黒褐色を呈する。遺物としては弥生時代中期の土器が一括出土している。

SK031土壌 (Fig. 43)

CB-109・110、CA-109・110グリッドで検出した。平面形は長軸6.8m、短軸4.5m、深さ1.2mを測る不整長方形を呈し、部分的に隅丸状になっている。断面は二段掘りになっており、床面はほぼ平坦である。遺構はSD011・SD142を切っており、SE004に切られている。遺構埋土は基本的には暗褐色から暗茶褐色であり、16層に分層できたが堆積の状況から自然堆積と判断した。

SE151井戸 (Fig. 43)

BY-111、BZ-111グリッドで検出した。平面形は径約1.2mを測る円形であり、深さ1.15mを測る。素掘りの井戸で、二段掘りになっている。遺構底面はほぼ平坦になっている。遺構埋土は黒褐色であった。

SB162掘立柱建物 (Fig. 44)

BZ-111、CA-111、CB-111、CA-110、CB-110グリッドにかけて検出した。1間×3間の建物である。南北棟建物で主軸をN-21°30'-Eにとる。桁行6.9m、梁行4.6mを測る。柱間寸法は図中のとおり。柱穴は長軸0.7~0.9mの楕円形を基調とし、深さ0.5~0.7mを測る。SB163と重複関係にあり、柱穴の切り合い関係から、SB162が後出する建物である。

SB163掘立柱建物 (Fig. 44)

CA-111、CB-111、CA-110、CB-110グリッドにかけて検出した。1間×3間の建物である。南北棟建物で主軸をN-21°30'-Eにとる。桁行6.4m、梁行4.2mを測る。柱間寸法は図中のとおり。柱穴は長軸0.4~0.9mの楕円形を基調とし、深さ0.3~0.7mを測る。SB162と重複関係にあり、その先後関係は先述したとおりであり、SB163はSB162とその規格・方位がほぼ同じものであり重複関係をもつことを考えれば、立て替えの可能性が高い。その他、SD013、SD015を切っている。

SB165掘立柱建物 (Fig. 44)

CC-115・116、CD-115・116グリッドにかけて検出した。北半部は調査区外であり、検出部分は梁行1間、桁行5間である。東西棟建物で主軸をN-4°30'-Eにとる。桁行7.1mを測る。柱間寸法は図中のとおり。柱穴は長軸0.7~1.1mの楕円形を基調とし、深さ0.4~0.7mを測る。

SD011溝

村徳永遺跡

CA-115・116、CB-112～116、CC-111～114、CD-111グリットにかけて検出した遺構である。SK031と重複関係にあり、本溝が切られている。また、SD012、SD142とほぼ並行に走る溝であり、西端部でやや屈曲している。埋土は暗褐色を基本とし、3層に大別され自然堆積の状況を示していた。幅3.5～4.0m、深さ30～40cmを測り、東側にやや傾斜している。断面は浅いU字状を呈する。

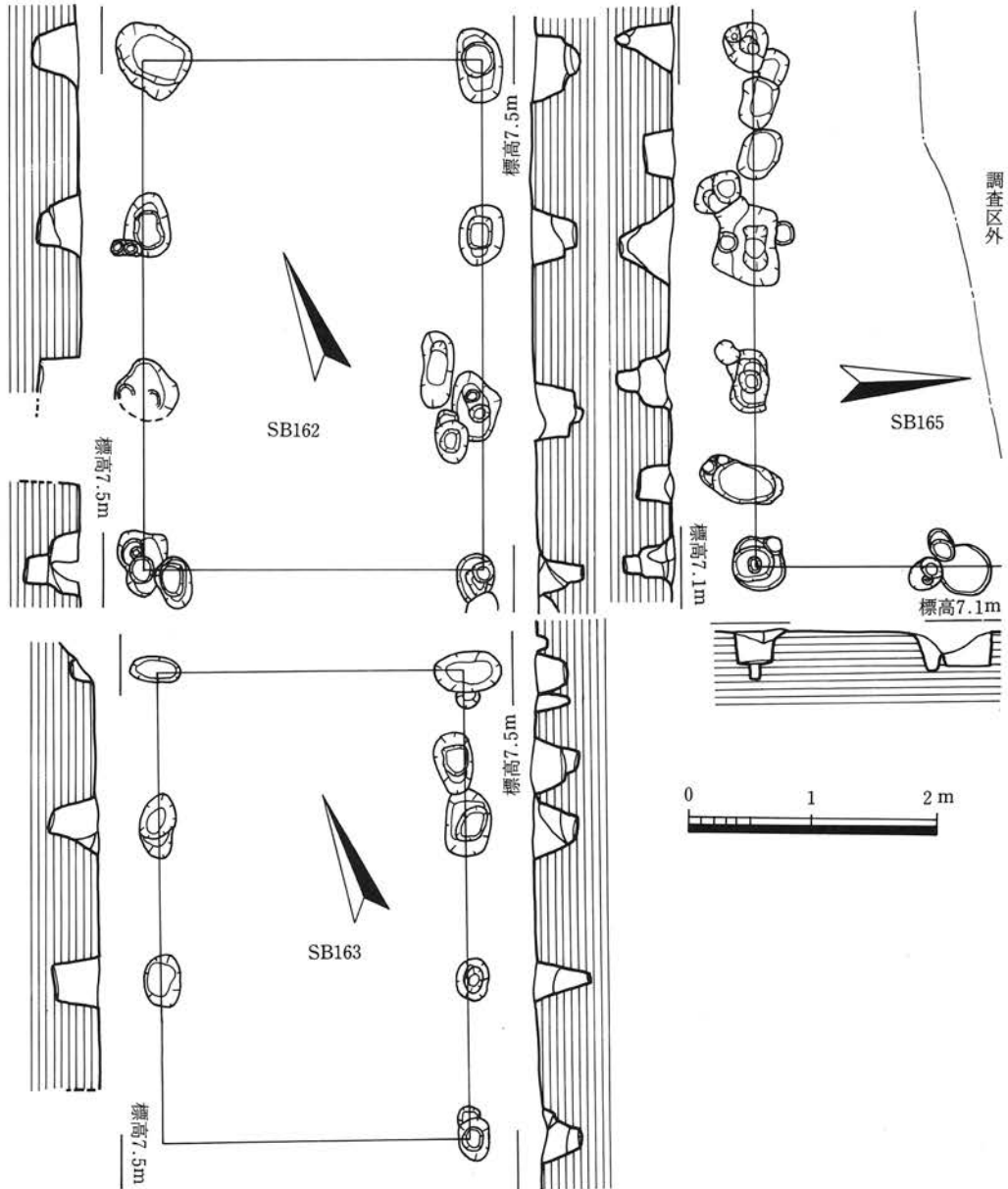


Fig. 44 SB162・163・165 実測図(S = 1/60)

SD012溝

CC-110・011グリットにかけて検出した。SK139に切られている。SD014・SD142と同一の溝の可能性はあるが断定するには至らなかった。幅1～1.8m、深さ約30cmであり、東側にやや傾斜している。断面は浅いU字状を呈する。遺構埋土は暗褐色であった。

4. 遺物各説

弥生時代の遺物 (Fig. 45)

1は蓋。復元裾部径16.8cm、残存高1.5cmを測る。裾部端・内器面はナデ調整、外器面は不明瞭なハケ目調整を施す。淡黄橙色を呈する。2・3は甕。2は口径15.3cm、底部径7.2cm、器高19cmを測る。外面はハケ目調整、内面はナデ調整を施す。内面底部付近には指頭圧痕が残る。焼成後に底部穿孔が行なわれている。口縁部は無く、意識的に削りといったような痕跡を残す。淡黄橙色を呈す。3は底部径10.5cm、残存器高5.9cmを測る。内・外器面ともナデ調整を施す。4は鉢。復元口径12.1cm、底部径5.3cm、器高5.9cmを測る。体部内・外器面は横ナデ調整、底部内・外器面はナデ調整を施す。5は器台。裾部径10.6cm、残存器高6.5cmを測る。外器面はハケ目調整、内器面はナデ調整、裾部付近は横ナデ調整を施す。6は笠形蓋。頭部径5.3cm、底径32.2cm、器高10.6cmを測る。外器面はハケ目調整、底部付近は横ハケ目調整、内器面はナデ調整を施す。頭部内器面に絞り痕が残る。色調は黄橙色を呈す。

平安時代の遺物 (Fig. 46—7～9)

7は土師器小皿。口径8.8cm、器高0.9cmを測る。ヘラ切り離し底である。8は黒色土器小皿。口径9.5cm、器高1.6cmを測る。内外器面ともに灰黒色を呈する。ヘラ切り離し底である。9は土師器。復元口径16.2cm、器高5.2cmを測る。調整は不明瞭だがヘラミガキを行なっている。

中世の遺物 (Fig. 45—10～27)

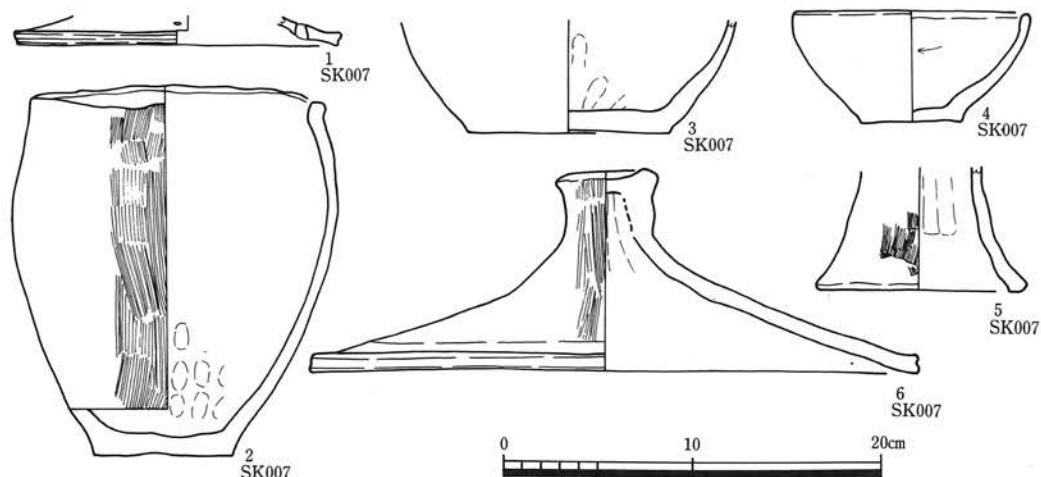


Fig. 45 村徳永遺跡D地区出土遺物実測図1 (S = 1/4)

村徳永遺跡

10～17は土師器の小坏。口縁形が正円形をなすもの（10～13）と、口縁形が楕円形をなすもの（14～17）がある。前者は口径6.6～6.8cm、底径3.4～3.8cm、器高2.1～2.8cmを測る。後者は長口径6.8～7.2cm、短口径6.0～6.8cmを測る。底径・器高は前者と同様。18～23は土師器の坏。口径10.4～10.8cm、底径4.3～5.8cm、器高2.9～3.3cmを測る。10～23はすべて淡黄褐色を呈し、底部切り離しは糸切りによる。24は土師質の鍋。復元口径30cm、残存器高13.5cmを測る。口縁付近はナデ調整、胴部はハケ目調整を施す。外器面は煤の付着が著しい。25・26は瓦質の羽釜。25は復元口径14.4cm、復元鏑径26.2cmを測る。口縁内部はハケ目調整、その他の部分はナデ・横ナデ調整を施す。外器面には煤の付着が著しい。26は復元口径13.2cm。胴部上位には同心正方形のスタンプをもつ。27は摺鉢。復元口径29.6cm、器高12.4cmを測る。内・外器面ともに横ナデ調整を施し、その後内器面に3条を単位とする摺目を施している。

(木島)

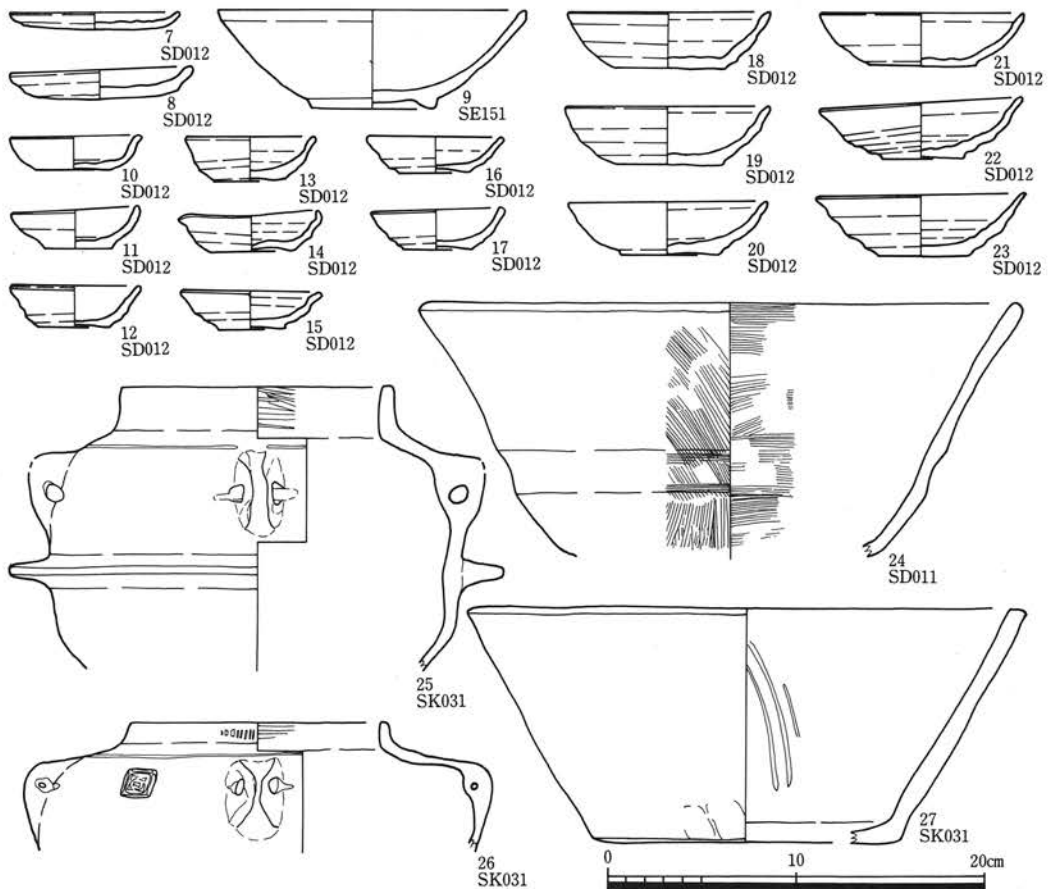


Fig. 46 村徳永遺跡D地区出土遺物実測図2 (S = 1/4)

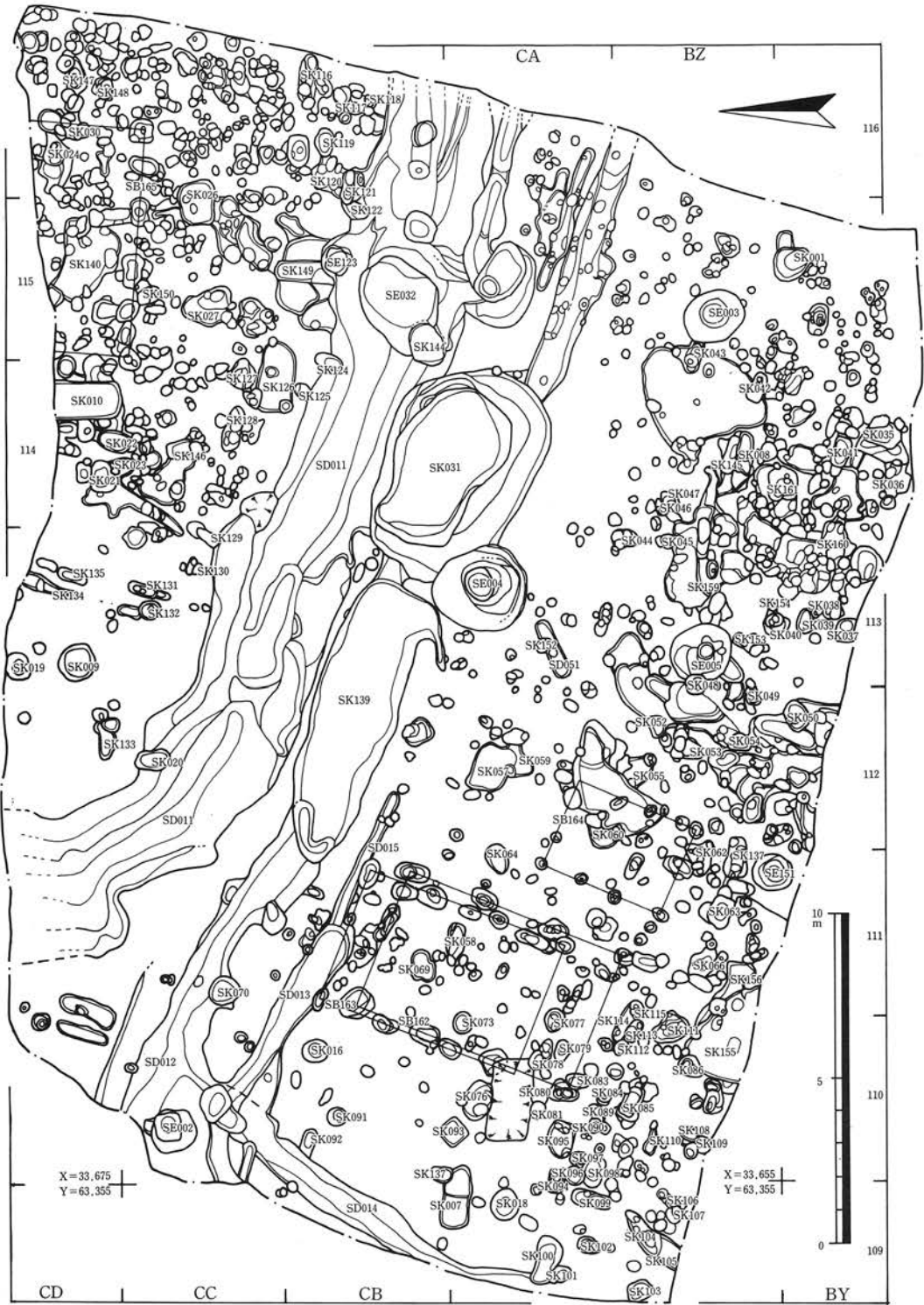


Fig. 47 村徳永遺跡 D地区遺構配置図(S = 1/200)

古 村 遺 跡

VII. 古村遺跡の記録

1. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

佐賀市は佐賀県の東南部に位置し、東は神埼・千代田・諸富町、西は大和・三日月町、北は大和町と接している。佐賀市の北部に連なる脊振山系の南麓には沖積平野が広がっており、今回調査を行なった古村遺跡はこのような平野部に位置している。調査地は弥生集落の調査が行なわれた村徳永遺跡の東方約300mの地点にある。調査地点の標高は9m前後で、畑として利用されており、水田として利用されていた周囲よりも一段高くなっていた。

(2) 歴史的環境

脊振山系南麓にひろがる地域一帯は、豊かな穀倉地帯であるとともに、埋蔵文化財の宝庫としても知られている。今回調査を行なった古村遺跡周辺にも数多くの遺跡が存在する。しかしながら、発掘調査の実施された地点はごくわずかであり、遺跡の概要が把握できているところは少ない。古村遺跡と同じ奈良・平安時代の遺跡としては、大日遺跡、上和泉遺跡、和泉三本栗遺跡などで発掘調査が行なわれている。大日遺跡で奈良時代の掘立柱建物群が調査されている以外は、集落の縁辺部など断片的な調査が行なわれているにすぎない。近年、発掘調査によって、大宰府と肥前国府とを結ぶ古代官道の存在が部分的に明らかにされつつあり、今後この時期の遺跡の調査に期待がもたれる。

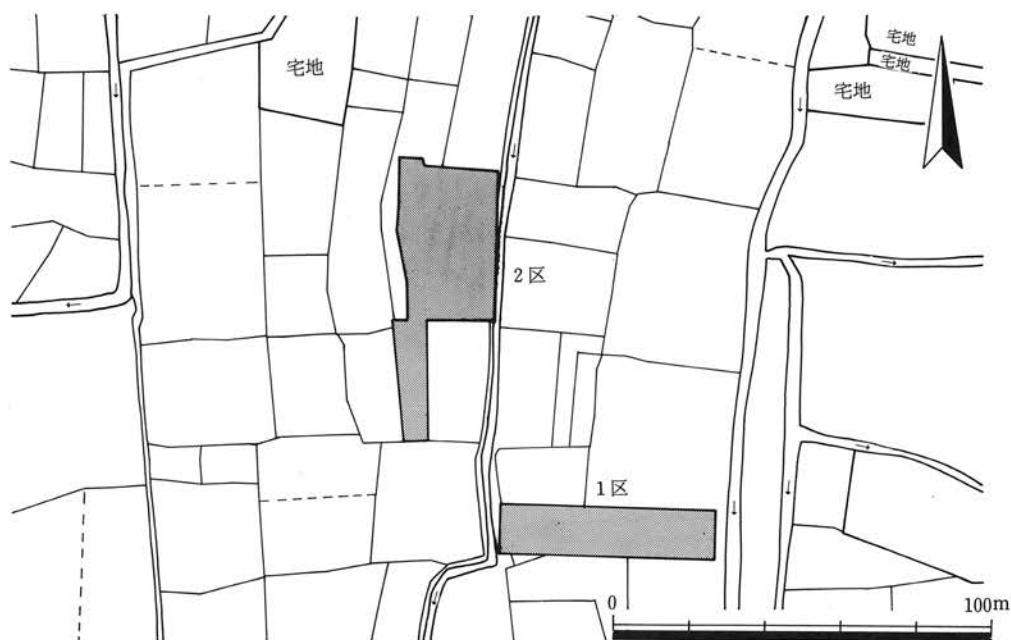


Fig. 48 古村遺跡 1・2区調査区設定図(S = 1/2,000)

2. 調査の概要

今回の調査地は水路予定地部分と掘削を免れない高畑部分の二ヶ所であった。このため南側にある水路予定地の調査区を1区、北側の高畑部分の調査区を2区とし、調査を行なった。

調査区には、今後の古村遺跡の調査に対応できるように、国土座標を利用してグリッドを設定した。X=+33^k920、Y=-63^k190の交点を基準とし、北にAA、AB、AC…、東に1、2、3…と名称を与え、各グリッドの呼び名はAA-1、AA-2と表示することとした。

調査は機械力による表土除去作業から開始した。検出面は黄褐色ないしは褐色を呈し、遺構埋土は黒褐色あるいは暗灰色を基本とする。

1区においては調査区西半部で土壇4基、掘立柱建物1棟を検出したが、遺構から遺物は殆ど出土していない。調査区東半部は谷地形になっており、東にいくにつれて次第に深くなっている。谷部の埋土は黒褐色の遺物包含層であったが、時間上の制約もあり、A・Bの二ヶ所のトレンチを設定して調査を行なった。

2区においては土壇49基、井戸1基、竪穴住居3軒、掘立柱建物5棟、溝3条を検出した。

遺構・遺物は、古墳時代から平安時代にかけてのものであり、調査区北側約1kmには古代官道の推定ラインが存在すること、本調査区で緑釉陶器が出土していることなど注目される点がある。

3. 遺構各説

遺構はすべてについて報告することはできないため、遺物出土状況の比較的良好なものを抽出してその説明を行なうこととする。遺構番号については、100番台のものが1区で検出した遺構、200番台のものが2区で検出した遺構を表す。

SK218土壇 (Fig. 49)

BP-33・34グリッドで検出した。平面形は長軸2.8m、短軸2.4mの不整形形で、深さ約0.4mを測る。埋土は7層に分層可能であった。層中には灰層が確認されているが、遺構底面に火を受けたような痕跡は見られず、焼土を含んだ層も存在しなかった。

SK223土壇 (Fig. 50)

BP-33・34、BQ-33・34グリッドで検出した。SK224を切っている。切り合いのため全体形は不明だが、長径2.5m、短径1.7mの楕円形を呈していたと思われる。深さは約0.2mを測る。埋土は2層に分層可能で、上層が暗灰色土、下層が淡褐色土であった。

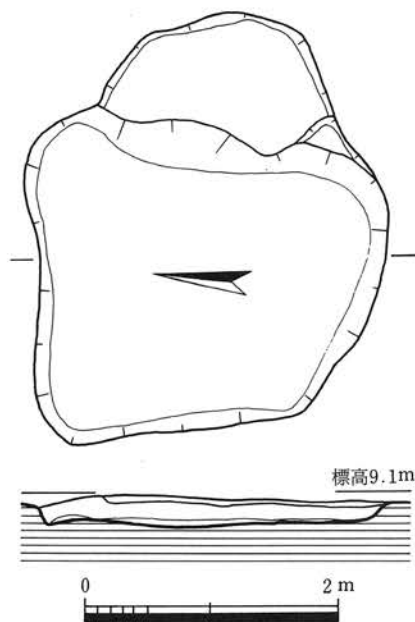


Fig. 49 SK218 実測図 (S = 1/60)

SP224土壌 (Fig. 50)

BP-34、BQ-34グリッドで検出した。SK223、SK225に切られる。切り合いにより遺構の全体形は不明であるが、元来は楕円形を呈していたものと思われる。残存幅は2.6mを測る。遺構底面は平坦である。埋土は暗褐色を基本としている。

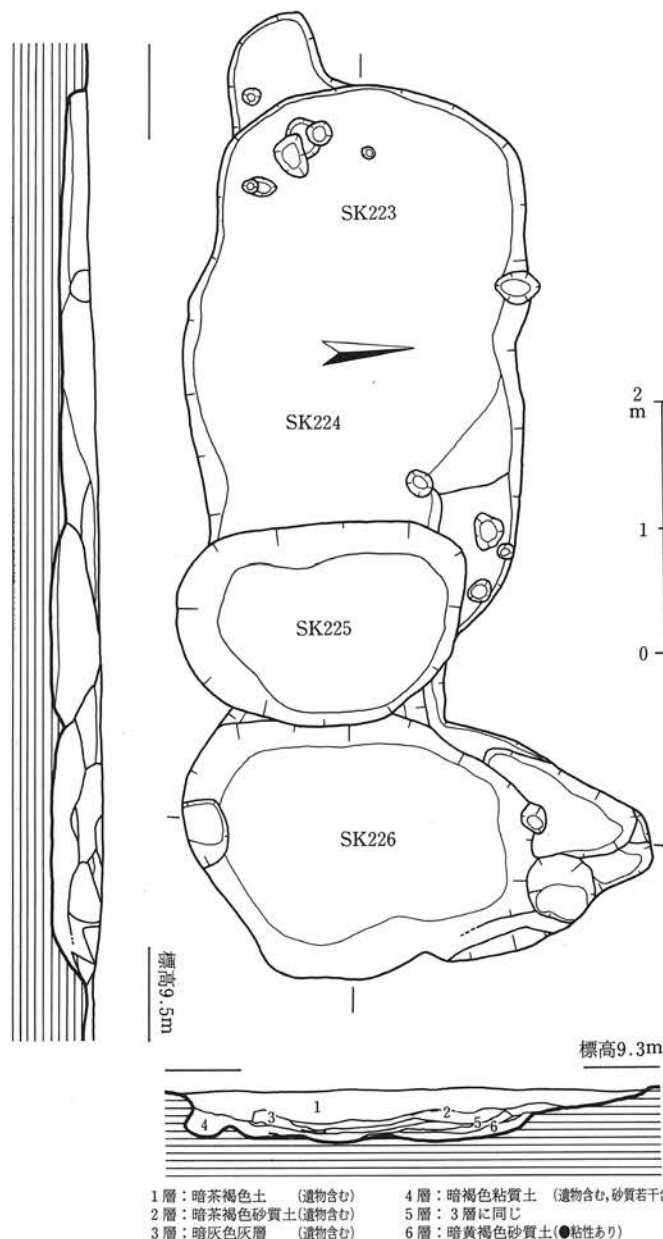


Fig. 50 SK223・224・225・226 実測図 (S = 1/60)

SK225土壌 (Fig. 50)

BP-34、BQ-34グリッドで検出した。平面形は長径2.3m、短径1.6mの楕円形を呈し、深さ0.4mを測る。遺構東西部分で他の遺構と切り合い関係をもち、SK224を切り、SK226に切られている。断面は扁平なU字状を呈する。埋土は基本的には暗褐色であるが、埋土中間に暗灰色の灰層が存在する。遺構底面に火を受けたような痕跡は認められず、埋土中にも焼土の混入はなかった。

SK226土壌 (Fig. 50)

BP-34・35、BQ-34・35グリッドで検出した。平面形は長径3.7m、短径2.0mの不整楕円形で深さ0.4mを測る。SK225を切っている。SK229との切り合いは不明で、本遺構に伴うか否かは確認できなかった。埋土は6層に分層可能で、埋土中間部(3層)及び下部(5層)に暗灰色灰層が存在する。遺構底面に火を受けたような痕跡は認められず、焼土の混入も見られなかった。

1層から緑釉陶器片が出土している。遺構底面直上及び底面か

らやや浮いた状態で土師器坏、土師器碗などがまとまって出土している。

SK221井戸 (Fig. 51)

BQ-34・35、BR-34グリッドで検出した。平面形は直径2.7mの不整形を呈する。遺構西部・南部に平坦面をもち、二段ないしは三段の掘り込みになっている。井戸内からは方形の井戸枠が検出されている。厚さ1~2cmの薄い板を重ねあわせて巡らし、板の内側への崩落を防ぐために、細長い丸木に柵をかませ方形にした枠で内側の上下を押さえている。井戸枠の内外からも板が検出されているが、井戸枠の上部が崩落したものと思われる。

SH220竪穴住居 (Fig. 52)

BN-34・35、BO-34・35、BP-34グリッドで検出した。北東側壁長5.3m、北西側壁長4.7m、南西側壁長4.35m、南東側壁長4.75mのやや歪んだ隅丸方形を呈する。激しく削平を受け、壁高は5~8cmと浅い。床は黄色土ブロック混じりの暗褐色土を貼っている。南西壁中央にはカマドをもつ。カマドは激しい削平のため、その大部分が消失している。4本柱の構造である。南西壁と南東壁に沿って小穴が並んでおり、支柱穴の可能性がある。

SB257掘立柱建物 (Fig. 61)

BS-31・32、BT-31・32、BU-31・32グリッドで検出した。2×2間と思われる南北棟建物で、主軸をN-4°30'-Wにとる。梁行4.1m、桁行5.7m。柱間は、梁間2.0~2.1m、桁間2.2~3.5m。柱穴掘方は径約0.3mの円形ないしは楕円形で、深さ0.4~0.5mを測る。SB258と重複関係にあるが、柱穴の切り合いはなく、その前後関係は不明である。

SB258掘立柱建物 (Fig. 61)

BS-31・32、BT-31・32グリッドで検出した。2×2間の南北棟建物で、主軸をN-9°-Wにとる。梁行4.2m、桁行4.2m。柱間は、梁間0.9~1.1m、桁間2.0~2.2m。柱穴掘方は径約0.3mの円形で、深さ0.2~0.4mを測る。SB257と重複関係にあるが、柱穴の切り合いはなく、その前後関係は不明である。

SB259掘立柱建物 (Fig. 61)

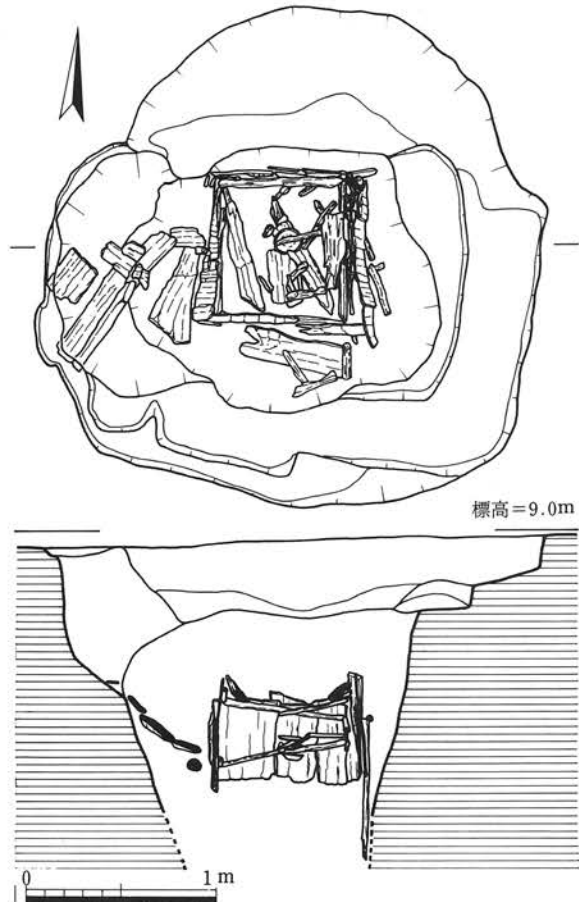


Fig. 51 SE221井戸実測図(S = 1/40)

古村遺跡

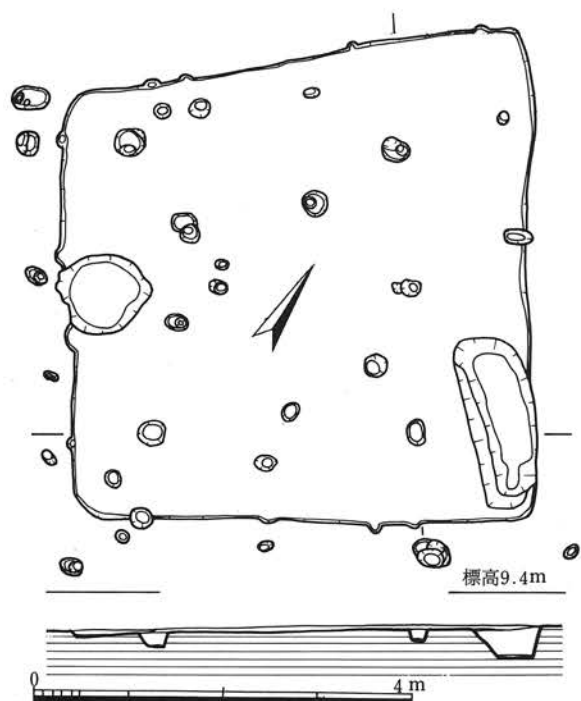


Fig. 52 SH220堅穴住居実測図(S = 1/80)



BQ-32、BR-32、BS-31・32
グリッドで検出した。3×2
間の南北棟建物で、主軸をN
-5°-Wにとる。梁行4.0m、桁
行6.9m。柱間は、梁間
1.8~2.2m、桁間2.2~2.4m。
柱穴掘方は径約0.3m~0.65
mの円形ないしは楕円形で、
深さ0.2~0.5mを測る。
SK212とその前後関係は確認
できなかった。

SB261掘立柱建物

(Fig. 61)

BS-34・35、BT-34・35、BU
-35グリッドで検出した。1面
廂の南北棟で、主軸をN-4°-

Wにとる。身舎は2×2間で、南に1間の廂をもつ。梁行3.8m、桁行7.1mを測る。柱間は、
梁間1.8~2.0m、桁間2.2~2.5m。柱穴掘方は柱穴掘方は径約0.3m~0.6mの円形ないしは楕
円形で、深さ0.2~0.5mを測る。建物の時期を決定できる遺構との切り合いはなかった。

(木島)

4. 遺物各説

1 区包含層出土遺物 (Fig. 53)

二重口縁壺(1) 復元口径19.8cmを測る。外面は淡褐色で内面は黒褐色を呈する。頸部は開
き気味にゆるやかに立上がり、そのまま一次口縁となり、さらに外反する二次口縁へとつなが
る。また、肩部には、三条の沈線をめぐらす。口縁部には横ナデ調整、胴部内面には横方向の
ヘラケズリ調整、外面にはハケ目調整を行なう。

石製品(2) 瑪瑙製の勾玉で、半透明の黄褐色を呈する。長さ4.1cmを測る。穿孔は一方向
で、穿孔の際の剝離と考えられる痕跡がある。

木製品(3・4) 3は下駄で、長さ26.8cm、幅9.5cmを測る。蓮歯で、前歯、後歯とも大部
分欠損しているが、台と歯の横幅は等しい。鼻緒の位置から左足用と思われる。4は舟形木製
品と考えられ、全長57cmを測る。およそ半分を欠損するが遺存状態は良く、加工も丁寧である。
両端部には舳艫と思われるものを削り出し、船底部にはノミ状工具の痕を残す。(西田)

SK218出土遺物 (Fig. 54)

古村遺跡

坏(1~3) 土師器である。口径11.6~12.7cm、器高3.2~3.7cmを測る。基本的には体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なうが、1は内底まで回転ナデ調整が及ぶ。すべて底部は回転ヘラ切り離しであり、1には板状圧痕が残る。

甕(4) 復元口径27.4cmを測る。口縁部には横ナデ調整、胴部外面にはハケ目調整、胴部内面にはヘラケズリ調整を行なう。暗褐色を呈する。

SK220出土遺物 (Fig. 55)

蓋(5) 須恵器である。復元口径13.7cmを測り、口縁部及び内器面には回転横ナデ調整、体部外面にはナデ調整、天井部外面には回転ヘラケズリ調整を行なう。

坏(6) 須恵器である。復元口径13.1cmを測る。磨耗のため調整は不明瞭である。

甕(7~9) 復元口径はそれぞれ17.7cm、24.7cm、29.4cmを測る。口縁部には横ナデ調整、

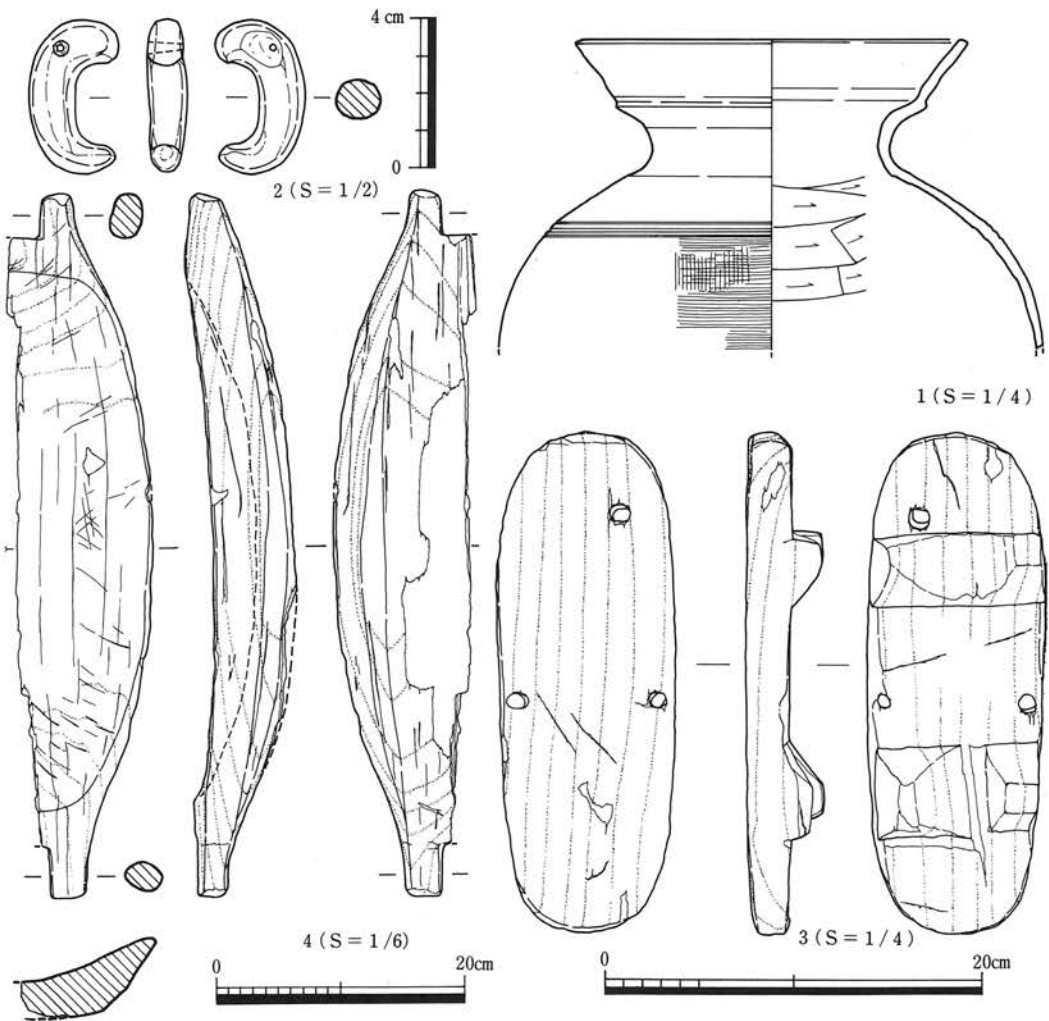


Fig. 53 古村遺跡 1区出土遺物実測図(S = 1/2 · 1/4 · 1/6)

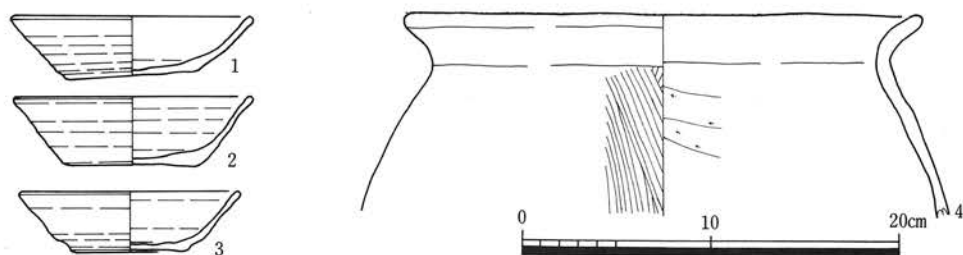


Fig. 54 SK218出土遺物実測図(S = 1/4)

胴部外面にはハケ目調整、胴部内面にはヘラケズリ調整を行なう。

SE221出土遺物 (Fig. 56)

皿(10~14) 11は須恵器で、それ以外は土師器である。復元口径13.4~16.0cmを測る。体部内外面及び内底には回転横ナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離しである。14は外底に板状圧痕を残し、焼成後に底部穿孔が外面から行なわれている。11は暗灰色、他は淡赤褐色~暗黄褐色を呈する。

坏(15・16) ともに土師器である。それぞれ復元口径12.0・13.2cm、器高3.2・3.9cmを測る。体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離しである。黄赤褐色・暗黄褐色を呈する。

碗(17・18) ともに土師器である。それぞれ口径14.9・15.0cm、器高4.7・5.5cmを測る。17は体部内外面に回転ナデ調整、内底にナデ調整を行なう。18は器面磨耗のため調整不明瞭である。暗黄褐色を呈する。

壺(19) 須恵器である。口径9.0cmを測る。器面には回転ナデ調整を行なう。暗青灰色を呈する。

管状土錘(20・21) 20は長さ5.3cm、最大幅1.7cmを測る。21は一部を欠失し、残存長4.5cm最大幅1.7cmを測る。

つまみ(22) 残存長3.2cm、最大幅2.1cmを測る。何らかの器種に付随するものであろうが、現時点では不明である。

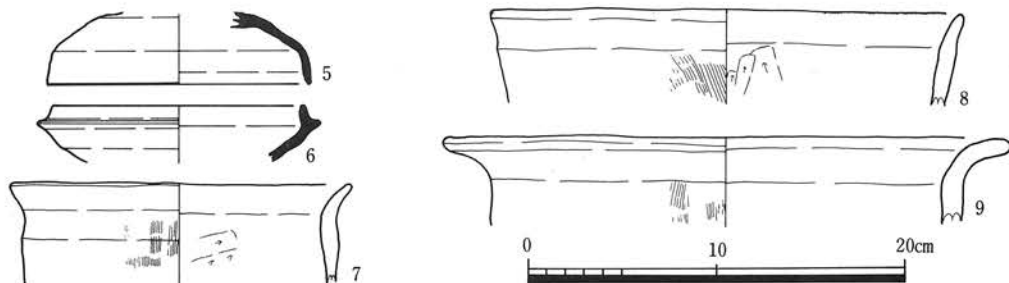


Fig. 55 SH220出土遺物実測図(S = 1/4)

古村遺跡

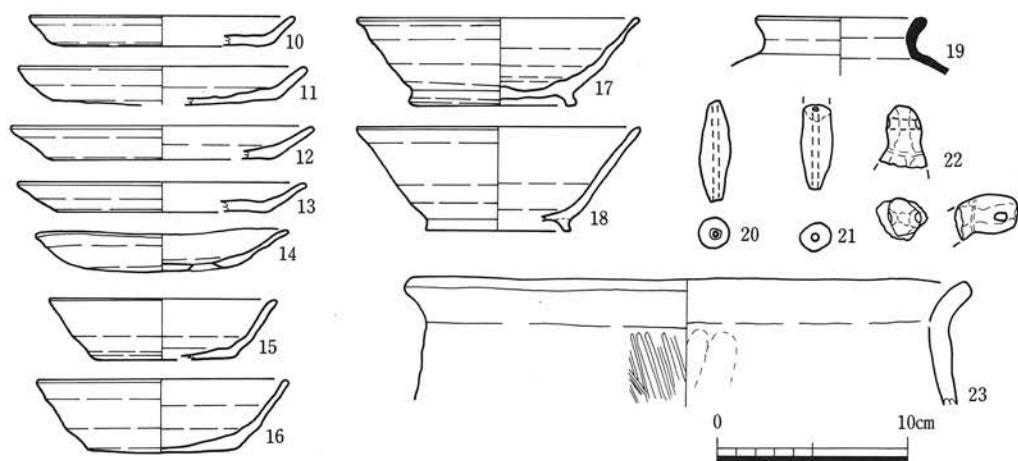


Fig. 56 SE221出土遺物実測図(S = 1 / 4)

甕(23) 復元口径30.0cmを測る。口縁部には横ナデ調整、胴部外面には斜め方向のミガキ調整、胴部内面にはナデ調整を行なう。外器面にはカーボンの付着が見られる。

SK223出土遺物 (Fig. 57)

坏(24~34) すべて土師器である。口径11.9~14.8cm、器高2.8~3.8cmを測る。体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離しである。24、26~28、31~34には板状圧痕を有する。赤黄褐色~黄褐色を呈する。

皿(35~37) すべて土師器である。口径12.6~15.0cm、器高1.9~2.3cmを測る。体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離しである。37は板状圧痕を有する。

台付皿(38) 土師器である。口径14.6cm、器高4.2cmを測る。体部内外面及び高台内面にかけては横ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。赤灰色を呈する。

碗(39~41) すべて土師器である。復元口径13.5~14.6cm、器高5.5~6.8cmを測る。体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整、高台内面には横ナデ調整を行なう。底部には板状圧痕を有する。赤褐色~淡赤黄褐色を呈する。

鉢(42) 復元口径25cmを測る。口縁部から胴部内面にかけては横ナデ調整、胴部外面には不明瞭ながらハケ目調整を行なう。胴部外面上半部には煤の付着が見られることから、鍋として使用されたと思われる。赤黄褐色を呈する。

甕(43・44) それぞれ復元口径25・22cmを測る。口縁部には横ナデ調整、胴部外面にはハケ目調整、胴部内面にはヘラケズリ調整を行なう。赤黄褐色・赤黄灰色を呈する。

甗(45) 復元底径21.2cmを測る。内面にはナデ調整、外面には不明瞭ながらハケ目調整が行なわれる。淡赤黄褐色を呈する。

SK224出土遺物 (Fig. 58)

古村遺跡

蓋 (46) 土師器である。復元口径17.4cmを測る。内外面ともに回転ナデ調整を行なう。

皿 (47・48) いずれも土師器である。それぞれ復元口径13.9・15.6cm、器高2.1・1.6cmを測る。体部内外面及び内底には回転ナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離しであり、その後にナデ調整を行なう。赤褐色～淡黄赤褐色を呈する。

坏 (49・50) いずれも土師器である。それぞれ口径11.9・12.6cm、器高3.5・3.4cmを測る。基本的には体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なうが、50は内底まで回転ナデ調整が及んでいる。底部は回転ヘラ切り離しである。黄赤褐色を呈する。

碗 (51) 須恵器である。復元口径11.0cm、器高3.3cmを測る。体部内外面及び内底には回転ナデ調整を行なう。口縁部外面には自然釉がかかる。暗灰色を呈する。

SK225出土遺物 (Fig. 59)

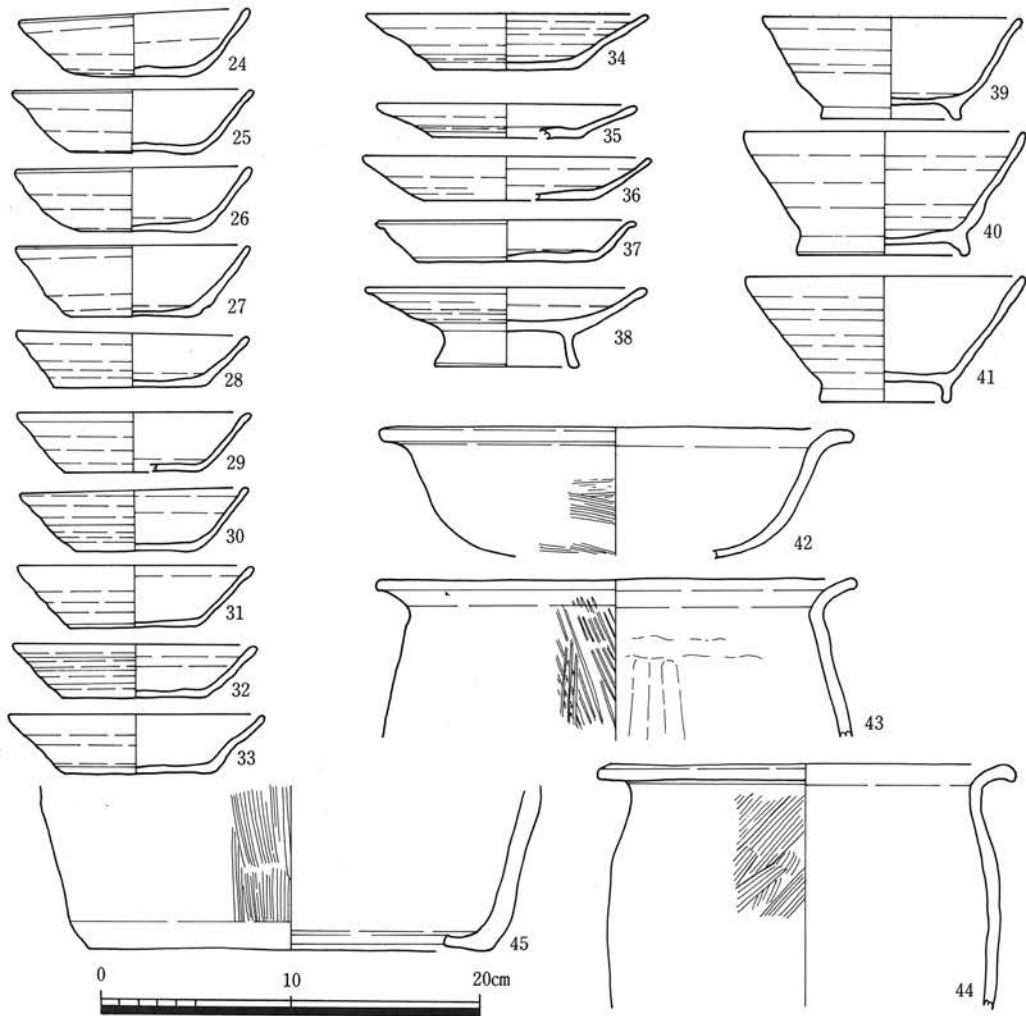


Fig. 57 SK223出土遺物実測図 (S = 1/4)

古村遺跡

坏 (52~71) すべて土師器である。口径
11.7~13.0cm、器高3.0~3.8cmを測る。体部内外
面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。
底部は回転ヘラ切り離しである。53・54・57・66・
68・69以外は外底に板状圧痕を有する。52・59・
60・62は器面の一部に黒斑を有する。59は底部に
穿孔が見られる。

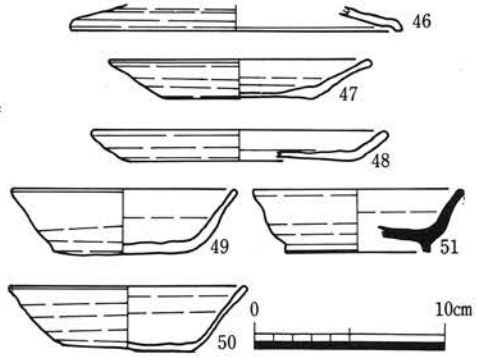


Fig. 58 SK224出土遺物実測図(S = 1/4)

碗 (72~81) 72~79は土師器で、口径
12.9~15.5cm、器高5.6~7.4cmを測る。体部内外
面は回転ナデ調整、内底はナデ調整を行なう。73・75・77・78・79は外底に板状圧痕を残す。
淡黄橙色~黄橙色を呈する。80・81は黒色土器B (内面のみ燻し) である。それぞれ復元口径
12.6・11.9cm、器高5.1・4.3cmを測る。体部外面は回転ナデ調整を行なう。内面は81が不明瞭

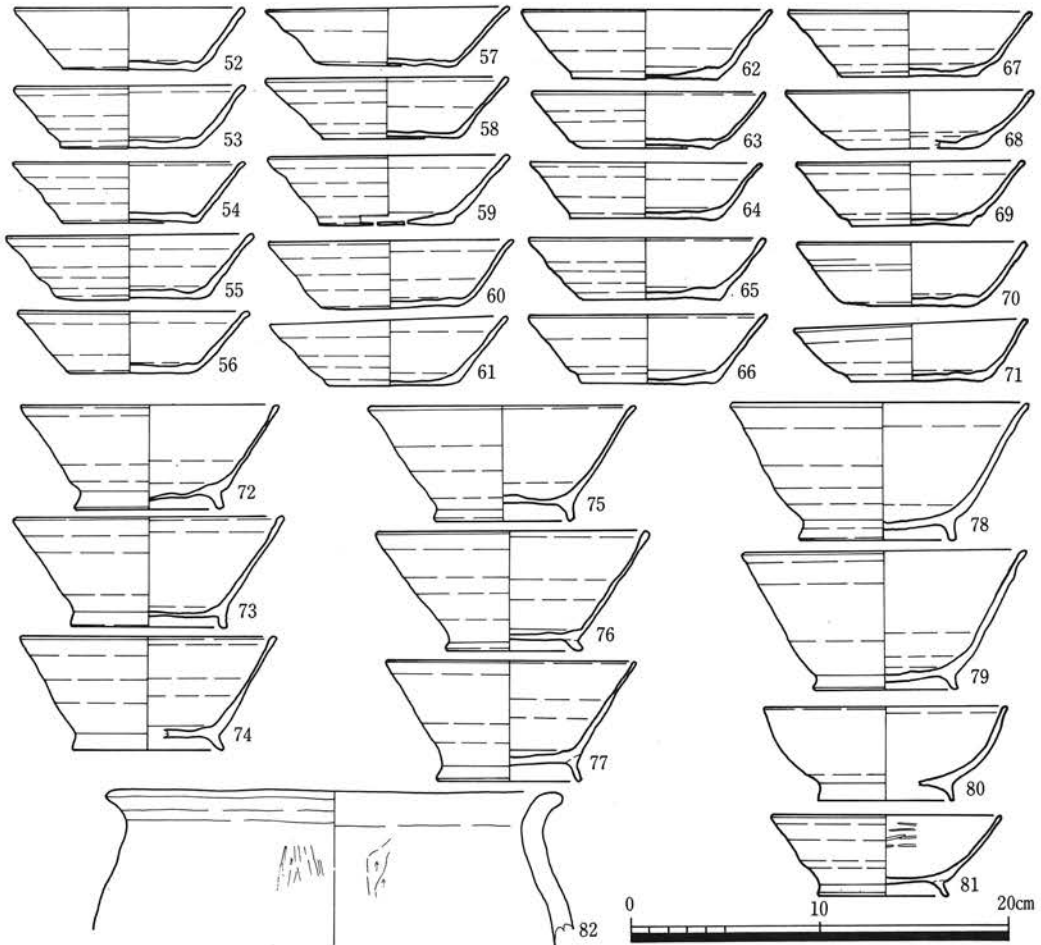


Fig. 59 SK225出土遺物実測図(S = 1/4)

ながらヘラミガキ調整が認められるが、80は調整不明である。

甕(82) 復元口径23.0cmを測る。口縁部内外面は横ナデ調整、胴部外面はハケ目調整、胴部内面はヘラケズリ調整である。淡黄褐色を呈する。

SK226出土遺物 (Fig. 60)

皿(83~89) すべて土師器である。復元口径13.1~20.3cm、器高1.4~2.0cmを測る。体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離しである。

坏(90~106) すべて土師器である。90は口径13.3cm、器高2.3cm、91~106は口径12.1~12.8

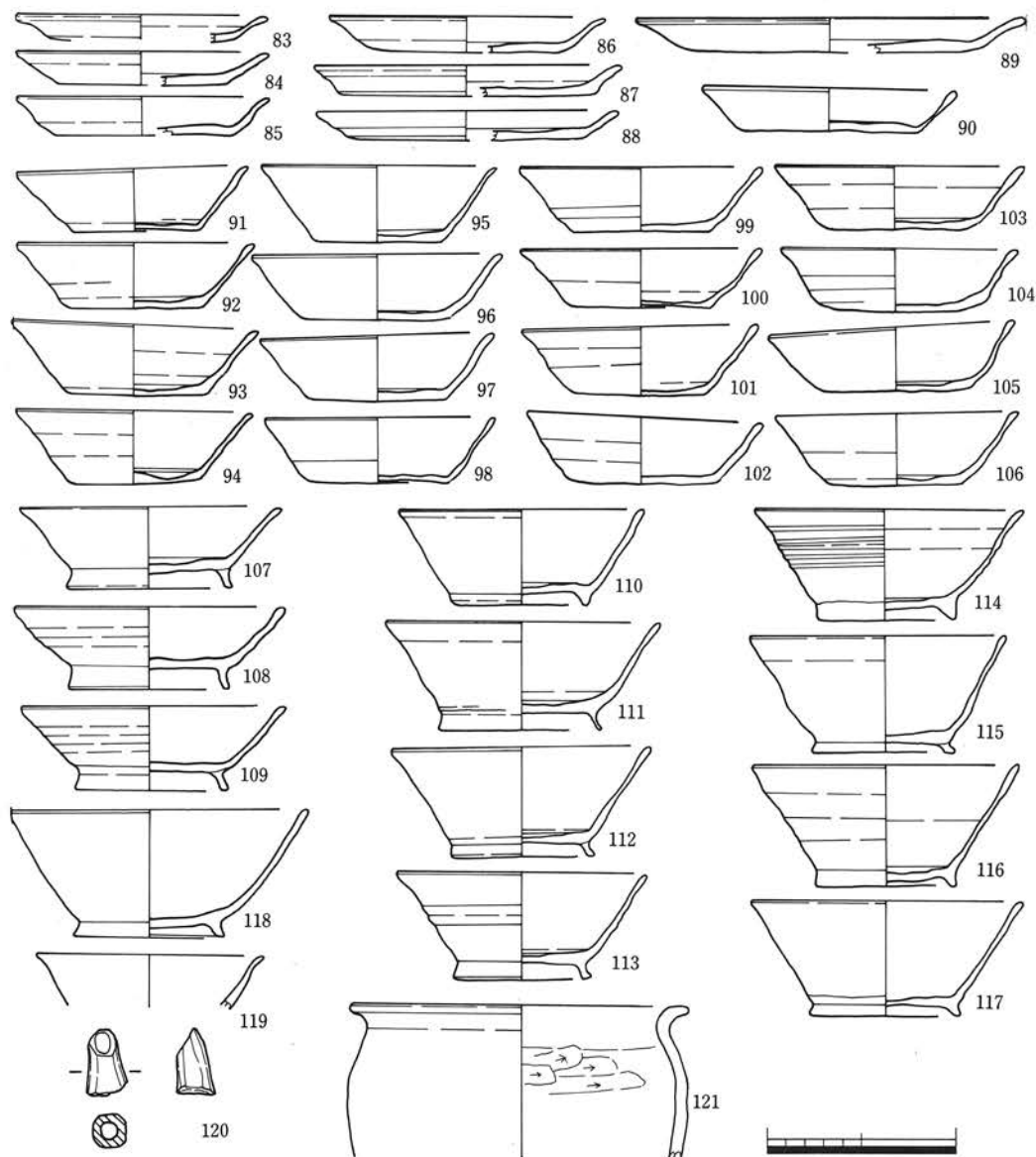


Fig. 60 SK226出土遺物実測図(S = 1/4)

古村遺跡

cm、器高3.2～3.8cmを測る。体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。底部は回転ヘラ切り離して、91・92・94～97・104は板状圧痕を有する。黄褐色～淡赤黄褐色を呈する。

碗(107～119) 107～117は土師器で、口径12.9～14.2cm、器高4.3～6.5cmを測る。体部内外面には回転ナデ調整、内底にはナデ調整を行なう。黄褐色～淡黄褐色を呈する。118は黒色土器A(内面のみ燻す)で、口径15.7cm、器高6.8cmを測る。体部内外面及び内底にはヘラミガキ調整を行なう。外面は淡黄褐色、内面は黒色を呈する。119は緑釉陶器であり、復元口径12.0cmを測る。軟質な胎土の器面全体に緑釉を施釉するが、釉の剝落が著しい。109・111・119以外は底部に板状圧痕を有する。

注口(120) 緑釉陶器である。残存最大長3.5cm、最大幅2.1cmを測る。断面八角形の注口である。胎土はやや軟質である。

甕(121) 復元口径18.0cmを測る。口縁部内外面には横ナデ調整、胴部内面には横ナデ調整を行い、胴部外面はハケ目調整をナデ消している。黄褐色を呈する。(木島)

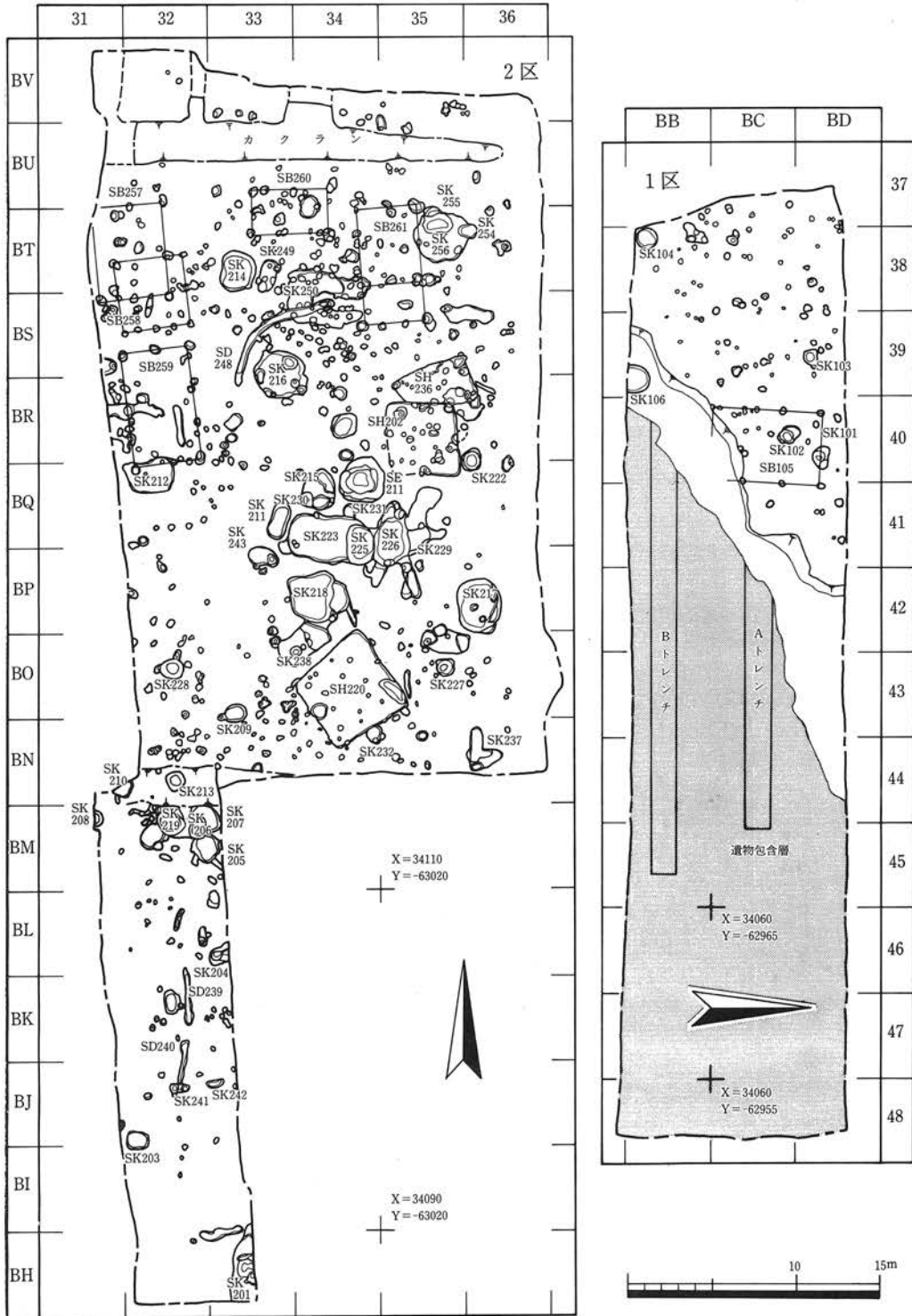
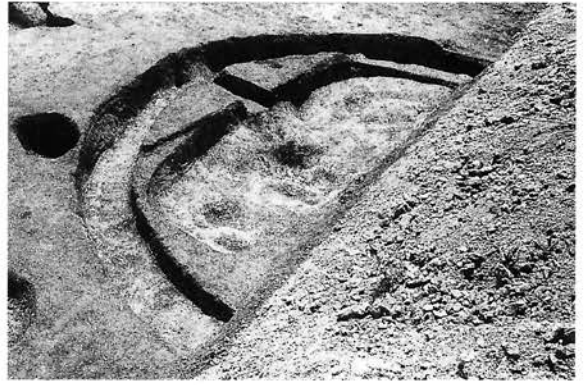


Fig. 61 古村遺跡 1区・2区遺構配置図(S = 1/400)



PL.1-1 II区全景



PL.1-2 SR001



PL.1-3 SE001 土層断面



PL.1-4 SE001 遺物出土状況



PL.1-5 SR004



PL.1-6 SD016 遺物出土状況



PL.1-7 SR008



PL.1-8 SR008 遺物出土状況



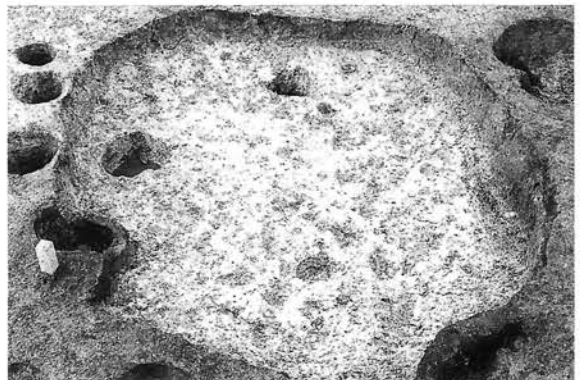
PL.2-1 6区全景



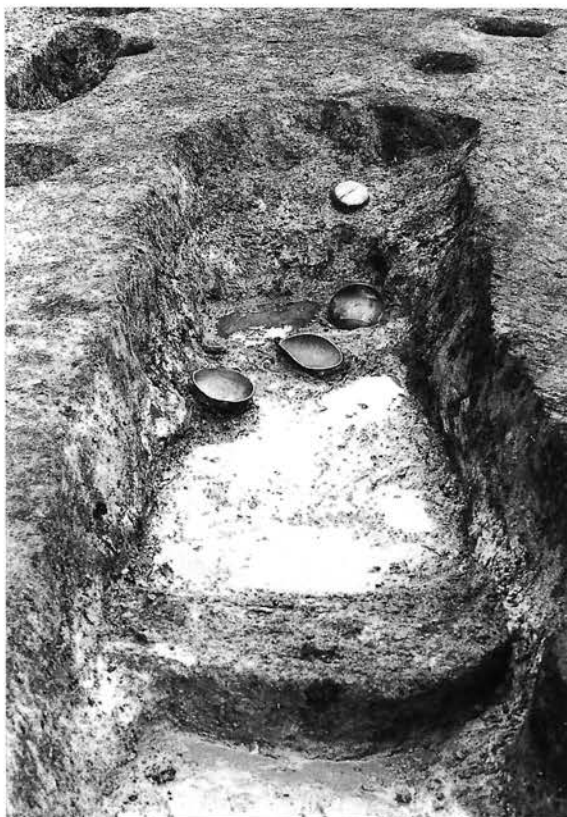
PL.2-2 SD616・614 土層断面



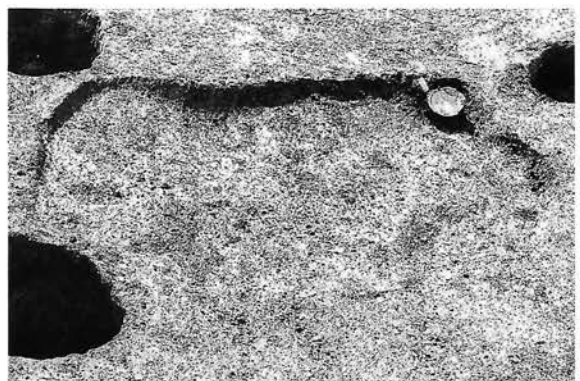
PL.2-3 SK609



PL.2-4 SK606



PL.2-5 SK605



PL.2-6 SP601



PL.2-7 SE301 井戸枠検出状況



PL.3-1 阿高遺跡 (B地区) 全景



PL.3-2 SK005 土壤



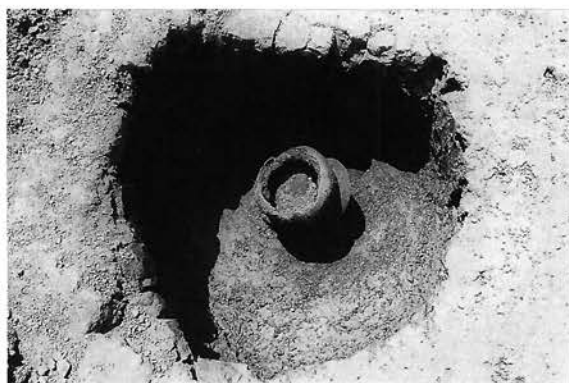
PL.3-3 SK011 土壤



PL.3-4 SK015 土壤



PL.3-5 SK025 土壤



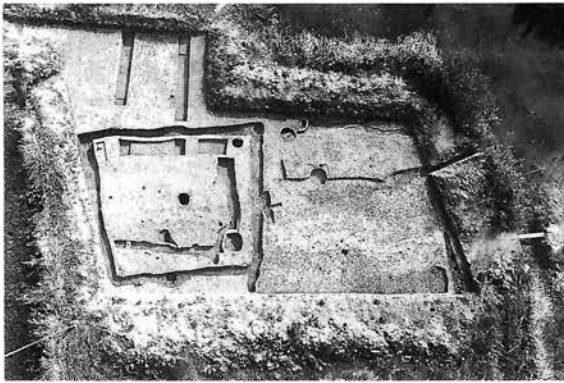
PL.3-6 SK032 土壤



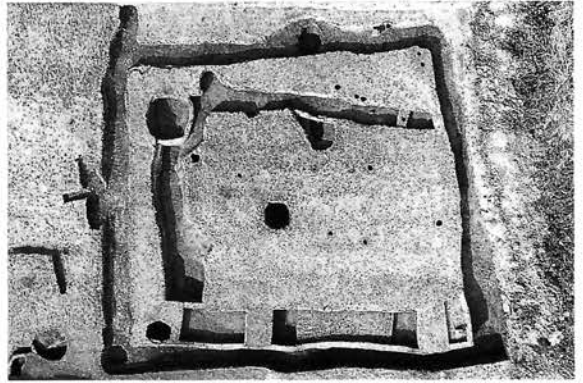
PL.3-7 SE017 井戸



PL.3-8 SE023 井戸



PL.4-1 牟田寄遺跡 (A地区) 全景



PL.4-2 SD001・002 周溝遺構



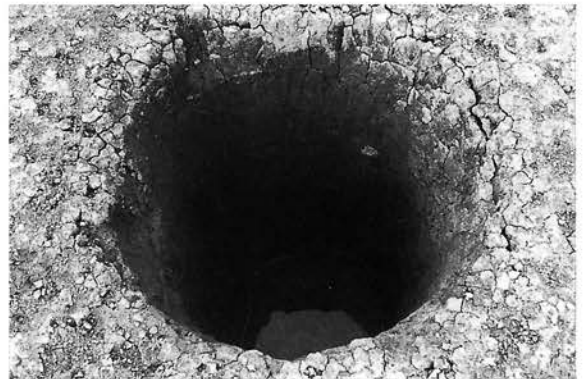
PL.4-3 SD601・602 周辺



PL.4-4 SK0061 土壇



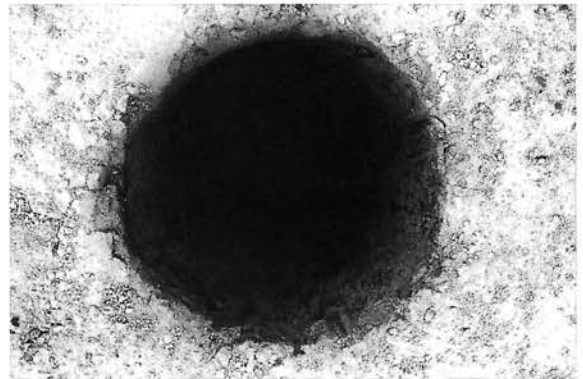
PL.4-5 SK016 土壇



PL.4-6 SE004 井戸



PL.4-7 SE006 井戸



PL.4-8 SE007 井戸



PL. 5-1 村徳永遺跡D地区調査区南半部



PL. 5-2 村徳永遺跡D地区調査区北半部



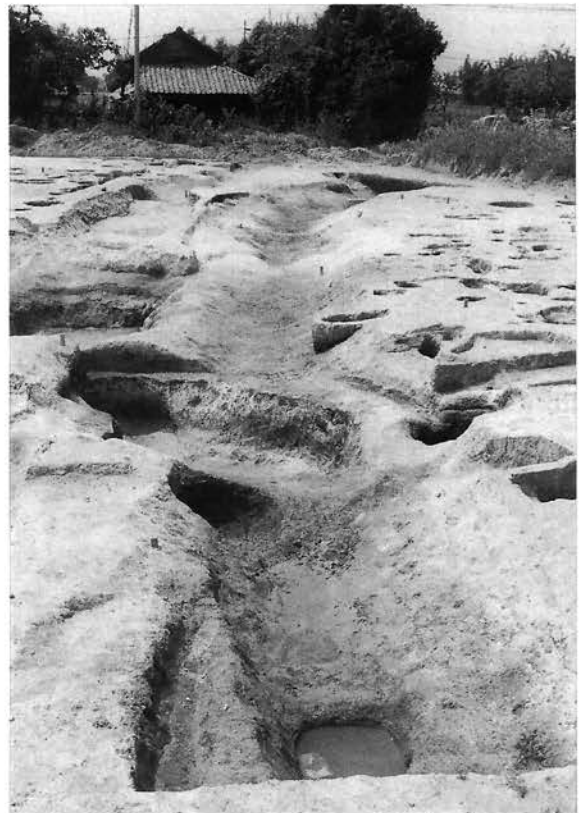
PL. 5-3 SK007



PL. 5-4 SE151



P.5-5 SD011 溝 (西から)



PL. 5-7 SD011 (東から)



PL. 5-6 SP031



PL.6-1 古村遺跡 1区調査区全景



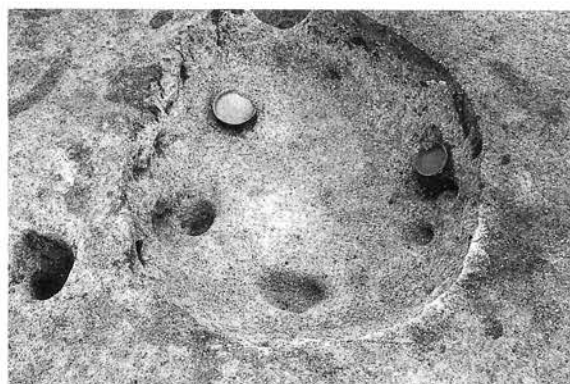
PL.6-2 古村遺跡 2区調査区全景



PL.6-3 SH220



PL.6-4 SE22



PL.6-5 SK209



PL.6-6 SK225



PL.6-7 SK226

南宿遺跡収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法	重量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘期	結合Fig号	コナ号料	A・Bの別
NSK-001	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径23.6㎝ 底径— 器高5.5㎝	SK003	1989.04	19-75	—	—	1	B
NSK-002	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径18.8㎝ 底径— 器高6.6㎝	SK003	1989.04	19-76	—	—	1	B
NSK-003	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径22.2㎝ 底径— 器高10.1㎝	SK003	1989.04	19-77	—	—	1	B
NSK-004	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径27.0㎝ 底径— 器高4.2㎝	SK003	1989.04	19-78	7-004	—	1	A
NSK-005	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径39.6㎝ 底径— 器高6.4㎝	SK003	1989.04	20-79	—	—	1	B
NSK-006	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径31.0㎝ 底径— 器高11.1㎝	SK003	1989.04	20-80	7-006	—	1	A
NSK-007	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径36.2㎝ 底径— 器高3.5㎝	SK003	1989.04	20-81	7-007	—	1	A
NSK-008	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径9.5 器高10.0㎝	SK003	1989.04	22-90	—	—	1	B
NSK-009	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径10.0 器高4.0㎝	SK003	1989.04	22-91	—	—	1	B
NSK-010	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径5.0 器高3.6㎝	SK003	1989.04	22-92	—	—	1	B
NSK-011	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.5 器高9.1㎝	SK003	1989.04	22-93	—	—	1	B
NSK-012	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径10.0 器高8.6㎝	SK003	1989.04	22-94	—	—	1	B
NSK-013	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径16.0㎝ 底径— 器高5.1㎝	SK003	1989.04	21-85	8-013	—	1	A
NSK-014	鉢	弥生土器	弥生	完存	口径11.0 底径5.9 器高8.7	SK003	1989.04	21-82	8-014	—	1	A
NSK-015	鉢	弥生土器	弥生	完存	口径10.6 底径4.6 器高8.0	SK003	1989.04	21-83	8-015	—	1	A
NSK-016	鉢	弥生土器	弥生	80	口径9.5 底径4.5 器高7.8	SK003	1989.04	21-84	8-016	—	1	A
NSK-017	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径— 器高9.6㎝	SK003	1989.04	21-89	—	—	1	B
NSK-018	器台	弥生土器	弥生	不明	受部径9.5㎝ 底径— 器高8.6㎝	SK003	1989.04	21-86	—	—	1	B
NSK-019	器台	弥生土器	弥生	不明	裾部径12.8㎝ 底径— 器高8.0㎝	SK003	1989.04	21-87	—	—	1	B

南宿遺跡I種

番号	名称	種別	時代	重量(%)	法	量 (cm.g)	遺構名	出土年月	類別	結合ig番号	コナリ番号	A・Bの別
NSK-020	蓋	弥生土器	弥生	不明	頭部径 6.2	器高 7.5g	SK003	1989.04	22-88	—	1	B
NSK-021	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径34.4g	器高 9.9g	SK004	1989.04	4-16	—	2	B
NSK-022	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径31.6g	器高 3.7g	SK004	1989.04	4-17	—	2	B
NSK-023	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径32.0g	器高 5.4g	SK004	1989.04	4-18	—	2	B
NSK-024	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径31.8g	器高 6.8g	SK004	1989.04	4-19	—	2	B
NSK-025	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径31.0g	器高 6.2g	SK004	1989.04	5-20	—	2	B
NSK-026	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径13.8g	器高 8.0g	SK004	1989.04	5-21	7-026	2	A
NSK-027	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径14.4g	器高 5.2g	SK004	1989.04	5-22	7-027	2	A
NSK-028	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径21.6g	器高 5.5g	SK004	1989.04	8-39	—	2	B
NSK-029	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径28.4g	器高 4.1g	SK004	1989.04	9-40	—	2	B
NSK-030	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径—	器高15.1g	SK004	1989.04	6-24	7-030	2	A
NSK-031	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径—	器高 7.4g	SK004	1989.04	6-25	—	2	B
NSK-032	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径—	器高 4.7g	SK004	1989.04	6-26	—	2	B
NSK-033	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径—	器高 8.0g	SK004	1989.04	6-27	—	2	B
NSK-034	瓜口甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径27.0g	器高 2.2g	SK004	1989.04	7-31	—	2	B
NSK-035	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径—	器高 9.0g	SK004	1989.04	7-32	—	2	B
NSK-036	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径—	器高 3.2g	SK004	1989.04	6-28	—	2	B
NSK-037	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径—	器高 4.8g	SK004	1989.04	6-29	—	2	B
NSK-038	鉢	弥生土器	弥生	25	口径 8.2g	器高 5.1g	SK004	1989.04	5-23	—	2	B

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘層	結核ig番号	コナリ番号	A・Bの別
NSK-039	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径14.8雫 底径— 器高7.3雫	SK004	1989.04	7-33	8-039	2	A
NSK-040	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径25.8雫 底径— 器高6.6雫	SK004	1989.04	8-35	8-040	2	A
NSK-041	器台	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径11.8雫 器高6.3雫	SK004	1989.04	8-34	—	2	B
NSK-042	器台	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径10.6雫 器高5.5雫	SK004	1989.04	8-36	—	2	B
NSK-043	器台	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径12.2雫 器高4.1雫	SK004	1989.04	8-37	—	2	B
NSK-044	器台	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径9.8雫 器高5.6雫	SK004	1989.04	8-39	—	2	B
NSK-045	蓋	弥生土器	弥生	不明	口径32.2雫 底径— 器高4.5雫	SK004	1989.04	7-30	8-045	2	A
NSK-046	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径25.6雫 底径— 器高4.2雫	SK013	1989.04	27-105	—	2	B
NSK-047	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径26.0雫 底径— 器高5.7雫	SK013	1989.04	27-106	—	2	B
NSK-048	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径25.2雫 底径— 器高6.2雫	SK013	1989.04	27-107	—	2	B
NSK-049	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.1 器高11.8雫	SK013	1989.04	28-108	—	2	B
NSK-050	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径9.1 器高12.2雫	SK013	1989.04	28-109	—	2	B
NSK-051	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.8 器高6.5雫	SK013	1989.04	28-110	—	2	B
NSK-052	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径25.6雫 底径— 器高7.2雫	SK014	1989.04	29-111	—	2	B
NSK-053	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径24.0雫 底径— 器高7.7雫	SK014	1989.04	29-112	—	2	B
NSK-054	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径17.4雫 底径— 器高4.5雫	SK014	1989.04	29-113	—	2	B
NSK-055	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径28.0雫 底径— 器高7.1雫	SK014	1989.04	29-114	—	2	B
NSK-056	高坏 (坏部)	弥生土器	弥生	不明	口径17.7雫 底径— 器高6.1雫	SK014	1989.04	29-116	8-056	2	A
NSK-057	高坏 (脚部)	弥生土器	弥生	不明	— 脚部径16.0雫 器高3.5雫	SK014	1989.04	29-115	—	2	B

番号	名称	種別	時代	保存率(%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	果穂番号	結合番号	A・Bの別
NSK-068	器台	弥生土器	弥生	不明	— 裾部径10.0 器高13.1g	SK014	1989.04	30-117	3	B
NSK-069	器台	弥生土器	弥生	不明	— 裾部径 8.0 器高 9.8g	SK014	1989.04	30-118	3	B
NSK-060	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径28.2㎜ 底径 — 器高 9.8g	SK014	1989.04	30-119	3	B
NSK-061	甕	弥生土器	弥生	不明	口径33.0㎜ 底径 — 器高29.7g	SR008	1989.04	23-95	4	A
NSK-062	甕	弥生土器	弥生	不明	口径 — 底径 — 器高15.4g	SR008	1989.04	24-97	4	A
NSK-063	甕 (底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径 — 底径11.4 器高 6.1g	SR008	1989.04	24-98	4	B
NSK-064	鉢	弥生土器	弥生	30	口径16.6㎜ 底径 7.6 器高10.6	SR008	1989.04	23-96	4	A
NSK-065	壺	弥生土器	弥生	30	口径 8.2 底径 5.3 器高17.6	SD016	1989.04	12-48	4	A
NSK-066	壺	弥生土器	弥生	不明	口径 — 底径 — 器高22.3g	SD016	1989.04	12-49	4	A
NSK-067	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径24.2㎜ 底径 — 器高 3.4g	SE001	1989.04	14-52	5	B
NSK-068	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径26.0㎜ 底径 — 器高 6.5g	SE001	1989.04	15-58	5	B
NSK-069	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	未計測	SE001	1989.04	—	5	B
NSK-070	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径16.8㎜ 底径 — 器高 5.1g	SE001	1989.04	15-60	5	B
NSK-071	甕	弥生土器	弥生	不明	口径25.0㎜ 底径 — 器高25.2g	SE001	1989.04	16-65	5	A
NSK-072	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径25.0㎜ 底径 — 器高 5.0g	SE001	1989.04	16-66	5	B
NSK-073	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径26.0㎜ 底径 — 器高 6.7g	SE001	1989.04	16-67	5	B
NSK-074	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径26.8㎜ 底径 — 器高 8.7g	SE001	1989.04	17-68	5	B
NSK-075	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径22.6㎜ 底径 — 器高 6.2g	SE001	1989.04	17-69	5	B
NSK-076	甕 (口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径27.4㎜ 底径 — 器高10.8g	SE001	1989.04	18-72	5	B

番号	名称	種別	時代	発祥率(%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別群	粘着剤番号	コナリ番号	A・Bの別
NSK-077	甕	弥生土器	弥生	6.5	口径18.2㎝ 底径11.1 器高24.1	SE001	1989.04	13-51	7-077	6	A
NSK-078	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径11.1 器高11.2㎝	SE001	1989.04	13-50	7-078	6	A
NSK-079	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	未計測	SE001	1989.04	—	—	6	B
NSK-080	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	未計測	SE001	1989.04	—	—	6	B
NSK-081	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径11.6㎝ 底径— 器高8.9㎝	SE001	1989.04	17-70	—	6	B
NSK-082	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径14.2㎝ 底径— 器高6.4㎝	SE001	1989.04	15-59	7-082	6	A
NSK-083	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.0㎝ 器高5.3㎝	SE001	1989.04	14-53	—	6	B
NSK-084	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径10.4㎝ 器高2.9㎝	SE001	1989.04	14-54	—	6	B
NSK-085	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径13.2㎝ 器高7.2㎝	SE001	1989.04	18-73	—	6	B
NSK-086	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径11.0㎝ 器高4.7㎝	SE001	1989.04	18-74	—	6	B
NSK-087	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径15.2㎝ 底径— 器高3.9㎝	SE001	1989.04	14-57	—	6	B
NSK-088	高坏(脚部)	弥生土器	弥生	不明	口径— 脚部径20.2㎝ 器高7.3㎝	SE001	1989.04	14-56	—	6	B
NSK-089	高坏(脚部)	弥生土器	弥生	不明	口径— 脚部径16.8 器高12.8㎝	SE001	1989.04	17-71	8-089	6	A
NSK-090	蓋	弥生土器	弥生	不明	口径17.0㎝ 底径— 器高2.3㎝	SE001	1989.04	15-64	8-090	6	A
NSK-091	不明土器	弥生土器	弥生	不明	未計測	SE001	1989.04	14-55	—	6	B
NSK-092	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径24.4㎝ 底径— 器高4.7㎝	SE010	1989.04	10-41	—	7	B
NSK-093	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径17.2㎝ 底径— 器高7.8㎝	SE010	1989.04	10-42	—	7	B
NSK-094	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径25.8㎝ 底径— 器高8.4㎝	SE010	1989.04	10-43	—	7	B
NSK-095	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径17.2㎝ 底径— 器高4.9㎝	SE010	1989.04	11-44	—	7	B

番号	名称	種別	時代	重量(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘層	船積No	コンテナー番号	A・Bの別
NSK-086	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径6.3# 器高4.9#	SE010	SE010	1989.04	11-45	—	7	B
NSK-087	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.4# 器高4.4#	SE010	SE010	1989.04	11-46	—	7	B
NSK-088	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.2# 器高4.5#	SE010	SE010	1989.04	11-47	—	7	B
NSK-089	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径28.0# 底径— 器高4.5#	SR002	SR002	1989.04	1-1	—	7	B
NSK-100	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径27.2# 底径— 器高5.8#	SR002	SR002	1989.04	1-2	—	7	B
NSK-101	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径28.0# 底径— 器高5.8#	SR002	SR002	1989.04	1-3	—	7	B
NSK-102	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径24.6# 底径— 器高7.7#	SR002	SR002	1989.04	1-4	—	7	B
NSK-103	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径20.4# 底径— 器高5.6#	SR002	SR002	1989.04	2-6	—	7	B
NSK-104	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径22.6# 底径— 器高4.4#	SR002	SR002	1989.04	2-7	—	7	B
NSK-105	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径9.0# 器高8.5#	SR002	SR002	1989.04	3-8	—	7	B
NSK-106	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.8# 器高2.5#	SR002	SR002	1989.04	3-9	—	7	B
NSK-107	広口壺(口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径24.2# 底径— 器高12.5#	SR002	SR002	1989.04	2-5	8-107	7	A
NSK-108	壺(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径9.4 器高6.5#	SR002	SR002	1989.04	3-11	—	7	B
NSK-109	壺(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径6.5# 器高4.3#	SR002	SR002	1989.04	3-12	—	7	B
NSK-110	鉢(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径18.8# 底径— 器高3.5#	SR002	SR002	1989.04	3-10	8-110	7	A
NSK-111	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径16.4# 底径— 器高4.5#	SR002	SR002	1989.04	3-15	8-111	7	A
NSK-112	器台(受部)	弥生土器	弥生	不明	口径11.2# 底径— 器高5.0#	SR002	SR002	1989.04	3-13	8-112	7	A
NSK-113	器台(裾部)	弥生土器	弥生	不明	口径— 裾部径13.8# 器高6.8#	SR002	SR002	1989.04	3-14	8-113	7	A
NSK-114	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径27.8# 底径— 器高4.2#	SR012	SR012	1989.04	25-89	—	7	B

南信遺跡I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別号	発掘图号	コナリ号	A・Bの別
NSK-115	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径26.8㎝ 底径— 器高5.5㎝	SR012	SR012	1989.04	25-100	—	7	B
NSK-116	甕(口縁部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径14.8㎝ 底径— 器高4.0㎝	SR012	SR012	1989.04	25-101	—	7	B
NSK-117	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径10.0㎝ 器高6.6㎝	SR012	SR012	1989.04	25-102	—	7	B
NSK-118	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径8.5 器高8.2㎝	SR012	SR012	1989.04	26-104	—	7	B
NSK-119	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径11.6㎝ 器高5.1㎝	SR012	SR012	1989.04	26-103	—	7	B
NSK-120	不明木製品	木器	弥生	不明	最大長28.1最大幅15.5最大厚11.2	SE001	SE001	1989.04	31-121	—	8	B
NSK-121	竖杆	木器	弥生	不明	残存長48.0 最大径7.7	SE001	SE001	1989.04	33-120	9-121	8	A

南宍遺跡I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コナリ号	袋数	備考
NSK	弥生土器破片	弥生	SK003・004	1989.4	9	6	
NSK	弥生土器破片	弥生	SK004	1989.4	10	6	
NSK	弥生土器破片	弥生	SK005・007・013・014	1989.4	11	7	
NSK	弥生土器破片	弥生	SK014・017・018・019	1989.4	12	6	
NSK	弥生土器破片	弥生	SK019, SD015・016・024 SE001(1層・2層)	1989.4	13	7	
NSK	弥生土器破片	弥生	SE001(3層・4層・5層), SE010	1989.4	14	7	
NSK	弥生土器破片	弥生	SR002・008・011・012	1989.4	15	11	
NSK	弥生土器破片	弥生	P-1~40, 遺構検出面出土	1989.4	16	42	

南宍遺跡II種

本村遺跡収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別	結晶ig番号	コナリ番号	A・Bの別
HMR-4-001	坏	土師器	鎌倉・室町	25	口径15.7雫 底径12.0雫 器高1.9	SD402	1989.10	3	16-001	1	A	
HMR-4-002	碗(底部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径— 底径7.0 器高1.9雫	SD402	1989.10	2	—	1	B	
HMR-4-003	碗皿	青磁	鎌倉・室町	40	口径14.2 底径5.2 器高6.8	SD402	1989.10	1	16-003	1	A	

本村遺跡(4区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別	結晶ig番号	コナリ番号	A・Bの別
HMR-6-001	小皿	瓦	鎌倉・室町	完存	口径7.5 底径— 器高2.1	SK605	1989.09	1-1	17-001	1	A	
HMR-6-002	碗(口縁部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径16.6雫 底径— 器高5.4雫	SK605	1989.09	1-2	—	1	B	
HMR-6-003	碗(底部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径— 底径7.5 器高4.2雫	SK605	1989.09	1-3	—	1	B	
HMR-6-004	碗	瓦	鎌倉・室町	完存	口径16.0 底径7.0 器高6.3	SK605	1989.09	1-4	17-004	1	A	
HMR-6-005	碗	瓦	鎌倉・室町	完存	口径16.1 底径7.2 器高5.8	SK605	1989.09	2-5	17-005	1	A	
HMR-6-006	小皿	土師器	鎌倉・室町	20	口径8.6雫 底径7.1雫 器高1.4	SK606	1989.09	3-9	17-006	1	A	
HMR-6-007	小皿	土師器	鎌倉・室町	70	口径9.6雫 底径7.7 器高1.1	SK606	1989.09	3-8	17-007	1	A	
HMR-6-008	小皿	土師器	鎌倉・室町	15	口径8.0雫 底径6.3雫 器高1.3	SK606	1989.09	3-10	17-008	1	A	
HMR-6-009	碗	瓦	鎌倉・室町	75	口径15.8雫 底径7.2 器高6.0	SK606	1989.09	3-6	17-009	1	A	
HMR-6-010	碗(口縁部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径16.6雫 底径— 器高4.6雫	SK606	1989.09	3-7	17-010	1	A	
HMR-6-011	碗	瓦	鎌倉・室町	55	口径16.9雫 底径7.2 器高6.0	SK606	1989.09	3-12	17-011	1	A	
HMR-6-012	鍋(口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径27.0雫 底径— 器高3.4雫	SK606	1989.09	3-11	17-012	1	A	
HMR-6-013	鍋(口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径— 底径— 器高4.0雫	SK608	1989.09	4-13	—	1	B	

本村遺跡(6区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘層	発掘層番号	コナリ番号	A・Bの別
HMR-6-014	石鉢	滑石製品	鎌倉・室町	不明	口径— 底径— 器高9.7	SK608		1989.09	4-14	—	1	B
HMR-6-015	鍋	土師質土器	鎌倉・室町	70	口径32.5 底径— 器高13.3	SK609		1989.09	5-15	17-015	1	A
HMR-6-016	鍋	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径39.1	SK609		1989.09	5-15	17-016	2	A
HMR-6-017	小皿	土師器	鎌倉・室町	90	口径7.9 底径7.0 器高1.6	SK611		1989.09	6-16	17-017	2	A
HMR-6-018	小皿	土師器	鎌倉・室町	25	口径9.1	SK611		1989.09	7-23	17-018	2	A
HMR-6-019	小皿	土師器	鎌倉・室町	80	口径9.1 底径7.0 器高1.8	SK611		1989.09	7-24	17-019	2	A
HMR-6-020	小皿	土師器	鎌倉・室町	40	口径10.3	SK611		1989.09	7-22	17-020	2	A
HMR-6-021	坏	土師器	鎌倉・室町	不明	口径— 底径9.3 器高2.7	SK611		1989.09	7-21	—	2	B
HMR-6-022	坏	土師器	鎌倉・室町	不明	口径— 底径10.6 器高1.8	SK611		1989.09	7-19	—	2	B
HMR-6-023	碗(底部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径14.8	SK611		1989.09	7-20	17-023	2	A
HMR-6-024	碗(底部破片)	青磁	鎌倉・室町	不明	口径— 底径5.6 器高2.2	SK611		1989.09	7-18	17-024	2	A
HMR-6-025	鉢(底部破片)	須恵質土器	鎌倉・室町	不明	口径— 底径7.8	SK611		1989.09	7-17	17-025	2	A
HMR-6-026	鍋(口縁部破片)	土師質土器	鎌倉・室町	不明	口径36.8	SK611		1989.09	8-26	17-026	2	A
HMR-6-027	小皿	土師器	鎌倉・室町	ほぼ完形	口径9.5 底径8.0 器高1.2	SK612		1989.10	8-25	17-027	2	A
HMR-6-028	碗(底部破片)	土師器	鎌倉・室町	不明	口径— 底径6.9	SK612		1989.10	9-29	—	2	B
HMR-6-029	碗	瓦	鎌倉・室町	80	口径15.7 底径6.4 器高5.6	SK612		1989.10	9-28	17-029	2	A
HMR-6-030	碗(口縁部破片)	土師器	鎌倉・室町	不明	口径15.6	SD614		1989.10	9-27	—	2	B
HMR-6-031	碗(底部破片)	瓦	鎌倉・室町	不明	口径— 底径7.0	SD614		1989.10	10-30	—	2	B
HMR-6-032	碗	瓦	鎌倉・室町	55	口径17.9	SD615		1989.10	10-31	17-032	2	A

本村遺跡(6区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別	調査No	A・Bの別
HMR-6-033	碗(底部破片)	瓦器	鎌倉・室町	不明	口径—	底径7.3 器高3.1釐	SD615	1989.10	11-32	2	B
HMR-6-034	碗(底部破片)	瓦器	鎌倉・室町	不明	口径—	底径7.4 器高1.4釐	SD615	1989.10	11-33	2	B
HMR-6-035	碗(底部破片)	瓦器	鎌倉・室町	不明	口径—	底径7.9 器高3.1釐	SD615	1989.10	11-34	2	B
HMR-6-036	碗	瓦器	鎌倉・室町	完形	口径15.5	底径7.7 器高5.4	SD617	1989.10	12-36	2	A
HMR-6-037	柄鏡	青銅製品	鎌倉・室町	ほぼ完形	長さ10.7釐	口径7.6 柄幅1.4	SP601	1989.09	13-37	別置	A

本村遺跡(6区)I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	調査No	袋数	備考
HMR-3	土師器・瓦器・陶器・青磁破片	鎌倉・室町	SE301, SK302, SX303 P3001~3006, 表探	1988.9	1	10	
HMR-4	土師器・瓦器破片	鎌倉・室町	SD401・402	1989.10	1	2	HMR-6 1コンテナ
HMR-5	土師器・瓦器・陶器破片	鎌倉・室町	SD501~503, SX505	1989.10	1	4	HMR-3 1コンテナ
HMR-6	土師器・土師質土器・瓦器 青磁破片	鎌倉・室町	SK602, SK604~606, SK608 SK608・611・617, SD612 SD614~616, P6001~6015 P6017~6039, P6041 P6043~6051	1989.9 ~10	3	64	

本村遺跡(3・4・5・6区)II種

阿高遺跡収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	結合Fig番号	コナリ種別	A・Bの別
ADK-B-001	坏	土師器	奈良	不明	口径— 底径10.1	器高—	SK005	1989.08	1-001	31-25	1	A
ADK-B-002	手捏土器	土師器	古墳	95	口径6.1 底径—	器高2.8	SK005	1989.08	1-002	30-5	1	A
ADK-B-003	小皿	土師器	平安	95	口径10.1 底径8.0	器高11.5	SK012	1989.08	1-003	31-22	1	A
ADK-B-004	器種不明	滑石製品	鎌倉	不明	未計測		SK015	1989.08	—	—	1	B
ADK-B-005	甕	土師器	古墳	70	口径16.9 底径—	器高—	SK018	1989.08	1-004	30-2	1	A
ADK-B-006	壺	土師器	古墳	85	口径15.6 底径—	器高30.7	SK018	1989.08	2-005	30-1	1	A
ADK-B-007	手捏土器	土師器	古墳	95	口径4.9 底径—	器高2.6	SK020	1989.08	1-006	—	1	B
ADK-B-008	坏	土師器	奈良	80	口径18.2 _# 底径12.5	器高6.9	SK024	1989.08	1-007	31-26	1	A
ADK-B-009	蓋	須恵器	古墳	70	口径14.9 底径—	器高3.9	SK024	1989.08	1-008	31-12	1	A
ADK-B-010	小皿	土師器	鎌倉	85	口径8.6 底径6.7	器高1.9	SK024	1989.08	3-009	31-20	1	A
ADK-B-011	小皿	土師器	鎌倉	60	口径8.8 底径6.4	器高1.3	SK024	1989.08	3-010	30-19	2	A
ADK-B-012	高台付坏	須恵器	奈良	20	口径12.4 _# 底径5.8	器高—	SK024	1989.08	3-011	31-15	2	A
ADK-B-013	高台付坏	須恵器	奈良	40	口径13.5 _# 底径9.4 _#	器高4.5	SK024	1989.08	4-012	31-16	2	A
ADK-B-014	碗	瓦器	鎌倉	50	口径16.0 _# 底径6.6 _#	器高6.3	SK024	1989.08	4-013	31-27	2	A
ADK-B-015	石鍋	滑石製品	鎌倉	不明	口径30.3 _# 底径28.0 _#	器高6.4	SK024	1989.08	4-014	31-32	2	A
ADK-B-016	坏	土師器	平安~鎌倉	90	口径15.2 底径10.9	器高3.1	SK025	1989.08	4-015	31-24	2	A
ADK-B-017	坏	土師器	古墳	80	口径15.3 底径—	器高5.7	SK028	1989.08	4-016	30-8	2	A
ADK-B-018	手捏土器	土師器	古墳	完形	口径3.7 底径—	器高3.1	SK028	1989.08	4-017	30-6	2	A
ADK-B-019	坏	須恵器	古墳	90	口径12.2 底径—	器高4.5	SK029	1989.08	4-018	31-14	2	A

阿高遺跡 (B地区) I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	重量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
ADK-B-020	甕	土師器	古	90	口径15.6 底径— 器高22.7	SK032	1989.08	5-019	30-3	2	A
ADK-B-021	甕	土師器	古	不明	口径23.1# 底径— 器高5.1	SK032	1989.08	5-020	30-4	2	A
ADK-B-022	皿	土師器	鎌	60	口径12.8# 底径7.9 器高3.0	SD001	1989.08	6-021	31-23	2	A
ADK-B-023	土製匙	土製品	不	不明	計測不能	SD002	1989.08	6-022	31-29	2	A
ADK-B-024	土製勾玉	土製品	不	完形	長さ4.2 幅1.6	SD002	1989.08	6-023	31-18	2	A
ADK-B-025	小皿	土師器	鎌	完形	口径8.6 底径6.6 器高1.5	SE013	1989.08	3-024	31-21	2	A
ADK-B-026	皿	磁	鎌	98	口径12.3 底径4.2 器高3.3	SE013	1989.08	3-029	31-24	2	A
ADK-B-027	土鉢	土製品	鎌	不明	外径0.6 内径0.4 長さ5.1#	SE013	1989.08	3-028	31-31	2	A
ADK-B-028	土鉢	土製品	鎌	98	外径0.9 内径0.4 長さ4.7	SE013	1989.08	3-034	31-30	2	A
ADK-B-029	壺	土師器	古	70	口径10.9# 底径— 器高18.1	SE017	1989.08	7-030	31-10	2	A
ADK-B-030	壺	土師器	古	不明	口径13.6 底径— 器高7.6#	SE017	1989.08	7-031	31-9	2	A
ADK-B-031	高坏	土師器	古	不明	口径— 底径15.0 器高14.4#	SE017	1989.08	3-032	30-7	3	A
ADK-B-032	甗	土師器	古	不明	計測不能	SE017	1989.08	7-033	—	3	B
ADK-B-033	坏	須惠器	古	60	口径11.0# 底径— 器高4.2	SE017	1989.08	6-025	31-13	3	A
ADK-B-034	蓋	須惠器	古	40	口径14.9# 底径— 器高5.2	SE017	1989.08	6-026	31-11	3	A
ADK-B-035	壺	須惠器	古	完形	口径11.0 底径— 器高15.0	SE017	1989.08	6-027	31-17	3	A
ADK-B-036	鉢	土師器	古	80	口径10.6 底径— 器高7.2	SE019	1989.08	—	—	3	B
ADK-B-037	坏	土師器	古	80	口径15.0 底径— 器高3.8	SE026	1989.08	—	—	3	B
ADK-B-038	小皿	土師器	鎌	完形	口径9.0 底径7.2 器高1.4	SE030	1989.08	—	—	3	B

阿高遺跡 (B地区) I種

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	系図時	記録ig時	コナ材料	A・Bの別
ADK-B-039	小皿	土師器	鎌倉	80	口径8.7 底径6.8 器高1.2	SE030	1989.08	—	—	3	B
ADK-B-040	蓋	須恵器	古墳	45	口径13.4㎝ 底径— 器高3.8	SE031	1989.08	—	—	3	B

阿高遺跡 (B地区) I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コナ材料	袋数	備考
ADK-B	土師器・須恵器・瓦器・磁器 破片	古墳～鎌倉	SD001・002, SK004, SK005 SE006・008, SK012, SE013 SK015, SE017	1989.8	4	13	
ADK-B	土師器・須恵器・瓦器・磁器 破片	古墳～鎌倉	SK018, SE019, SK020 SE022・023, SK024・025 SE026, SK028・029, SE030 SE031, SK032, 表土下層	1989.8	5	15	

阿高遺跡 (B地区) II種

牟田寄遺跡収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	数量(点)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	発掘F16番号	コナリ番号	A・Bの別
MTV-A-001	小皿	土師器	鎌倉	不明	口径7.7雫 底径6.3 器高1.3雫	SD001	1889.11	1-2	41-13	1	A	
MTV-A-002	小皿	土師器	鎌倉	75	口径8.0 底径8.0 器高1.4	SD001	1889.11	1-1	41-12	1	A	
MTV-A-003	坏	土師器	鎌倉	90	口径13.3雫 底径10.3 器高3.2	SD001	1889.11	1-3	41-19	1	A	
MTV-A-004	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径31.8雫 底径— 器高6.6	SD001	1889.11	1-4	40-1	1	B	
MTV-A-005	鉢	土師質土器	鎌倉	不明	口径— 底径— 器高4.3雫	SD001	1889.11	1-6	—	1	B	
MTV-A-006	石椀丁	石器	弥生	不明	長さ5.1雫 幅4.1雫 厚さ0.45	SD001	1889.11	1-5	40-11	1	A	
MTV-A-007	小皿	土師器	鎌倉	35	口径7.9雫 底径6.1 器高2.6	SD002	1889.11	2-8	41-14	1	B	
MTV-A-008	坏	土師器	鎌倉	10	口径11.9雫 底径9.0雫 器高2.5	SD002	1889.11	1-07	41-18	1	A	
MTV-A-009	ガラス玉	ガラス製品	不明	完形	長さ0.65 孔径0.25	SD002	1889.11	2-11	—	1	B	
MTV-A-010	石鍋	滑石製品	鎌倉	不明	口径27.6雫 底径— 器高7.2雫	SD002	1889.10	2-10	41-24	1	A	
MTV-A-011	鉢	土師質土器	鎌倉	不明	口径34.0 底径— 器高5.6雫	SD002	1889.10	2-9	41-25	1	A	
MTV-A-012	甕	陶器	鎌倉～室町	不明	口径38.0雫 底径— 器高8.7雫	SE003	1889.11	3-14	41-26	1	A	
MTV-A-013	小皿	土師器	鎌倉	40	口径8.2雫 底径5.5 器高1.6	SE004	1889.11	2-12	41-15	1	A	
MTV-A-014	坏	土師器	鎌倉	30	口径13.6雫 底径7.9雫 器高3.0	SE004	1889.11	2-13	41-20	1	A	
MTV-A-015	甕	弥生土器	弥生	不明	口径26.0雫 底径— 器高20.0雫	SK006	1889.10	4-16	40-6	1	A	
MTV-A-016	甕	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径7.0 器高15.0雫	SK006	1889.11	6-21	40-7	2	A	
MTV-A-017	甕	弥生土器	弥生	不明	口径13.4 底径— 器高13.5雫	SK006	1889.10	5-17	40-3	2	A	
MTV-A-018	壺	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径— 器高7.4雫	SK006	1889.11	5-18	40-4	2	A	
MTV-A-019	壺	弥生土器	弥生	不明	口径8.9 底径— 器高9.3雫	SK006	1889.10	6-20	40-8	2	A	

牟田寄遺跡 (A地区) I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	系圖番号	輪廓図番号	コナリ番号	A・Bの別
MTY-A-020	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径— 脚部径21.0 器高13.3號	SK006	1989.11	5-18	40-9	2	A
MTY-A-021	不明土製品	土製品	弥生	不明	上底径7.2 下底径7.9 器高5.9號	SK006	1989.10	7-25	40-10	2	A
MTY-A-022	甕	弥生土器	弥生	不明	口径21.2號 底径— 器高9.6號	SD013	1989.11	3-15	40-5	2	A
MTY-A-023	甕	弥生土器	弥生	不明	口径17.6號 底径— 器高6.4號	SD013	1989.11	7-24	40-2	2	A
MTY-A-024	小皿	土師器	鎌倉	70	口径— 底径5.6 器高2.3號	SE014	1989.10	6-22	41-16	2	A
MTY-A-025	坏	土師器	鎌倉	不明	口径— 底径8.0號 器高1.1號	SK016	1989.10	6-23	41-17	2	A
MTY-A-026	碗	白磁	鎌倉	不明	口径— 底径5.8號 器高3.8號	調査区西南表土下層	1989.10	8-26	41-22	2	A
MTY-A-027	碗	青磁	鎌倉	不明	口径— 底径5.6 器高1.5號	調査区西南表土下層	1989.11	8-27	41-23	2	A
MTY-A-028	坏	土師器	鎌倉	不明	口径— 底径10.0號 器高2.3號	調査区西南表土下層	1989.11	8-28	41-21	2	A

牟田寄遺跡 (A地区) I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コナリ番号	袋数	備考
MTY-A	弥生土器・須惠器破片	弥生~古墳	SK006・013・015・016・017	1989.10 ~11	3	8	
MTY-A	弥生土器・土師器破片	弥生~鎌倉	SD001・002・007	1989.10 ~11	4	8	
MTY-A	弥生土器・土師器破片	弥生~鎌倉	SE003・004・014, 表土下層	1989.10 ~11	5	7	
MTY-A	土師器・瓦器・須惠器破片	弥生~鎌倉	No.1トレンチ	1989.11	6		

牟田寄遺跡 (A地区) II種

村徳永遺跡収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	種類	結核No	コナリ番	A・Bの別
MTN-D-001	鉢	弥生土器	弥生	45	口径12.1㎝ 底径5.3	器高5.9	SK007	1989.08	1-6	45-6	1	A
MTN-D-002	器台(裾部)	弥生土器	弥生	不明	口径— 裾部径10.6	器高6.5㎝	SK007	1989.08	1-7	45-5	1	A
MTN-D-003	蓋	弥生土器	弥生	不明	口径16.8㎝ 底径—	器高1.5㎝	SK007	1989.08	2-10	45-1	1	A
MTN-D-004	蓋	弥生土器	弥生	35	口径32.2㎝ 頭部径5.3	器高2.0㎝	SK007	1989.08	1-4	45-6	1	A
MTN-D-005	甕	弥生土器	弥生	90	口径15.3㎝ 底径7.2	器高19.0	SK007	1989.08	1-5	45-2	1	A
MTN-D-006	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径10.5	器高5.9㎝	SK007	1989.08	2-8	45-3	1	A
MTN-D-007	甕(底部破片)	弥生土器	弥生	不明	口径— 底径10.7	器高5.9㎝	SK007	1989.08	2-9	—	1	B
MTN-D-008	高坏(脚部)	弥生土器	弥生	不明	口径— 脚部径19.4	器高10.6㎝	SK007	1989.08	3-11	—	1	B
MTN-D-009	鍋	土師質土器	室町	不明	口径30.0㎝ 底径—	器高13.5㎝	SK008	1989.08	4-12	46-24	1	A
MTN-D-010	坏	土師器	室町	ほぼ完形	口径6.6 底径3.4	器高2.1	SD011	1989.08	5-20	46-11	2	A
MTN-D-011	坏	土師器	室町	90	口径6.6 底径3.8	器高2.2	SD012	1989.08	5-21	46-12	2	A
MTN-D-012	坏	土師器	室町	85	口径6.6 底径3.7	器高2.4	SD012	1989.08	5-22	46-13	2	A
MTN-D-013	坏	土師器	室町	ほぼ完形	口径6.8 底径3.8	器高2.8	SD012	1989.08	5-19	46-10	2	A
MTN-D-014	坏	土師器	室町	完形	口径6.0 底径3.6	器高2.2	SD012	1989.08	6-26	46-17	2	A
MTN-D-015	坏	土師器	室町	90	口径6.5 底径3.6	器高2.0	SD012	1989.08	6-25	46-16	2	A
MTN-D-016	坏	土師器	室町	完形	口径6.7 底径3.5	器高1.9	SD012	1989.08	6-24	46-15	2	A
MTN-D-017	坏	土師器	室町	80	口径7.2 底径4.0	器高2.1	SD012	1989.08	6-23	46-14	2	A
MTN-D-018	坏	土師器	室町	80	口径10.4 底径5.3	器高2.9	SD012	1989.08	5-15	46-20	2	A
MTN-D-019	坏	土師器	室町	90	口径10.5 底径5.8	器高3.0	SD012	1989.08	5-13	46-18	2	A

村徳永遺跡 (D地区) I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	重量 (cm, g)	遺構名	出土年月	分類群	結核i号群	コナマキ号	A・Bの別
MTN-D-020	坏	土師器	室町	85	口径10.6 底径5.7 器高3.1	SD012		1989.08	5-14	46-19	2	A
MTN-D-021	坏	土師器	室町	70	口径10.6 底径5.7 器高2.8	SD012		1989.08	5-16	46-21	2	A
MTN-D-022	坏	土師器	室町	75	口径10.8 底径4.3 器高3.0	SD012		1989.08	5-17	46-22	2	A
MTN-D-023	坏	土師器	室町	55	口径10.8 底径4.8 器高3.3	SD012		1989.08	5-18	46-23	2	A
MTN-D-024	柶鉢	土師質土器	室町	不明	口径29.6 底径16.2 器高12.4	SK031		1989.08	7-30	46-27	2	A
MTN-D-025	羽釜	瓦質土器	室町	不明	口径14.4 底径— 器高15.0	SK031		1989.08	7-31	46-25	2	A
MTN-D-026	羽釜	瓦質土器	室町	不明	口径13.2 底径— 器高6.8	SK031		1989.08	7-32	46-26	2	A
MTN-D-027	小皿	白磁	室町	40	口径9.0 底径4.5 器高3.2	SK140		1989.08	8-29	—	2	B
MTN-D-028	坏	土師器	室町	ほぼ完形	口径6.8 底径3.4 器高2.0	SK142		1989.08	9-27	—	2	B
MTN-D-029	小皿	白磁	室町	50	口径7.7 底径3.8 器高3.0	SK142		1989.08	9-28	—	2	B
MTN-D-030	小皿	土師器	平安	95	口径8.8 底径7.5 器高0.9	SE151		1989.08	10-2	46-7	2	A
MTN-D-031	小皿	黒色土器	平安	90	口径9.5 底径8.5 器高1.6	SE151		1989.08	10-1	46-8	2	A
MTN-D-032	碗	土師器	平安	30	口径16.2 底径6.2 器高5.2	SE151		1989.08	10-3	46-9	2	A

村徳永遺跡 (D地区) I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	工洋群	袋数	備考
MTN-D	土師器・土師質土器・須惠質土器 破片	室 町	SE002~004, SK005, SE006	1989. 8	3	10	
MTN-D	弥生土器・土師器・土師質土器 破片	弥生~室町	SK007~008, SD011	1989. 8	4	5	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	室 町	SD011	1989. 8	5	2	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	室 町	SD011	1989. 8	6	4	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	室 町	SD011	1989. 8	7	5	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	室 町	SD012~015, SK016・019 SK022・026・031, SE032	1989. 8	8	13	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	室 町	SE032・033・SK035・040 SK050・057・063・065・066 SK068・073・075・076・086	1989. 8	9	16	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	室 町	SK120・121・123・137・138 SK139	1989. 8	10	8	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	室 町	SK139・140, SD141・142	1989. 8	11	6	
MTN-D	土師器・土師質土器破片	平安~室町	SD142・143・144, SK145 SK147・148・149・150 SE151, SK155・156・157	1989. 8	12	13	
MTN-D	弥生土器・土師器・土師質土器 須惠質土器破片	弥生~室町	SK158~161, P1~4 包含層, 表採	1989. 8	13	11	

村徳永遺跡 (D地区) II種

古村遺跡収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘時期	発掘1区番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-1-001	碗	土師器	平安	40	口径13.2# 底径8.0# 器高5.4	SK102	1989.08	1-1	—	—	1	A
FMR-1-002	坏	土師器	平安	90	口径11.0 底径7.4 器高2.3	SB105(P-2)	1989.09	2-13	—	—	1	A
FMR-1-003	蓋	須恵器	古墳	不明	口径13.0# 底径— 器高2.4#	包含層	1989.09	2-8	—	—	1	A
FMR-1-004	蓋	須恵器	古墳	30	口径15.4# 底径— 器高2.7#	包含層	1989.09	1-5	—	—	1	A
FMR-1-005	蓋	須恵器	古墳	40	口径— 底径— 器高2.8#	包含層	1989.09	1-3	—	—	1	A
FMR-1-006	蓋	須恵器	奈良	30	口径— 底径— 器高1.9#	包含層	1989.09	4-15	—	—	1	A
FMR-1-007	坏	須恵器	古墳	80	口径9.2 底径5.9 器高4.0	包含層	1989.09	5-20	—	—	1	A
FMR-1-008	坏	須恵器	古墳	90	口径12.6 底径— 器高5.8	包含層	1989.09	5-21	—	—	1	A
FMR-1-009	坏	須恵器	奈良~平安	35	口径17.8# 底径— 器高6.8#	包含層	1989.09	1-4	—	—	1	A
FMR-1-010	坏	須恵器	奈良	20	口径13.2# 底径9.0# 器高2.4	包含層	1989.08	2-9	—	—	1	A
FMR-1-011	高台付坏	須恵器	奈良	30	口径12.8# 底径9.0# 器高3.7	包含層	1989.09	1-6	—	—	1	A
FMR-1-012	高台付坏	須恵器	奈良	60	口径— 底径10.8 器高4.9#	包含層	1989.09	4-16	—	—	1	A
FMR-1-013	高台付皿	土師器	平安	60	口径11.7# 底径7.5# 器高2.2	包含層	1989.09	2-10	—	—	1	A
FMR-1-014	甕(口縁部)	土師器	古墳~奈良	不明	口径17.8# 底径— 器高8.6#	包含層	1989.09	4-17	—	—	1	A
FMR-1-015	甕	土師器	古墳~奈良	50	口径17.0# 底径9.5 器高10.8	包含層	1989.09	2-14	—	—	1	A
FMR-1-016	甕(口縁部)	土師器	古墳~平安	不明	口径26.8# 底径— 器高8.3#	包含層	1989.09	2-11	—	—	1	A
FMR-1-017	甕(胴部)	土師器	古墳~平安	30	口径— 底径— 器高17.9#	包含層	1989.09	4-19	—	—	1	A
FMR-1-018	甕(口縁部)	須恵器	古墳~奈良	不明	口径16.0# 底径— 器高5.3#	包含層	1989.09	4-18	—	—	1	A
FMR-1-019	二重口縁甕	土師器	古墳	20	口径19.8# 底径— 器高16.7#	包含層	1989.09	3-12	53-1	—	1	A

古村遺跡(1区)I種

番号	名称	種別	時代	質量(%)	法	質量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘層	発掘Fig番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-1-020	平瓦	瓦	奈良～平安	不明	長さ10.5㎝	幅 7.8㎝	包含層	1989.09	1-7	—	1	A
FMR-1-021	支脚	土製品	古墳～平安	90	未計測		包含層	1989.09	—	—	1	B
FMR-1-022	勾玉	石製品	古墳～平安	完形	長さ4.1	径 1.2	包含層	1989.09	5-22	53-2	別置	A
FMR-1-023	下駄	木製品	古墳～平安	90	長さ26.8	幅 9.5 高さ4.2	包含層	1989.09	6-23	53-3	2	A
FMR-1-024	船形木製品	木製品	古墳～平安	50	長さ57.0	幅 10.9㎝ 高さ 8.5	包含層	1989.09	7-24	53-4	2	A

古村遺跡 (I区) I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コナリ層	袋数	備考
FMR-1	土師器破片	古墳～平安	SK101～104, SK106 P1001～1007, Aトレンチ, Bトレンチ	1989. 8 ～9	3	21	
FMR-1	土師器破片	古墳～平安	Bトレンチ	1989. 9	4	8	
FMR-1	土師器・須臾器破片	古墳～平安	表探	1989. 8 ～9	5	6	

古村遺跡 (I区) II種

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘番号	結合ig番号	コナチ番号	A・Bの別
FNR-2-001	甕等破片一括	土師器	奈良~平安	不明	未計測	SK201	1989.12	—	—	1	B
FNR-2-002	蓋	須恵器	奈良	不明	未計測	SK204	1989.12	—	—	1	B
FNR-2-003	高台付坏	土師器	奈良	不明	口径— 底径10.4# 器高1.6#	SK207	1989.12	1-195	—	1	A
FNR-2-004	蓋	須恵器	古墳	不明	口径9.8# 器高3.9#	SK207	1989.12	1-194	—	1	A
FNR-2-005	瓶等破片一括	須恵器	古墳	不明	未計測	SK207	1989.12	—	—	1	B
FNR-2-006	蓋(破片)	須恵器	古墳	不明	未計測	SK208	1989.12	—	—	1	B
FNR-2-007	坏	須恵器	奈良	30	口径16.6# 底径12.0# 器高3.5	SK209	1989.12	2-92	—	1	A
FNR-2-008	坏	須恵器	奈良	45	口径14.4# 底径9.6# 器高3.9	SK209	1989.12	2-91	—	1	A
FNR-2-009	高台付坏	須恵器	奈良	95	口径11.3 底径7.2 器高11.3	SK209	1989.12	2-110	—	1	A
FNR-2-010	蓋	土師器	奈良	20	口径13.6# 器高1.8#	SK209	1989.12	2-82	—	1	A
FNR-2-011	蓋	土師器	奈良	90	口径14.9 器高4.2	SK209	1989.12	2-81	—	1	A
FNR-2-012	甕(口縁部破片)	土師器	奈良	不明	口径22.6# 底径— 器高9.9#	SK209	1989.12	2-93	—	1	A
FNR-2-013	甕(口縁部破片)	土師器	奈良	不明	口径22.8# 底径— 器高7.5#	SK209	1989.12	2-94	—	1	A
FNR-2-014	甕(口縁部破片)	土師器	奈良	不明	口径25.2# 底径— 器高10.4#	SK209	1989.12	2-95	—	1	A
FNR-2-015	鉢	土師器	奈良	25	口径28.4# 底径— 器高15.8#	SK209	1989.12	3-96	—	1	A
FNR-2-016	坏	土師器	平安	30	口径12.6# 底径7.3# 器高3.4	SK211	1989.12	4-180	—	1	A
FNR-2-017	碗(底部破片)	土師器	平安	不明	口径— 底径7.8 器高1.5#	SK211	1989.12	4-181	—	1	A
FNR-2-018	皿	土師器	平安	55	口径14.0# 底径9.3# 器高1.9	SK211	1989.12	4-179	—	1	A
FNR-2-019	甕等破片一括	土師器	平安	不明	未計測	SK211	1989.12	—	—	1	B

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A-Bの別
FMR-2-020	坏	土師器	平安	4.5	口径13.1 底径7.3	器高3.4	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-021	坏	土師器	平安	4.0	口径12.3# 底径7.3	器高3.6	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-022	坏	土師器	平安	3.0	口径12.2# 底径7.0	器高3.4	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-023	坏	土師器	平安	2.0	口径12.4# 底径7.4#	器高3.5	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-024	碗	土師器	平安	3.0	口径13.5 底径8.3	器高4.8	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-025	碗	土師器	平安	6.0	口径13.2 底径7.0	器高5.8	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-026	皿	土師器	平安	6.0	口径13.3 底径9.8	器高1.9	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-027	皿	土師器	平安	4.5	口径14.1# 底径9.6#	器高2.1	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-028	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径17.9# 底径—	器高6.0#	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-029	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径26.6# 底径—	器高16.0#	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-030	韓甕破片?	土師器	平安	不明	口径40.0#	器高12.1#	SK212	1989.12	—	1	A
FMR-2-031	甕等破片一括	土師器	平安	不明	未計測		SK212	1989.12	—	1	B
FMR-2-032	碗	須恵器	奈良~平安	4.0	口径13.0 底径7.0	器高5.3	SK214	1989.12	—	1	A
FMR-2-033	甕(口縁部破片)	土師器	奈良~平安	不明	口径38.0# 底径—	器高8.5#	SK214	1989.12	—	1	A
FMR-2-034	甕(口縁部破片)	土師器	奈良~平安	不明	口径21.0# 底径—	器高5.3#	SK214	1989.12	—	1	A
FMR-2-035	甕(口縁部破片)	須恵器	古墳	不明	口径11.4# 底径—	器高4.9#	SK214	1989.12	—	1	A
FMR-2-036	土鍾	土製品	奈良~平安	不明	長さ4.5	幅1.4	SK214	1989.12	—	1	A
FMR-2-037	土鍾	土製品	奈良~平安	不明	長さ3.8	幅1.4	SK214	1989.12	—	1	A
FMR-2-038	甕(口縁部破片)	土師器	奈良~平安	不明	未計測		SK214	1989.12	—	1	B

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	重量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘時期	結合Fig.番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-2-039	甕等破片一括	土師器	奈良~平安	不明	未計測		SK215	1989.12	—	—	1	B
FMR-2-040	坏	土師器	奈良~平安	完形	口径12.6 底径7.9 器高3.1		SK217	1989.12	8-144	—	1	A
FMR-2-041	坏	土師器	奈良~平安	70	口径12.8 底径7.3 器高3.7		SK217	1989.12	8-145	—	1	A
FMR-2-042	坏	土師器	奈良~平安	ほぼ完形	口径12.5 底径7.4 器高3.6		SK217	1989.12	8-146	—	1	A
FMR-2-043	坏	土師器	奈良~平安	95	口径12.7 底径7.6 器高3.2		SK217	1989.12	8-147	—	1	A
FMR-2-044	鉢	土師器	奈良~平安	不明	口径28.0 底径— 器高6.9		SK217	1989.12	8-150	—	1	A
FMR-2-045	甕(口縁部破片)	土師器	奈良~平安	不明	口径20.0 底径— 器高4.8		SK217	1989.12	8-151	—	1	A
FMR-2-046	甕(口縁部破片)	土師器	奈良~平安	不明	口径32.0 底径— 器高12.0		SK217	1989.12	9-152	—	1	A
FMR-2-047	高坏	須恵器	奈良~平安	不明	口径17.6 底径— 器高17.6		SK217	1989.12	8-148	—	1	A
FMR-2-048	甕	須恵器	奈良~平安	不明	口径— 底径— 器高8.7		SK217	1989.12	9-154	—	1	A
FMR-2-049	甕(底部破片)	須恵器	奈良~平安	不明	口径— 底径11.6 器高7.6		SK217	1989.12	9-153	—	1	A
FMR-2-050	甕(底部破片)	緑釉陶器	奈良~平安	不明	口径— 底径6.6 器高6.0		SK217	1989.12	8-149	—	1	A
FMR-2-051	甕等破片一括	須恵器	奈良~平安	不明	未計測		SK217	1989.12	—	—	1	B
FMR-2-052	坏	土師器	平安	80	口径12.7 底径7.1 器高3.4		SK218	1989.12	10-123	54-1	2	A
FMR-2-053	坏	土師器	平安	50	口径12.6 底径7.3 器高3.7		SK218	1989.12	10-124	54-2	2	A
FMR-2-054	坏	土師器	平安	30	口径11.6 底径6.2 器高5.2		SK218	1989.12	10-125	54-3	2	A
FMR-2-055	甕	土師器	平安	不明	口径24.9 底径— 器高16.0		SK218	1989.12	10-128	—	2	A
FMR-2-056	甕	土師器	平安	不明	口径30.0 底径— 器高17.5		SK218	1989.12	11-127	—	2	A
FMR-2-057	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径27.4 底径— 器高10.4		SK218	1989.12	11-126	54-4	2	A

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	重量(%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別番号	発掘区画番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-2-058	甕(口縁部破片)	土師器	奈良~平安	不明	口径19.0㎜ 底径— 器高7.5㎝	SK219	1989.12	12-155	—	2	A
FMR-2-059	蓋	土師器	奈良~平安	不明	口径15.6㎜ 底径— 器高4.3㎝	SK219	1989.12	12-158	—	2	A
FMR-2-060	蓋	須恵器	奈良~平安	不明	口径12.8㎜ 底径— 器高1.4㎝	SK219	1989.12	12-160	—	2	A
FMR-2-061	高坏(脚部)	土師器	奈良~平安	不明	裾部径9.8 器高3.2㎝	SK219	1989.12	12-157	—	2	A
FMR-2-062	高坏(脚部)	土師器	奈良~平安	不明	裾部径8.9 器高4.0㎝	SK219	1989.12	12-156	—	2	A
FMR-2-063	高坏(脚部)	須恵器	奈良~平安	不明	裾部径11.6 器高3.1㎝	SK219	1989.12	12-159	—	2	A
FMR-2-064	甕等破片一括	須恵器	奈良~平安	不明	未計測	SK219	1989.12	—	—	2	B
FMR-2-065	坏	須恵器	古墳	不明	口径13.1㎜ 底径— 器高3.1㎝	SH220	1989.12	13-185	55-6	2	A
FMR-2-066	蓋	須恵器	古墳	不明	口径13.7㎜ 底径— 器高3.8㎝	SH220	1989.12	13-186	55-5	2	A
FMR-2-067	甕(口縁部破片)	土師器	古墳	不明	口径24.7㎜ 底径— 器高4.9㎝	SH220	1989.12	13-182	55-8	2	A
FMR-2-068	甕(口縁部破片)	土師器	古墳	不明	口径17.7㎜ 底径— 器高5.4㎝	SH220	1989.12	13-183	55-7	2	A
FMR-2-069	甕(口縁部破片)	土師器	古墳	不明	口径29.4㎜ 底径— 器高4.5㎝	SH220	1989.12	13-184	55-9	2	A
FMR-2-070	甕等破片一括	土師器	古墳	不明	未計測	SH220	1989.12	—	—	2	B
FMR-2-071	坏	土師器	平安	3.0	口径12.0㎜ 底径7.6 器高3.2	SE221	1989.12	14-63	56-15	2	A
FMR-2-072	坏	土師器	平安	4.0	口径13.2㎜ 底径8.0 器高3.9	SE221	1989.12	14-64	56-16	2	A
FMR-2-073	坏	土師器	平安	不明	口径— 底径6.7 器高2.0㎝	SE221	1989.12	14-65	—	2	A
FMR-2-074	碗	土師器	平安	1.5	口径15.0㎜ 底径7.6㎜ 器高5.5㎝	SE221	1989.12	14-66	56-18	2	A
FMR-2-075	碗	土師器	平安	不明	口径— 底径— 器高3.2㎝	SE221	1989.12	14-68	—	2	A
FMR-2-076	碗	土師器	平安	不明	口径— 底径8.8㎜ 器高4.0㎝	SE221	1989.12	14-69	—	2	A

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘時期	報告図番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-2-077	碗	土師器	平安	60	口径14.9 底径8.8 器高4.7	SE221		1989.12	14-70	56-17	2	A
FMR-2-078	碗(底部破片)	黒色土器	平安	不明	口径— 底径7.9 器高2.0	SE221		1989.12	14-67	—	2	A
FMR-2-079	皿	土師器	平安	95	口径13.4 底径8.1 器高2.3	SE221		1989.12	14-71	56-14	2	A
FMR-2-080	皿	土師器	平安	不明	口径14.0 底径11.2 器高1.6	SE221		1989.12	14-74	56-10	2	A
FMR-2-081	皿	土師器	平安	不明	口径16.0 底径12.1 器高1.8	SE221		1989.12	14-73	56-12	2	A
FMR-2-082	皿	土師器	平安	不明	口径15.6 底径11.4 器高1.6	SE221		1989.12	14-75	56-13	2	A
FMR-2-083	皿	須恵器	平安	25	口径15.2 底径11.6 器高2.1	SE221		1989.12	14-72	56-11	2	A
FMR-2-084	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径30.0 底径— 器高6.5	SE221		1989.12	15-77	56-23	2	A
FMR-2-085	甕(口縁部破片)	須恵器	平安	不明	口径9.0 底径— 器高2.7	SE221		1989.12	14-76	56-19	2	A
FMR-2-086	土甕	土製品	平安	完形	長さ5.3 最大幅1.7	SE221		1989.12	15-78	56-20	2	A
FMR-2-087	土甕	土製品	平安	不明	残存長4.5 最大幅1.7	SE221		1989.12	15-79	56-21	2	A
FMR-2-088	不明土製品	土製品	平安	不明	残存長3.2 最大幅2.1	SE221		1989.12	15-80	56-22	2	A
FMR-2-089	碗等破片一括	土師器	平安	不明	未計測	SE221		1989.12	—	—	2	B
FMR-2-090	坏	土師器	平安	90	口径11.9 底径6.9 器高3.7	SK223		1989.12	16-1	57-24	2	A
FMR-2-091	坏	土師器	平安	90	口径12.5 底径6.9 器高3.5	SK223		1989.12	16-2	57-25	2	A
FMR-2-092	坏	土師器	平安	90	口径13.3 底径7.8 器高3.2	SK223		1989.12	16-3	57-33	2	A
FMR-2-093	坏	土師器	平安	75	口径12.2 底径7.4 器高3.5	SK223		1989.12	16-4	57-26	2	A
FMR-2-094	坏	土師器	平安	75	口径12.1 底径7.2 器高3.8	SK223		1989.12	16-5	57-27	2	A
FMR-2-095	坏	土師器	平安	75	口径12.8 底径7.3 器高2.8	SK223		1989.12	16-6	57-32	2	A

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別群	発掘日誌番号	コナリ番号	A-Bの別
FMR-2-086	坏	土師器	平安	50	口径12.0㎝ 底径7.9 器高2.8	SK223	SK223	1989.12	17-7	57-28	2	A
FMR-2-097	坏	土師器	平安	50	口径11.7㎝ 底径7.1 器高3.5	SK223	SK223	1989.12	17-21	—	2	A
FMR-2-098	坏	土師器	平安	35	口径12.0㎝ 底径6.6 器高3.4	SK223	SK223	1989.12	17-22	57-30	2	A
FMR-2-099	坏	土師器	平安	45	口径12.2㎝ 底径7.0 器高3.3	SK223	SK223	1989.12	17-23	57-31	2	A
FMR-2-100	坏	土師器	平安	25	口径12.2㎝ 底径7.3 器高3.2	SK223	SK223	1989.12	18-84	57-29	2	A
FMR-2-101	碗	土師器	平安	25	口径13.5㎝ 底径7.5 器高5.5	SK223	SK223	1989.12	18-83	57-39	2	A
FMR-2-102	碗	土師器	平安	45	口径14.6㎝ 底径6.8 器高6.8	SK223	SK223	1989.12	18-39	57-41	2	A
FMR-2-103	碗	土師器	平安	50	口径14.6㎝ 底径9.0 器高6.6	SK223	SK223	1989.12	18-38	57-40	2	A
FMR-2-104	碗(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径15.6㎝ 底径— 器高5.4㎝	SK223	SK223	1989.12	18-85	—	2	A
FMR-2-105	碗(底部破片)	土師器	平安	不明	口径— 底径8.6 器高2.6㎝	SK223	SK223	1989.12	18-86	—	2	A
FMR-2-106	皿	土師器	平安	不明	口径15.0㎝ 底径9.3 器高2.3	SK223	SK223	1989.12	17-36	57-36	2	A
FMR-2-107	坏	土師器	平安	45	口径14.8㎝ 底径7.4 器高3.0	SK223	SK223	1989.12	17-20	57-34	2	A
FMR-2-108	皿	土師器	平安	不明	口径13.6㎝ 底径7.8 器高1.9	SK223	SK223	1989.12	17-37	57-35	2	A
FMR-2-109	皿	土師器	平安	完形	口径12.0㎝ 底径9.5 器高2.2	SK223	SK223	1989.12	17-8	57-37	2	A
FMR-2-110	台付皿	土師器	平安	85	口径14.6 底径7.6 器高4.2	SK223	SK223	1989.12	18-40	57-38	2	A
FMR-2-111	鉢	土師器	平安	35	口径25.0㎝ 底径— 器高6.8	SK223	SK223	1989.12	19-37	57-42	3	A
FMR-2-112	鉢(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径22.0㎝ 底径— 器高12.8㎝	SK223	SK223	1989.12	19-38	57-44	3	A
FMR-2-113	鉢(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径22.8㎝ 底径— 器高13.4㎝	SK223	SK223	1989.12	20-100	—	3	A
FMR-2-114	鉢(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径25.0㎝ 底径— 器高8.3㎝	SK223	SK223	1989.12	19-39	57-43	3	A

古村遺跡(2区)I種

番・号	名 称	種 別	時 代	質 量(%)	法 量 (cm, g)	遺 構 名	出土年月	発掘時 期	報告No.番	コナリ番	A・Bの別
FMR-2-115	器種不明	土 師 器	平 安	不明	口径—— 底径21.2# 器高 8.7#	SK 2 2 3	1989. 12	20-101	57-45	3	A
FMR-2-116	甕等破片一括	土 師 器	平 安	不明	未 計 測	SK 2 2 3	1989. 12	——	——	3	B
FMR-2-117	坏	土 師 器	平 安	8 0	口径11.9 底径 7.1 器高 3.5	SK 2 2 4	1989. 12	21-113	58-49	3	A
FMR-2-118	坏	土 師 器	平 安	8 0	口径12.6 底径 6.8 器高 3.4	SK 2 2 4	1989. 12	21-114	58-50	3	A
FMR-2-119	碗	須 惠 器	平 安	1 5	口径11.0# 底径 7.6# 器高 3.3	SK 2 2 4	1989. 12	21-115	58-51	3	A
FMR-2-120	蓋	土 師 器	平 安	不明	口径17.4# 器高 1.4#	SK 2 2 4	1989. 12	21-111	58-46	3	A
FMR-2-121	蓋	須 惠 器	平 安	不明	口径22.0# 器高 3.3	SK 2 2 4	1989. 12	21-112	——	3	A
FMR-2-122	皿	土 師 器	平 安	8 5	口径13.9 底径 8.2 器高 2.1	SK 2 2 4	1989. 12	21-116	58-47	3	A
FMR-2-123	皿	土 師 器	平 安	不明	口径15.6# 底径11.4# 器高 1.6	SK 2 2 4	1989. 12	21-117	58-48	3	A
FMR-2-124	坏	土 師 器	平 安	9 0	口径12.0 底径 7.2 器高 3.5	SK 2 2 5	1989. 12	22-16	59-70	3	A
FMR-2-125	坏	土 師 器	平 安	完形	口径11.9 底径 7.3 器高 3.4	SK 2 2 5	1989. 12	22-18	59-53	3	A
FMR-2-126	坏	土 師 器	平 安	9 5	口径11.9 底径 7.0 器高 3.5	SK 2 2 5	1989. 12	22-19	59-52	3	A
FMR-2-127	坏	土 師 器	平 安	8 0	口径12.0 底径 7.1 器高 3.3	SK 2 2 5	1989. 12	22-31	59-54	3	A
FMR-2-128	坏	土 師 器	平 安	9 0	口径12.2 底径 7.3 器高 3.3	SK 2 2 5	1989. 12	22-32	59-65	3	A
FMR-2-129	坏	土 師 器	平 安	6 0	口径12.5 底径 7.6 器高 3.4	SK 2 2 5	1989. 12	22-33	59-57	3	A
FMR-2-130	坏	土 師 器	平 安	7 5	口径12.1 底径 6.9 器高 3.3	SK 2 2 5	1989. 12	22-34	59-71	3	A
FMR-2-131	坏	土 師 器	平 安	4 0	口径12.1 底径 8.0 器高 3.0	SK 2 2 5	1989. 12	24-134	59-64	3	A
FMR-2-132	坏	土 師 器	平 安	完形	口径12.5 底径 7.1 器高 3.8	SK 2 2 5	1989. 12	22-17	59-59	3	A
FMR-2-133	坏	土 師 器	平 安	6 5	口径12.6 底径12.6 器高 3.6	SK 2 2 5	1989. 12	22-14	59-67	3	A

古村遺跡 (2区) I種

番号	名称	種別	時代	数量(%)	法	量 (cm.g)	遺構名	出土年月	類別群	発掘記号	コンナ号	A・Bの別
FNR-2-134	坏	土師器	平安	80	口径12.8 底径8.0	器高3.4	SK225	1989.12	22-15	59-55	3	A
FNR-2-135	坏	土師器	平安	75	口径13.0 底径7.7	器高3.8	SK225	1989.12	24-119	59-62	3	A
FNR-2-136	坏	土師器	平安	75	口径12.7 底径7.4	器高3.7	SK225	1989.12	24-120	59-60	3	A
FNR-2-137	坏	土師器	平安	75	口径12.4 底径6.9	器高3.8	SK225	1989.12	24-130	59-61	3	A
FNR-2-138	坏	土師器	平安	75	口径12.4 底径7.0	器高3.8	SK225	1989.12	24-131	59-66	3	A
FNR-2-139	坏	土師器	平安	75	口径12.1 底径6.9	器高3.0	SK225	1989.12	24-132	59-63	3	A
FNR-2-140	坏	土師器	平安	50	口径12.5 底径7.0	器高3.4	SK225	1989.12	24-133	59-58	3	A
FNR-2-141	坏	土師器	平安	35	口径12.0 底径6.8	器高3.4	SK225	1989.12	25-161	59-56	3	A
FNR-2-142	坏	土師器	平安	30	口径11.7 底径6.2	器高3.5	SK225	1989.12	25-162	59-69	3	A
FNR-2-143	坏	土師器	平安	25	口径12.7 底径7.0	器高3.2	SK225	1989.12	25-163	59-68	3	A
FNR-2-144	碗	黑色土器	平安	20	口径12.6 底径7.2	器高5.1	SK225	1989.12	24-118	59-80	3	A
FNR-2-145	碗	黑色土器	平安	80	口径11.9 底径6.6	器高4.3	SK225	1989.12	23-43	59-81	3	A
FNR-2-146	碗	土師器	平安	25	口径13.0 底径7.9	器高6.1	SK225	1989.12	23-88	59-74	3	A
FNR-2-147	碗	土師器	平安	80	口径13.2 底径7.8	器高5.6	SK225	1989.12	23-41	59-72	3	A
FNR-2-148	碗	土師器	平安	80	口径12.9 底径7.4	器高6.4	SK225	1989.12	23-44	59-77	3	A
FNR-2-149	碗	土師器	平安	35	口径13.8 底径7.4	器高6.2	SK225	1989.12	23-87	59-75	3	A
FNR-2-150	碗	土師器	平安	60	口径13.9 底径7.4	器高6.5	SK225	1989.12	23-45	59-76	3	A
FNR-2-151	碗	土師器	平安	不明	口径— 底径7.5	器高5.4	SK225	1989.12	24-90	—	3	A
FNR-2-152	碗	土師器	平安	75	口径13.9 底径8.3	器高6.1	SK225	1989.12	23-42	59-73	3	A

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘層	Profile番号	コンテ番号	A・Bの別
FMR-2-153	碗	土師器	平安	35	口径14.7㎝ 底径7.6 器高7.4	S K 2 2 5	1989.12	24-89	59-73	3	A	
FMR-2-154	碗	土師器	平安	80	口径15.5㎝ 底径8.3 器高7.4	S K 2 2 5	1989.12	23-35	59-78	3	A	
FMR-2-155	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径21.8㎝ 底径— 器高6.4㎝	S K 2 2 5	1989.12	25-164	—	3	A	
FMR-2-156	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径23.0㎝ 底径— 器高8.4㎝	S K 2 2 5	1989.12	25-165	59-82	3	A	
FMR-2-157	甕?	土師器	平安	不明	口径— 底径— 器高3.5㎝	S K 2 2 5	1989.12	25-167	—	3	A	
FMR-2-158	罍?	土師器	平安	不明	口径22.2㎝ 底径— 器高5.9㎝	S K 2 2 5	1989.12	25-166	—	3	A	
FMR-2-159	坏	土師器	平安	完形	口径13.0 底径8.0、器高3.5	S K 2 2 6	1989.12	27-46	60-96	4	A	
FMR-2-160	坏	土師器	平安	50	口径12.2 底径6.7 器高3.6	S K 2 2 6	1989.12	27-47	60-95	4	A	
FMR-2-161	坏	土師器	平安	90	口径12.1 底径7.2 器高3.4	S K 2 2 6	1989.12	27-48	60-97	4	A	
FMR-2-162	坏	土師器	平安	75	口径12.6 底径7.3 器高3.8	S K 2 2 6	1989.12	27-49	60-106	4	A	
FMR-2-163	坏	土師器	平安	45	口径12.2 底径6.8 器高3.5	S K 2 2 6	1989.12	27-50	60-92	4	A	
FMR-2-164	坏	土師器	平安	80	口径12.2 底径7.2 器高3.8	S K 2 2 6	1989.12	28-51	60-94	4	A	
FMR-2-165	坏	土師器	平安	70	口径12.8 底径7.6 器高3.6	S K 2 2 6	1989.12	28-52	60-93	4	A	
FMR-2-166	坏	土師器	平安	60	口径12.1㎝ 底径6.8 器高3.4	S K 2 2 6	1989.12	28-53	60-91	4	A	
FMR-2-167	坏	土師器	平安	60	口径12.3㎝ 底径6.5 器高3.4	S K 2 2 6	1989.12	28-54	60-104	4	A	
FMR-2-168	坏	土師器	平安	50	口径12.1㎝ 底径7.2 器高3.4	S K 2 2 6	1989.12	28-55	60-98	4	A	
FMR-2-169	坏	土師器	平安	75	口径12.5㎝ 底径7.5 器高3.5	S K 2 2 6	1989.12	28-56	60-99	4	A	
FMR-2-170	坏	土師器	平安	75	口径12.5 底径7.6 器高3.2	S K 2 2 6	1989.12	28-57	60-100	4	A	
FMR-2-171	坏	土師器	平安	85	口径12.7 底径7.8 器高3.4	S K 2 2 6	1989.12	28-58	60-105	4	A	

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	発見率(%)	法	重量 (cm, g)	遺構名	出土年月	類別群	結核No.群	コナナ群	A・Bの別
FMR-2-172	坏	土師器	平安	50	口径12.8# 底径7.1 器高3.4	SK2226	1989.12	28-59	60-103	4	A	
FMR-2-173	坏	土師器	平安	65	口径12.7 底径7.2 器高3.2	SK2226	1989.12	28-60	—	4	A	
FMR-2-174	坏	土師器	平安	80	口径12.3 底径8.0 器高3.5	SK2226	1989.12	29-61	60-102	4	A	
FMR-2-175	坏	土師器	平安	80	口径12.3 底径7.0 器高3.6	SK2226	1989.12	29-62	60-101	4	A	
FMR-2-176	碗	土師器	平安	90	口径12.9 底径7.0 器高5.2	SK2226	1989.12	26-25	60-110	4	A	
FMR-2-177	碗	土師器	平安	50	未計測	SK2226	1989.12	—	—	4	B	
FMR-2-178	碗	土師器	平安	60	口径14.3 底径8.7 器高5.8	SK2226	1989.12	26-12	60-111	4	A	
FMR-2-179	碗	土師器	平安	90	口径13.1 底径7.2 器高5.7	SK2226	1989.12	26-9	60-113	4	A	
FMR-2-180	碗	土師器	平安	45	口径14.2 底径7.8 器高6.1	SK2226	1989.12	26-11	60-117	4	A	
FMR-2-181	碗	土師器	平安	50	口径13.5# 底径7.4# 器高6.2	SK2226	1989.12	26-24	60-115	4	A	
FMR-2-182	碗	土師器	平安	40	口径14.1# 底径7.2 器高5.9	SK2226	1989.12	26-13	60-114	4	A	
FMR-2-183	碗	土師器	平安	60	口径13.5 底径7.6 器高5.9	SK2226	1989.12	26-10	60-112	4	A	
FMR-2-184	碗	土師器	平安	75	口径13.7 底径7.2 器高6.5	SK2226	1989.12	26-26	60-116	4	A	
FMR-2-185	碗	黒色土器	平安	95	口径15.7 底径8.0 器高6.8	SK2226	1989.12	27-30	—	4	A	
FMR-2-186	碗	土師器	平安	60	口径13.9# 底径8.0 器高4.5	SK2226	1989.12	27-28	60-109	4	A	
FMR-2-187	碗	土師器	平安	80	口径14.1 底径8.3 器高4.4	SK2226	1989.12	27-29	60-108	4	A	
FMR-2-188	碗	土師器	平安	45	口径13.6# 底径8.6 器高4.3	SK2226	1989.12	27-27	60-107	4	A	
FMR-2-189	皿	土師器	平安	95	口径13.3 底径9.5 器高2.3	SK2226	1989.12	29-102	60-90	4	A	
FMR-2-190	皿	土師器	平安	不明	口径13.1 底径— 器高1.4	SK2226	1989.12	29-129	60-83	4	A	

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	分類番号	明器Fig.番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-2-191	皿	土師器	平安	30	口径13.4㎝ 底径9.0㎝ 器高1.8	SK226	1989.12	29-103	60-84	4	A
FMR-2-192	皿	土師器	平安	15	口径13.3㎝ 底径9.2㎝ 器高2.0	SK226	1989.12	29-104	60-85	4	A
FMR-2-193	皿	土師器	平安	10	口径14.3㎝ 底径9.8㎝ 器高1.9	SK226	1989.12	29-105	60-86	4	A
FMR-2-194	皿	土師器	平安	20	口径16.0㎝ 底径12.8㎝ 器高1.5	SK226	1989.12	29-106	60-88	4	A
FMR-2-195	皿	土師器	平安	30	口径16.1㎝ 底径13.7㎝ 器高1.6	SK226	1989.12	29-107	60-87	4	A
FMR-2-196	皿	土師器	平安	20	口径20.3㎝ 底径18.0㎝ 器高1.8	SK226	1989.12	29-108	60-89	4	A
FMR-2-197	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径18.0 底径— 器高8.2㎝	SK226	1989.12	29-135	60-121	4	A
FMR-2-198	甕(底部破片)	土師器	平安	不明	口径— 底径6.0 器高2.1㎝	SK226	1989.12	29-109	—	4	A
FMR-2-199	皿(口縁部破片)	緑釉陶器	平安	不明	口径12.0㎝ 底径— 器高2.8㎝	SK226	1989.12	30-136	60-119	4	A
FMR-2-200	注口片	緑釉陶器	平安	不明	残存長3.5 最大幅2.1	SK226	1989.12	30-137	60-120	4	A
FMR-2-201	石鏝	石器	弥生	ほぼ完形	未計測	SK226	1989.12	—	—	4	B
FMR-2-202	甕等破片一括	須恵器	奈良~平安	不明	未計測	SK226	1989.12	—	—	4	B
FMR-2-203	碗(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径9.6㎝ 底径— 器高5.4㎝	SK227	1989.12	32-196	—	5	A
FMR-2-204	甕(口縁部破片)	土師器	平安	不明	未計測	SK227	1989.12	—	—	5	B
FMR-2-205	蓋	土師器	古墳	不明	口径12.6㎝ 底径— 器高3.4	SK228	1989.12	31-121	—	5	A
FMR-2-206	鉢(口縁部破片)	土師器	古墳	不明	口径10.6㎝ 底径— 器高3.6㎝	SK228	1989.12	31-122	—	5	A
FMR-2-207	坏(口縁部破片)	土師器	平安	不明	口径11.6㎝ 底径— 器高3.6㎝	SK229	1989.12	32-197	—	5	A
FMR-2-208	蓋	須恵器	奈良	不明	未計測	SK229	1989.12	—	—	5	B
FMR-2-209	坏等破片一括	土師器	奈良~平安	不明	未計測	SK230	1989.12	—	—	5	B

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	素材(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-2-210	坏等破片一括	土師器	奈良~平安	不明	未計測		SK231	1989.12	—	5	B
FMR-2-211	坏等破片一括	土師器	奈良~平安	不明	未計測		SK234	1989.12	—	5	B
FMR-2-212	坏	土師器	平安	45	口径12.7mm 底径7.2mm 器高3.9		SK235	1989.12	33-199	5	A
FMR-2-213	坏	土師器	平安	40	口径13.0mm 底径6.8mm 器高3.8		SK235	1989.12	33-200	5	A
FMR-2-214	坏	土師器	平安	20	未計測		SK235	1989.12	—	5	B
FMR-2-215	皿	土師器	平安	95	口径15.8mm 底径10.2mm 器高1.9		SK235	1989.12	33-201	5	A
FMR-2-216	フイゴ羽口	土製品	平安	不明	残存長14.2mm 残存幅8.0mm		SK235	1989.12	33-202	5	A
FMR-2-217	坏(口縁部破片)	土師器	平安	不明	未計測		SK237	1989.12	—	5	B
FMR-2-218	把手破片	土師器	平安	不明	未計測		SK246	1989.12	—	5	B
FMR-2-219	鉢(口縁部破片)	土師器	平安	不明	未計測		SK248	1989.12	—	5	B
FMR-2-220	鉢等破片一括	土師器	平安	不明	未計測		SK249	1989.12	—	5	B
FMR-2-221	坏等破片一括	土師器	平安	不明	未計測		SK250	1989.12	—	5	B
FMR-2-222	坏	須恵器	奈良	10	未計測		SK252	1989.12	—	5	B
FMR-2-223	坏	須恵器	古墳	10	未計測		SK253	1989.12	—	5	B
FMR-2-224	砥石	石製品	不明	不明	未計測		P-4	1989.12	—	5	B
FMR-2-225	坏	土師器	平安	ほぼ完形	口径12.1mm 底径8.2mm 器高3.1		P-32	1989.12	34-187	5	A
FMR-2-226	蓋	土師器	奈良	20	口径21.0mm 器高1.8mm		P-32	1989.12	34-189	5	A
FMR-2-227	碗	土師器	平安	20	未計測		P-34	1989.12	—	5	B
FMR-2-228	蓋	土師器	奈良	20	口径14.8mm 器高1.8mm		P-39	1989.12	34-190	5	A

古村遺跡(2区)I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	発掘番号	コナリ番号	A・Bの別
FMR-2-229	土鏝	土製品	不明	ほぼ完形	残存長 6.5	最大幅 1.3	P-39	1989.12	34-181	5	A
FMR-2-230	皿	土師器	奈良～平安	10	未計測		P-45	1989.12	—	5	B
FMR-2-231	皿	土師器	奈良～平安	20	口径19.8㎜	底径16.4㎜ 器高 1.5	P-47	1989.12	34-188	5	A
FMR-2-232	碗(底部破片)	土師器	平安	不明	口径—	底径 8.6㎜ 器高 1.8㎜	P-49	1989.12	34-192	5	A
FMR-2-233	坏	須恵器	奈良	50	口径—	底径— 器高 2.1	P-61	1989.12	34-183	5	A
FMR-2-234	皿	土師器	奈良～平安	不明	未計測		遺構上面	1989.12	—	5	B
FMR-2-235	壺	須恵器	古墳	80	口径11.0㎜	底径 5.1 器高12.5	カクラン	1989.12	32-188	5	A

古村遺跡(2区) I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	工号	袋数	備考
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SH201・202, SK203・204 SK207・208・209	1989. 12	6	10	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SK211・212・214	1989. 12	7	10	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SK215・216・217	1989. 12	8	11	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SK217・218	1989. 12	9	8	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SK219, SH220, SE221	1989. 12	10	11	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SE221, SK222・223	1989. 12	11	11	
FMR-2	土師器破片・石	古墳~平安	SK223・224	1989. 12	12	8	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SK225・226	1989. 12	13	11	
FMR-2	土師器破片・石	古墳~平安	SK226	1989. 12	14	12	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SK227・228・230・231・232 SK234・235・236・237・238	1989. 12	15	11	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	SD239・240, SK241・242 SK243・244・245・246・247 SD248, SK249・250・251 SK252・253・254・255・256	1989. 12	16	18	
FMR-2	土師器破片	古墳~平安	P-1~56, P-58~60, P-62~64 遺構上面, カクラン, 表採	1989. 12	17	65	

古村遺跡(2区) II種

佐賀市文化財調査報告書第28集
南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡
牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡

平成2年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 (有)昭和堂印刷
佐賀市神野西4-1-32